

# 元総社寺田遺跡Ⅲ

一級河川牛池川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

〈木 器 編〉

- 1996 -

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



もと　　そう　　じゃ　　てら　　だ  
元　総　社　寺　田　遺　跡　Ⅲ

一級河川牛池川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

《木　器　編》

- 1996 -

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 例 言

1. 本書は一級河川牛池川河川改修工事に伴い、記録保存を前提として事前に調査した「元総社寺田遺跡」VI区・VII区の発掘調査報告書第3集〈木器編〉である。
2. 遺跡の所在、調査期間及び担当者等は〈本編〉参照。
3. 報告書作成関係者  
編 集 藤巻幸男  
本文執筆 II 友廣哲也 藤巻幸男、III 藤根 久（株式会社パレオ・ラボ） 藤巻幸男  
遺物写真 佐藤元彦  
遺物観察 友廣哲也 藤巻幸男  
木器作図及びプレパラート作成 高橋節子 生果由美子 五十嵐由美子 伊藤博子 狩野なつ子
4. 出土遺物、図面等の資料類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

## 凡 例

1. 木器実測図の番号は通番とし、所属時期や出土層位・遺構は図版毎にキャプションを付した。詳細は観察表（55～66ページ）参照。
2. 木器実測図の縮尺は1：4を基本としたが、人形・斎串については1：2、大型の木器については1：8、1：16とした。
3. 出土材には、①器種が認定できる木器、②人為的な加工痕が認められるもの、③自然木が含まれている。当事業団ではこれらを現地で水洗い選別し、①と②についてはスナップ写真とスケッチ図を作成してカード化し、③についてはサンプルを採取しデータ化をはかっている。このうち、実測図を作成して資料化するの①を主としているが、②・③についてもプレパラートを作成し、同一時期の樹種構成や周辺の環境、①との関連等を検討する材料としている。  
IIの表1～表12の「取上№」項目の番号は現地作業時の通番で、「図版」項目の番号が掲載した実測図の番号にあたる。
4. ここに掲載した木器類の出土状況については、付図3（VI区低地古墳時代の遺物出土状況）、付図4（VI区低地奈良～平安時代の遺物出土状況）、及び〈本編〉を参照されたい。
5. 本報告書〈本編〉に掲載した木器は、基本的に〈木器編〉の図を1：2で使用し、〈木器編〉の番号をそのまま使用している。



# 目 次

## I 出土木器

第1図～第13図	奈良・平安時代の木器（Ⅵ区Ⅲ層出土）……………	1～13
	ただし、第3図37はⅥ区Ⅳ層下、第8図75・82はⅥ区Ⅴ層出土	
第14図～第45図	古墳時代の木器（Ⅵ区Ⅴ層出土）……………	14～45
	ただし、第41図271～273はⅥ区Ⅳ層下出土	
第46図～第52図	江戸時代以降の木器（Ⅶ区井戸・土坑・河道跡出土）……………	46～52
第53図・第54図	古墳時代の木器（Ⅶ区低地Ⅴ～Ⅶ層出土）……………	53・54

## II 木器観察表……………55～64

## III 樹種同定

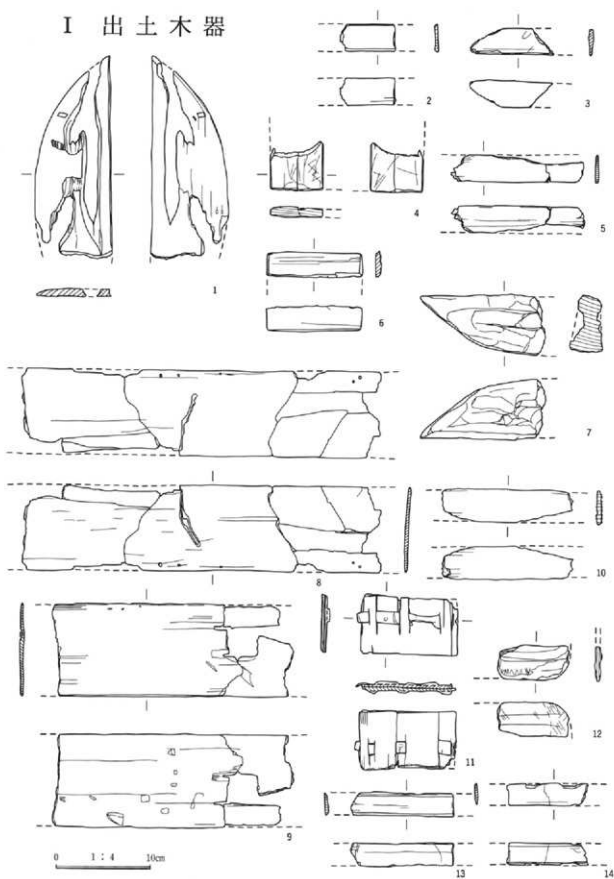
1. はじめに……………	65
2. 方法と記載……………	65
3. まとめ……………	78
4. 本資料使用上の留意点……………	80
表1～表17……………	80～91
図版1～図版23……………	93～115

## 写真図版……………P L 1～P L 33



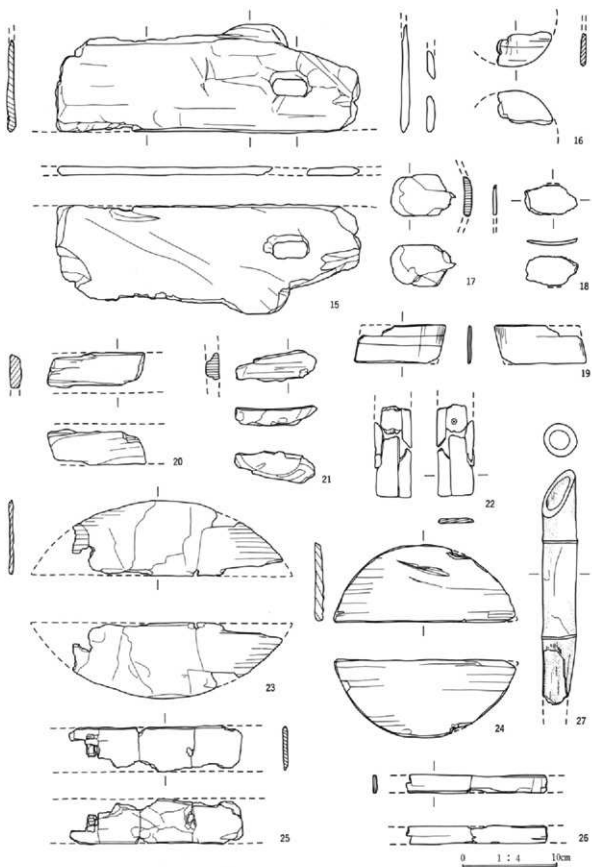


I 出土木器

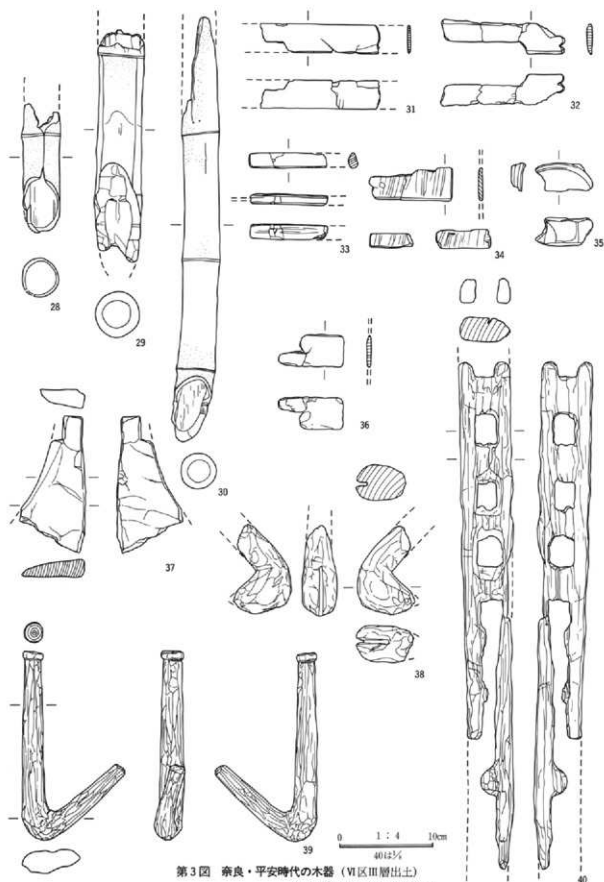


第1図 奈良・平安時代の木器 (Ⅵ区Ⅲ層出土)

I 出土木器



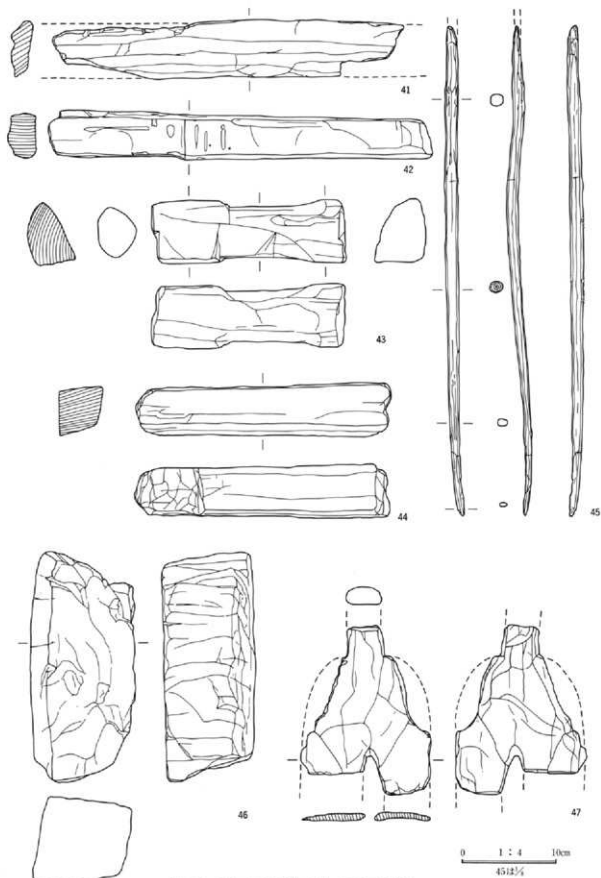
第2図 奈良・平安時代の木器（VI区III層出土）



第3図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

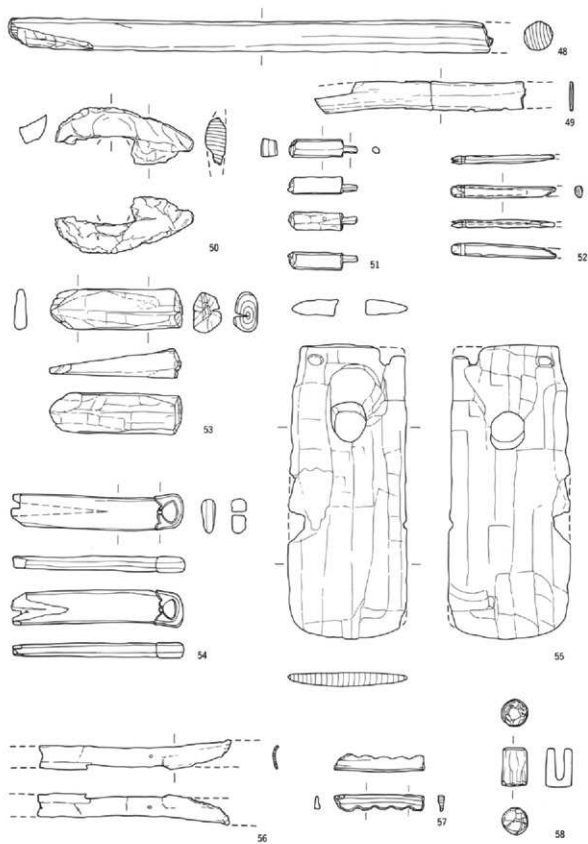
37は埋層下出土、40は新河道出土

I 出土木器



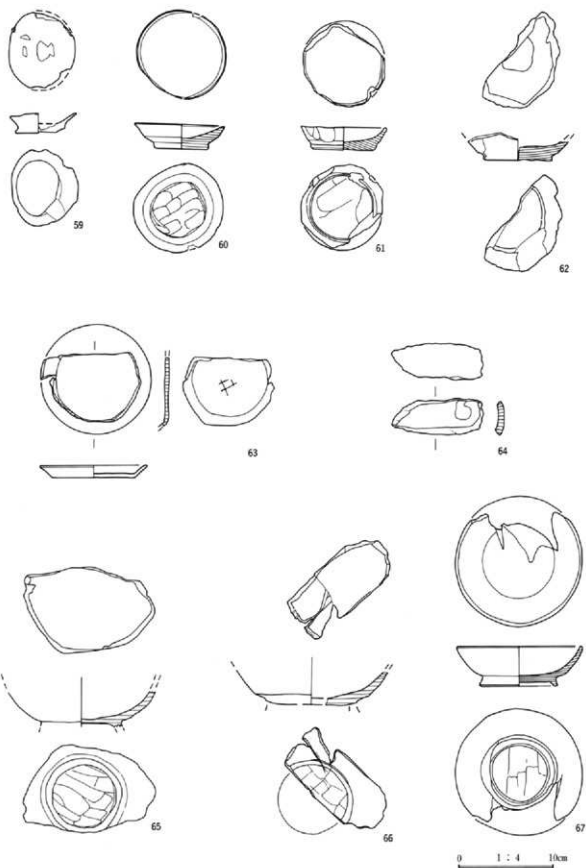
第4図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

I 出土木器



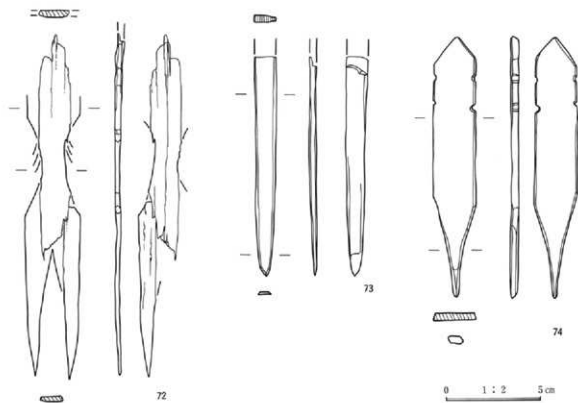
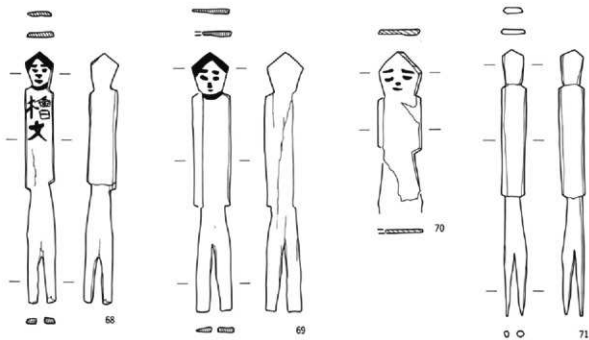
第5図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

1 出土木器



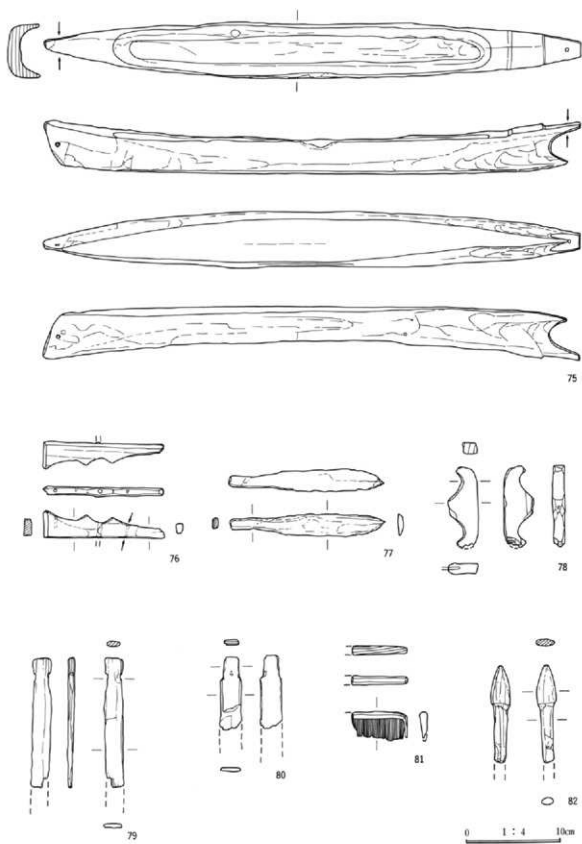
第6図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

I 出土木器



第7図 奈良・平安時代の木器（VI区III層出土）

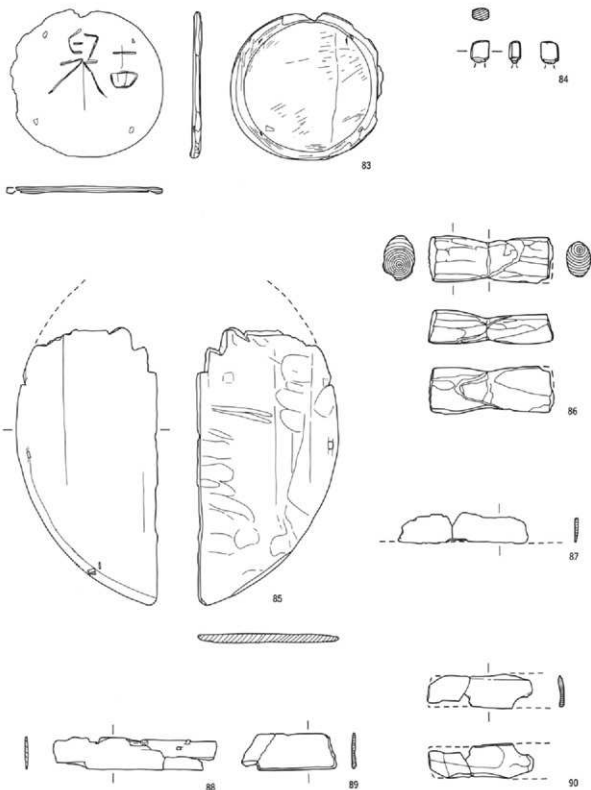
I 出土木器



第8図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)  
75・82はVI層出土



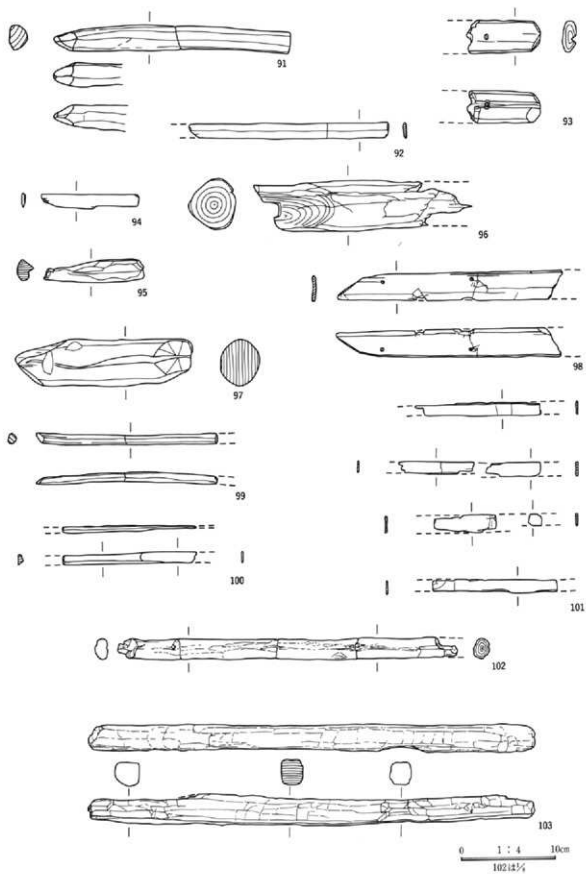
I 出土木器



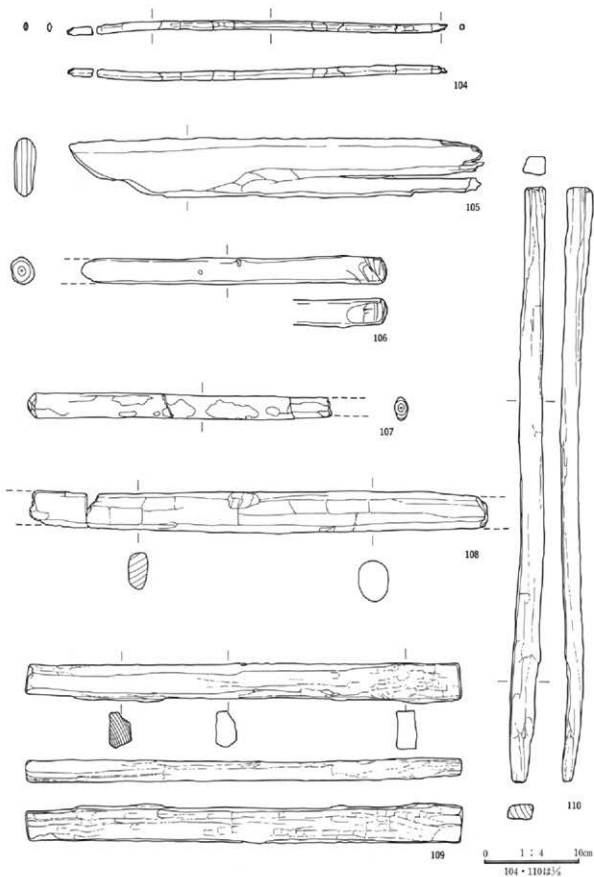
0 1 : 4 10cm

第9図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

I 出土木器

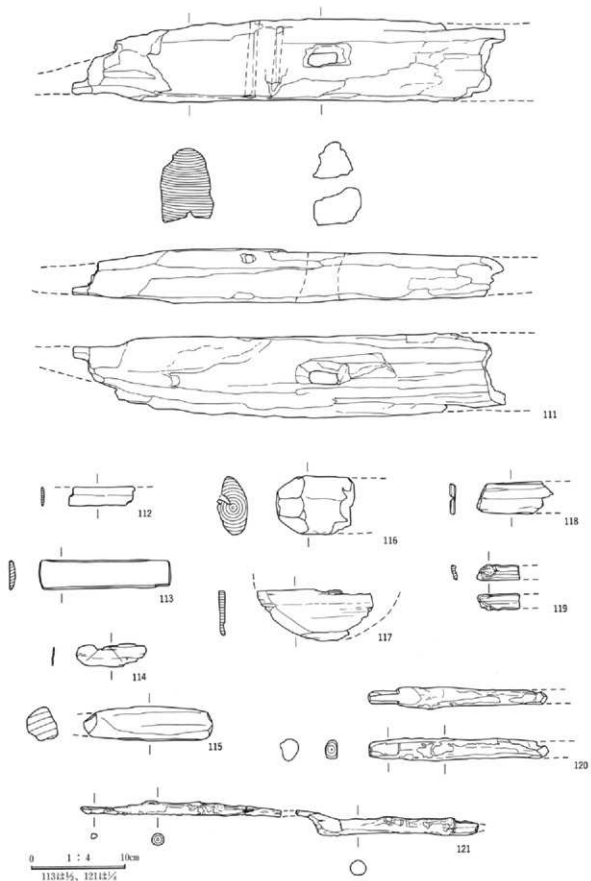


第10図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

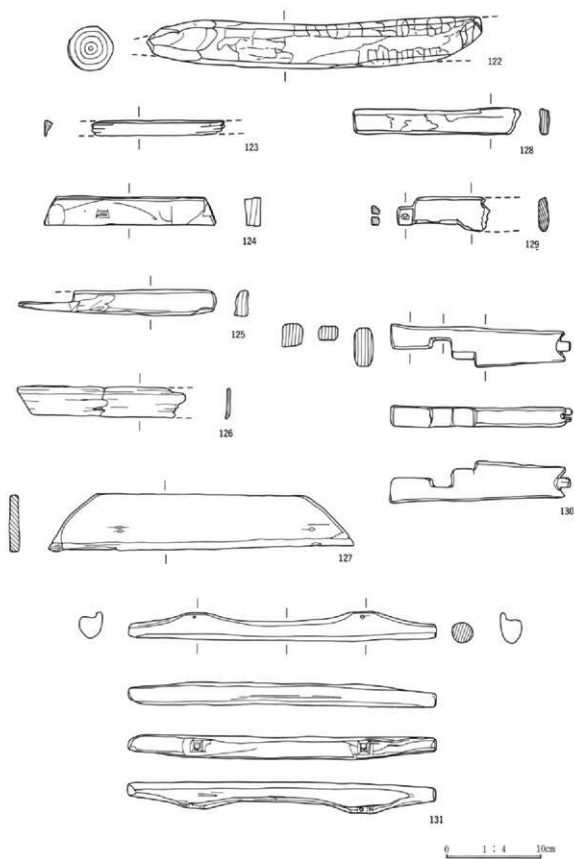


第11図 奈良・平安時代の木器（VI区III層出土）

I 出土木器

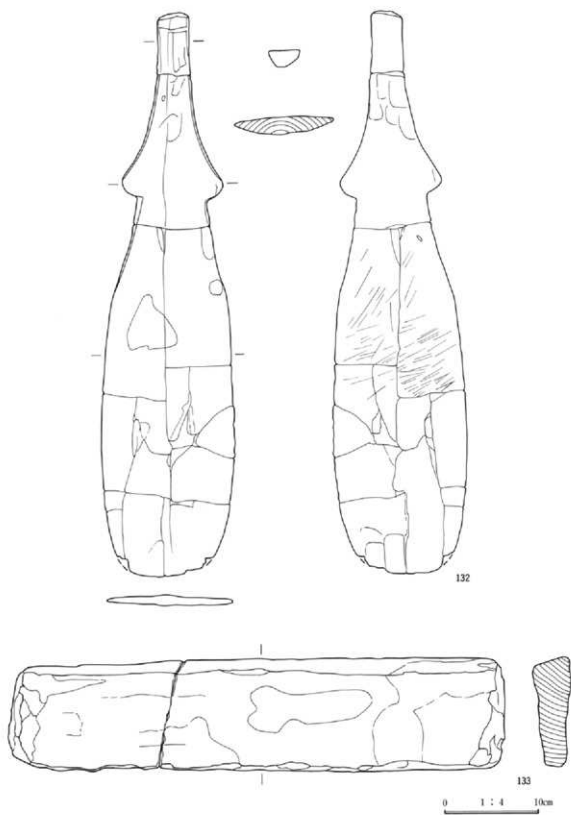


第12図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

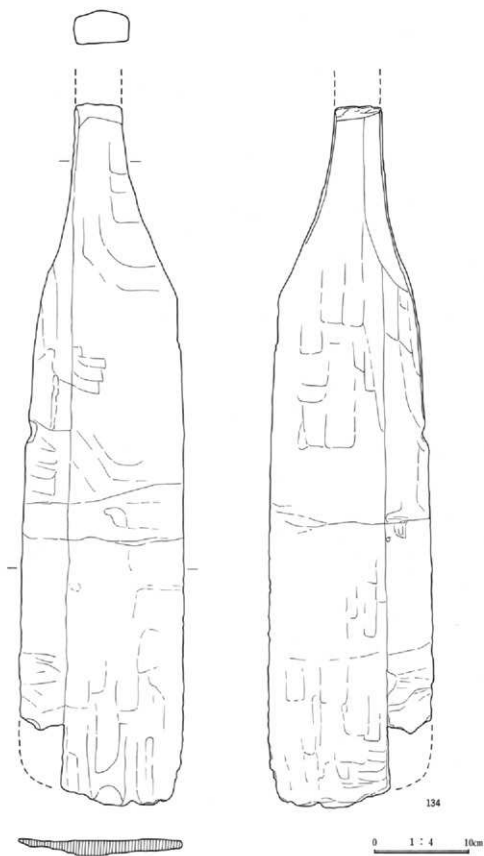


第13図 奈良・平安時代の木器 (VI区III層出土)

I 出土木器

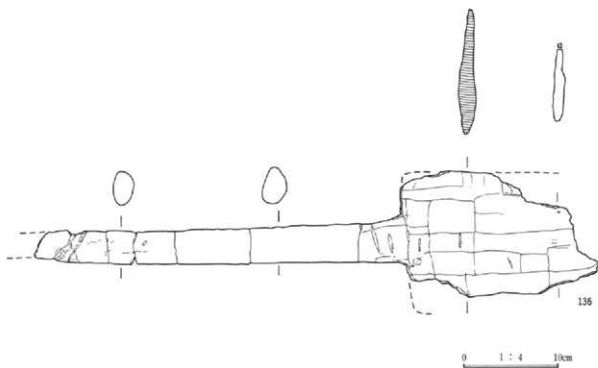
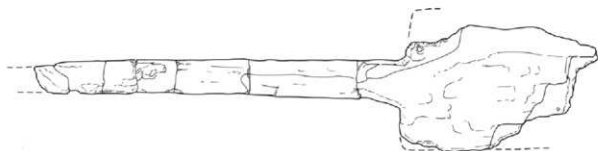
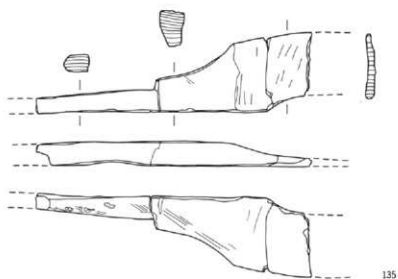


第14図 古墳時代の木器 (Ⅵ区Ⅵ層出土)



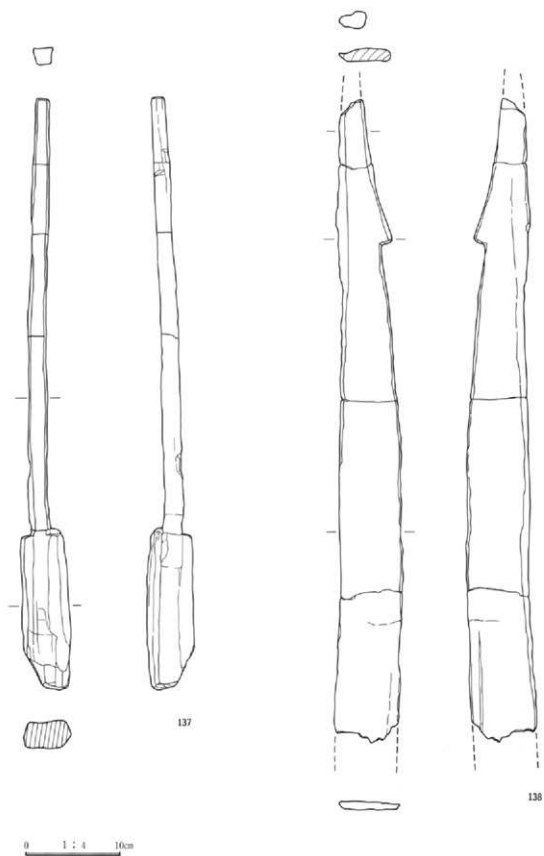
第15図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

I 出土木器



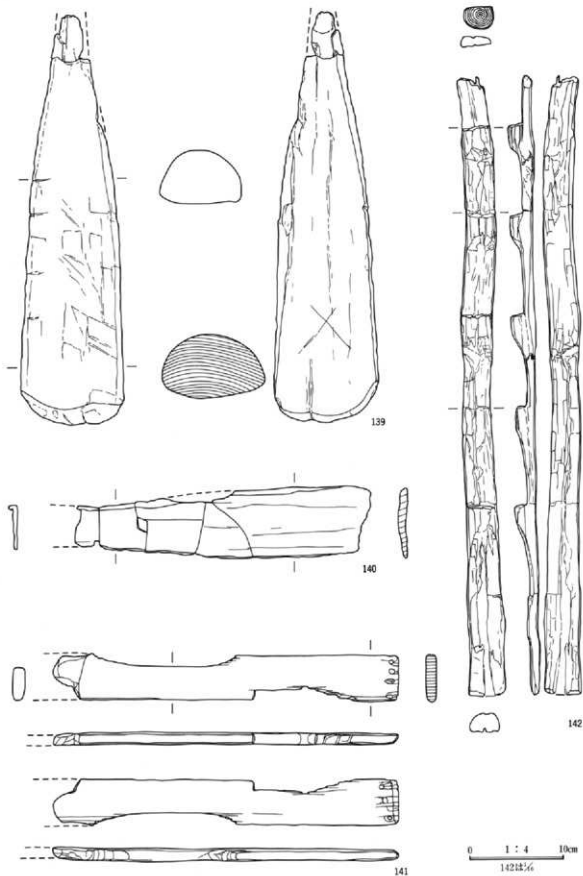
第16図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



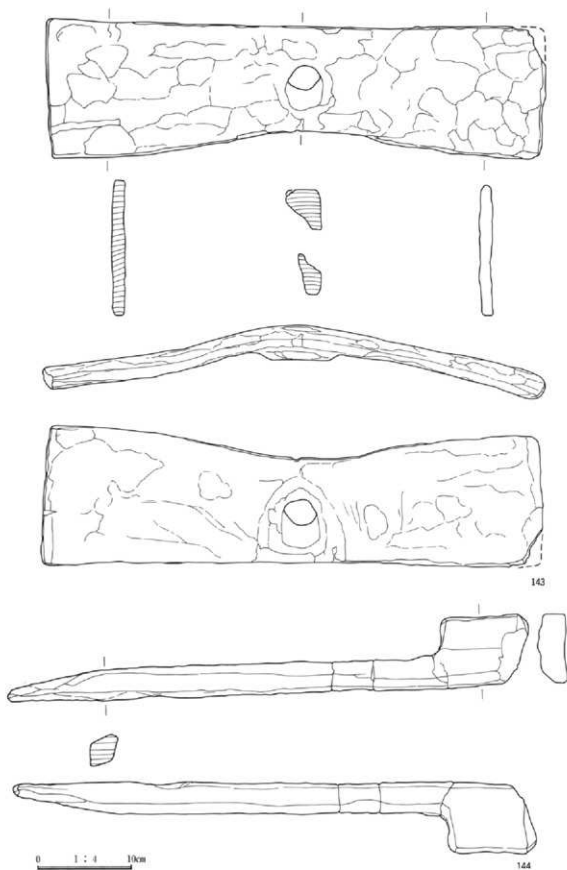


第17図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

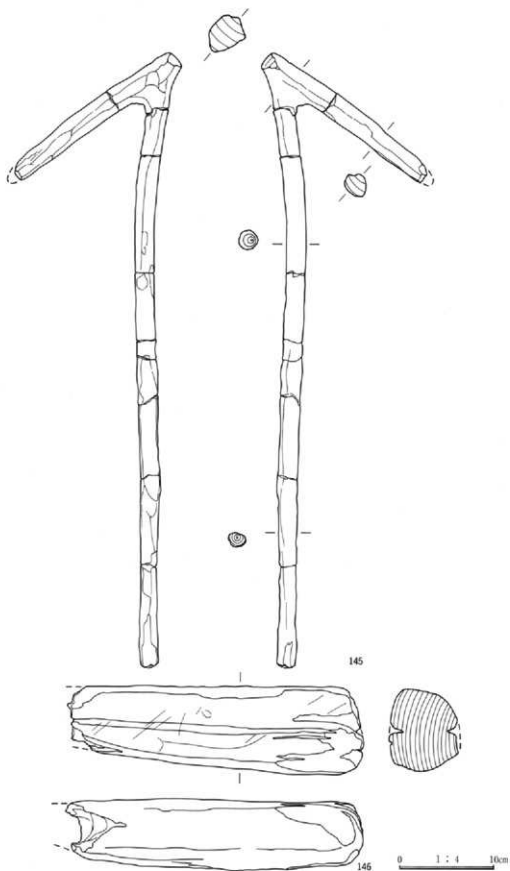
I 出土木器



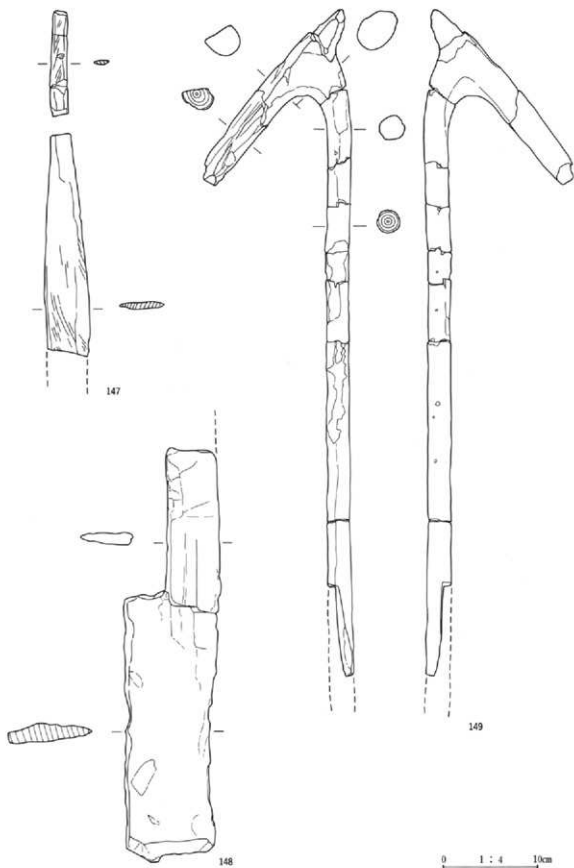
第18図 古墳時代の木器 (Ⅵ区Ⅵ層出土)



第19図 古墳時代の木器（Ⅵ区Ⅵ層出土）

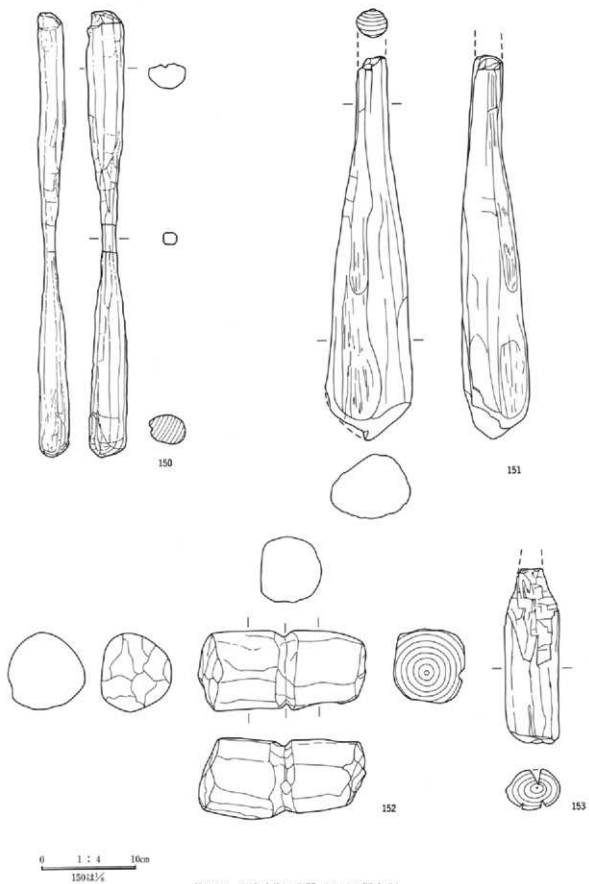


第20図 古墳時代の木器 (Ⅶ区Ⅶ層出土)

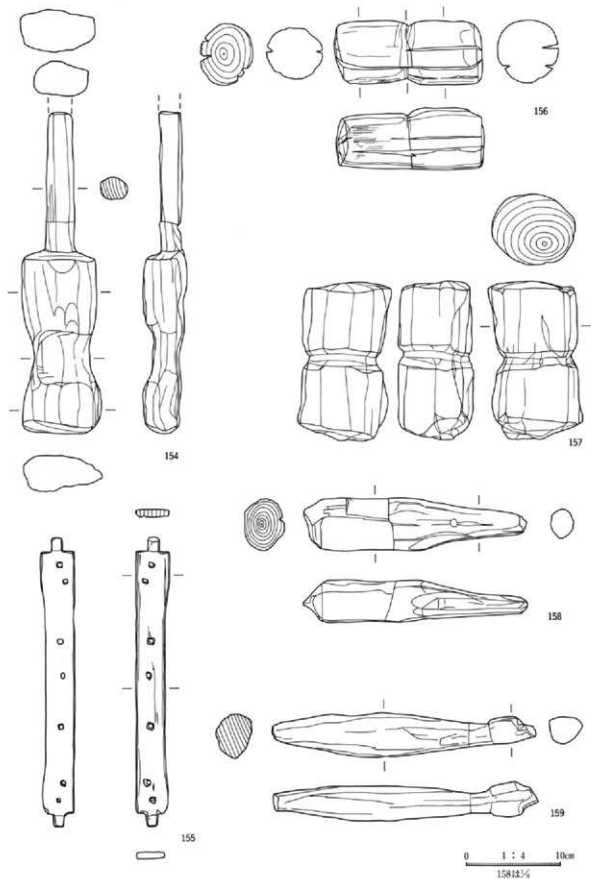


第21図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

1 出土木器

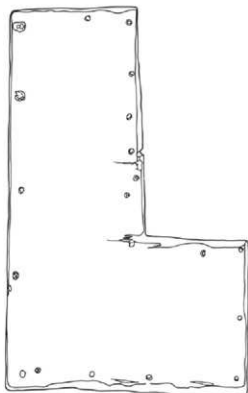
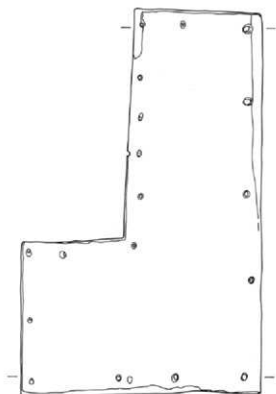
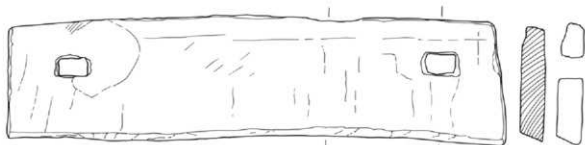


第22図 古墳時代の木器（VI区VI層出土）



第23図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

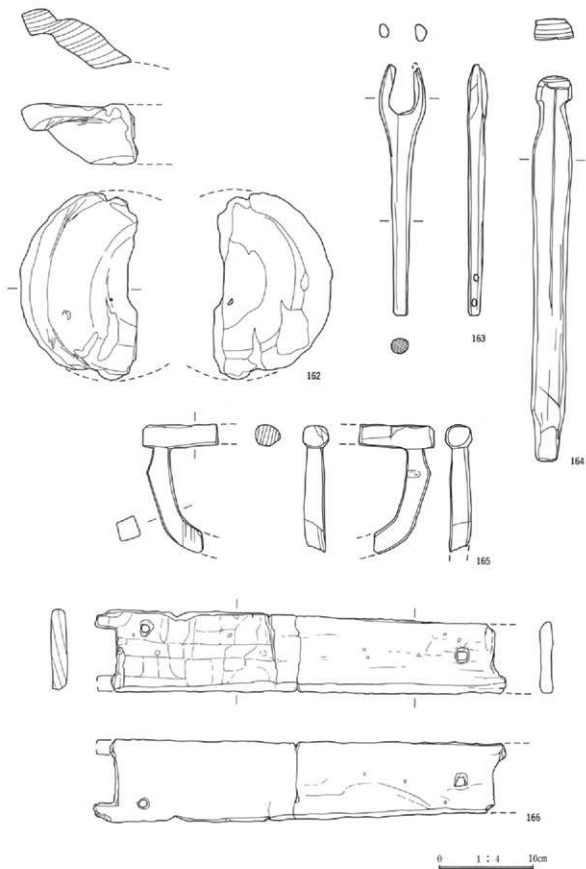
I 出土木器



0 1:4 10cm

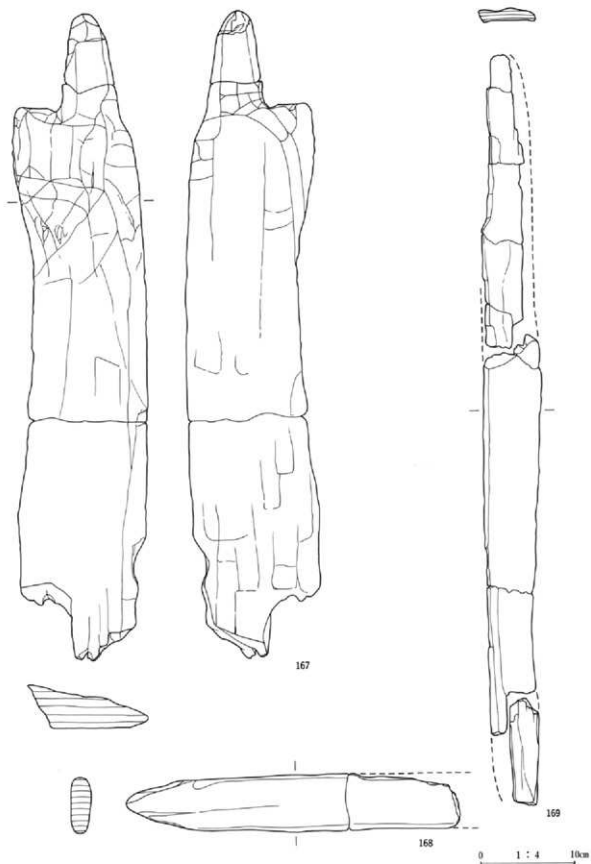
第24図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



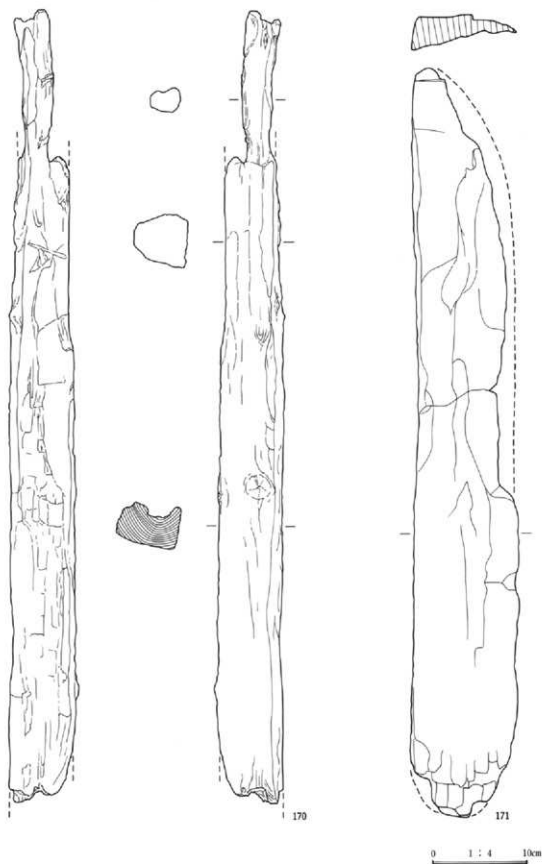


第25図 古墳時代の木器（Ⅵ区Ⅵ層出土）

I 出土木器

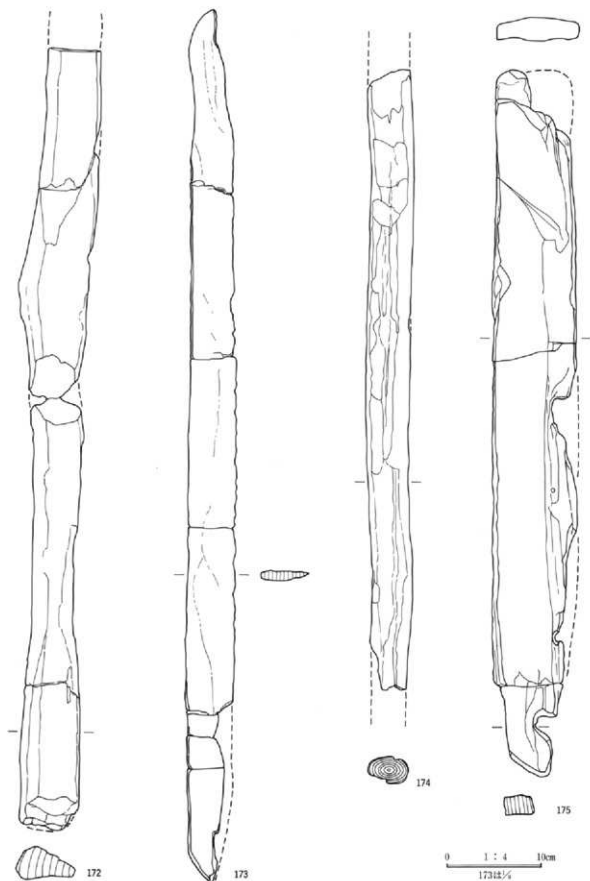


第26図 古墳時代の木器（Ⅵ区Ⅵ層出土）



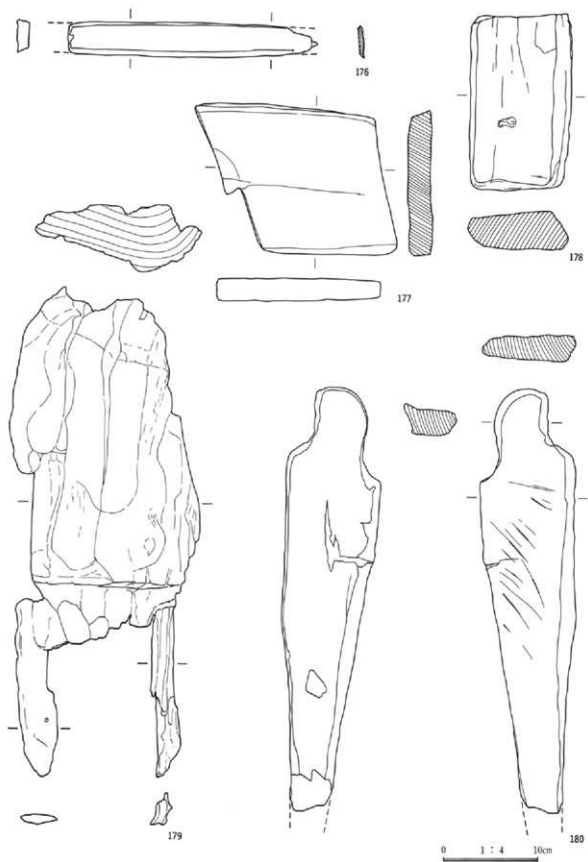
第27図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

I 出土木器



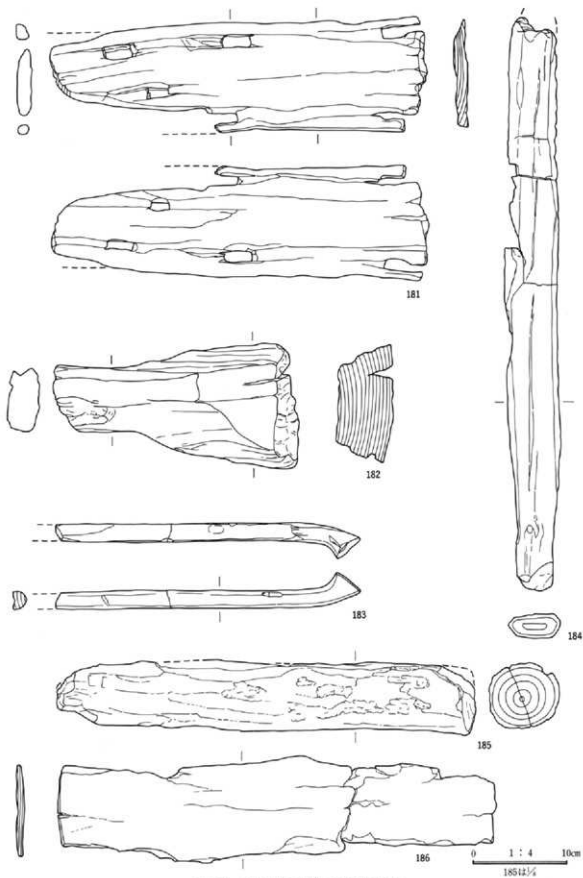
第28図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

I 出土木器



第29図 古墳時代の木器（Ⅵ区Ⅵ層出土）

I 出土木器

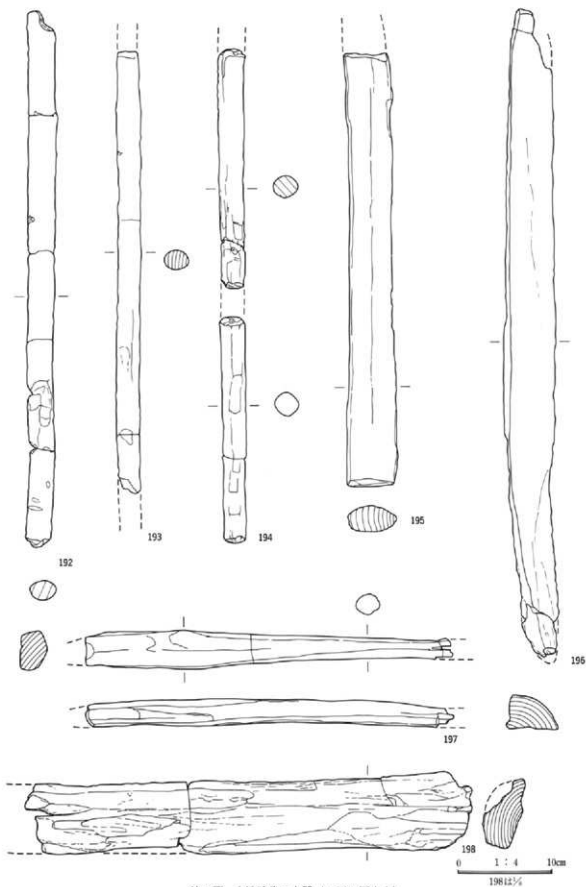


第30図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



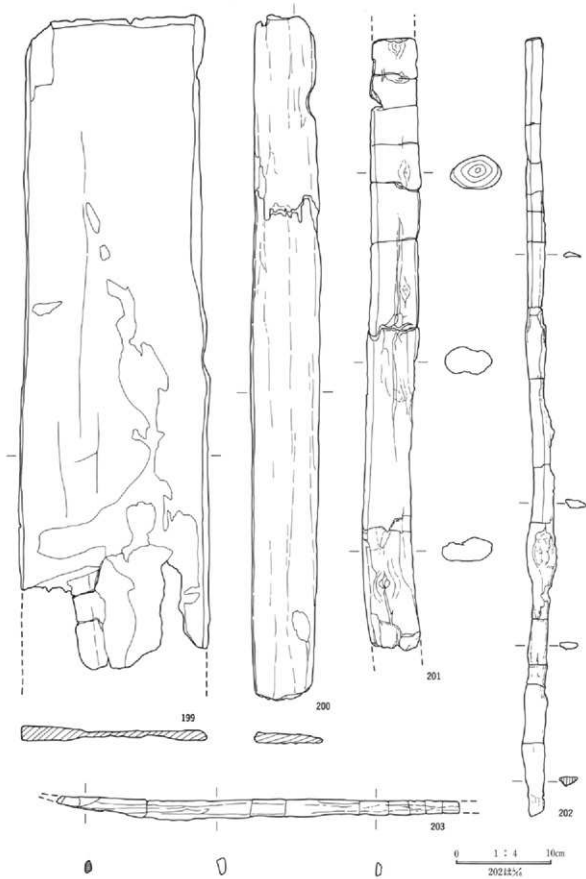
第31図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

1 出土木器



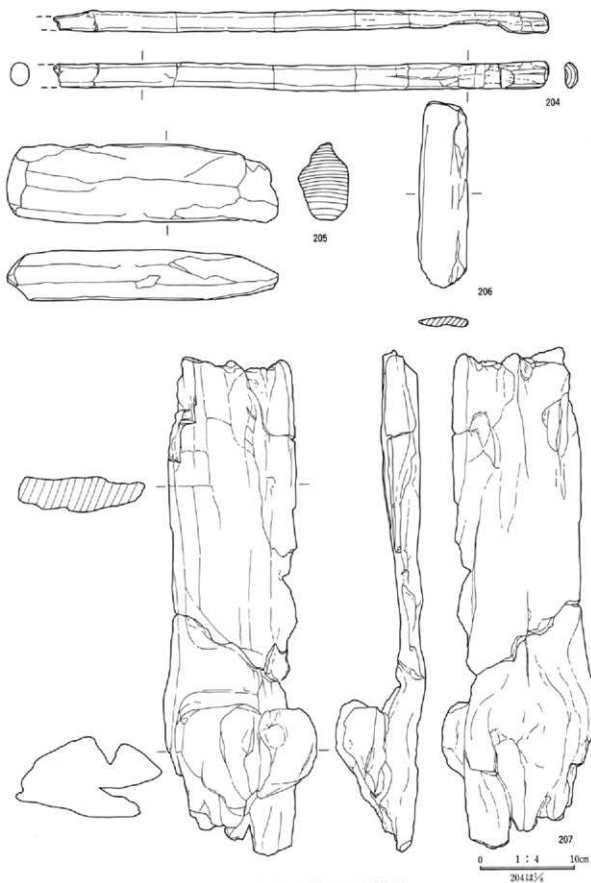
第32図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



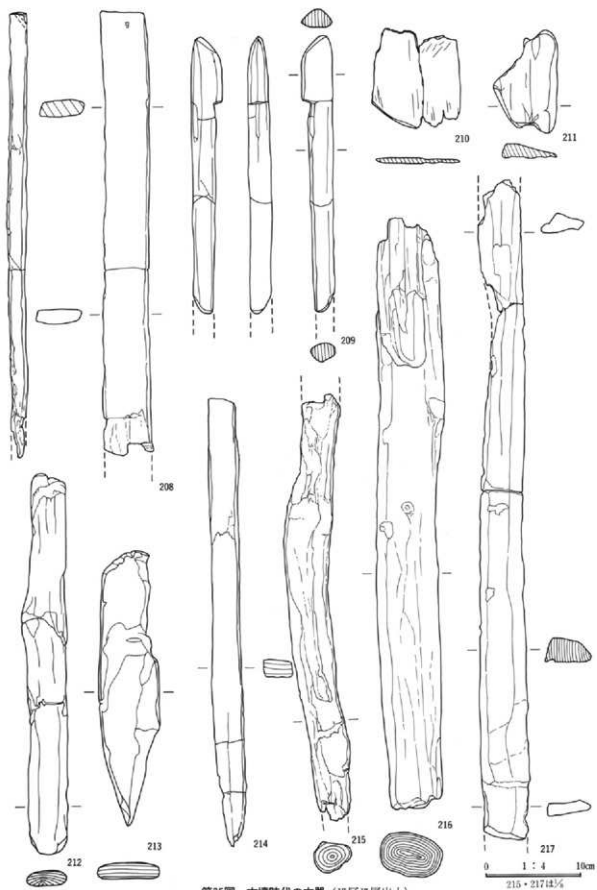


第33図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

I 出土木器

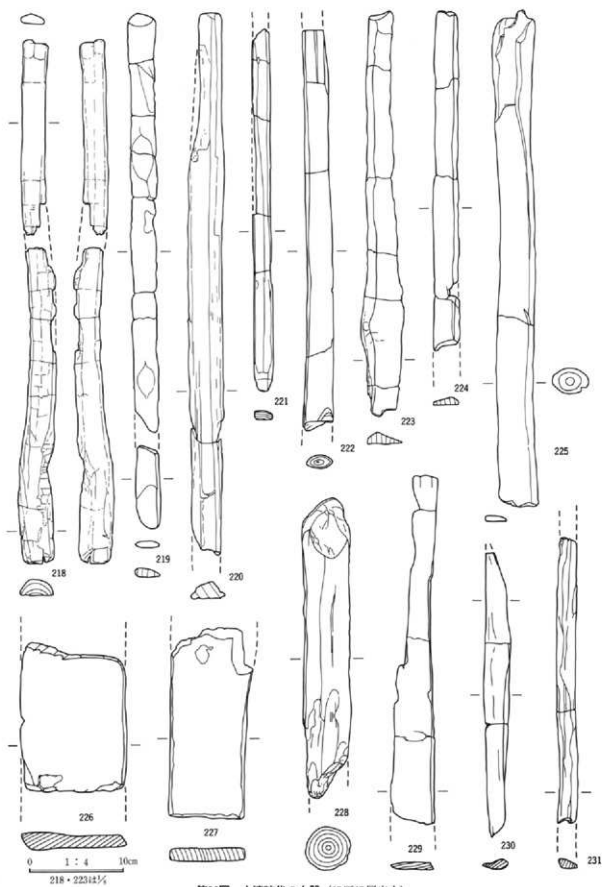


第34図 古墳時代の木器 (Ⅵ区Ⅵ層出土)

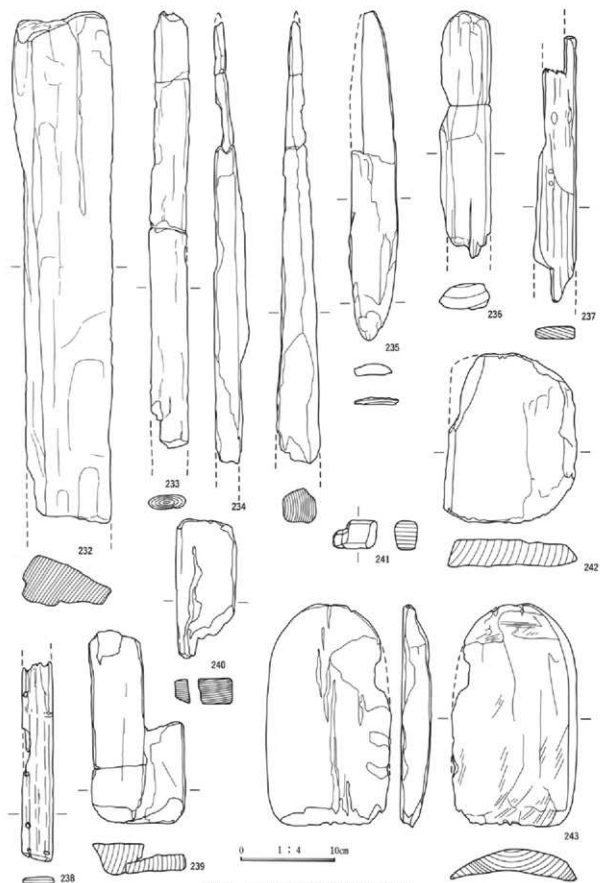


第35図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

I 出土木器

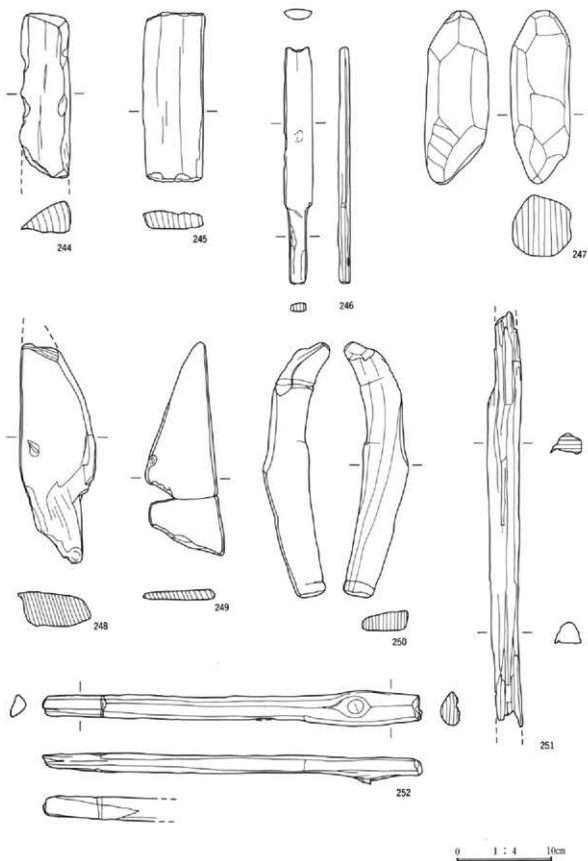


第36図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

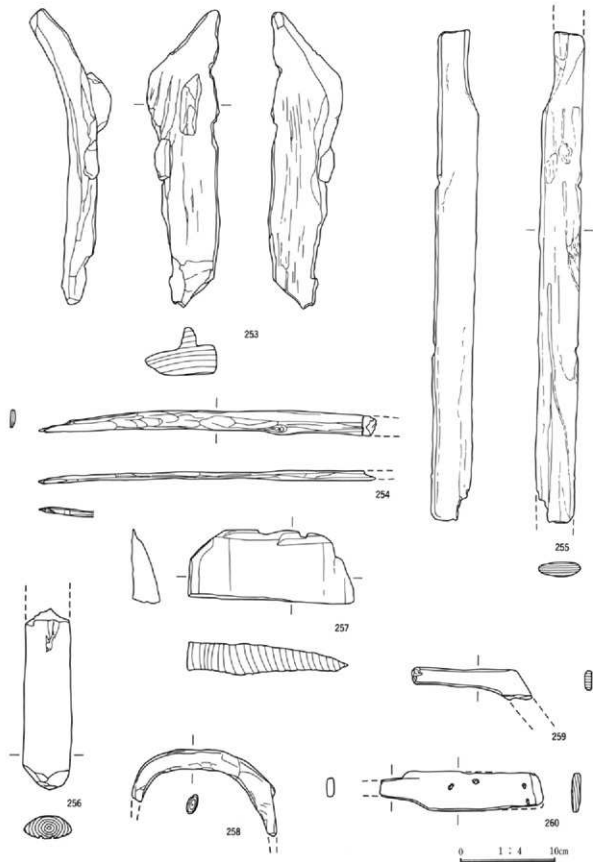


第37図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

1 出土木器

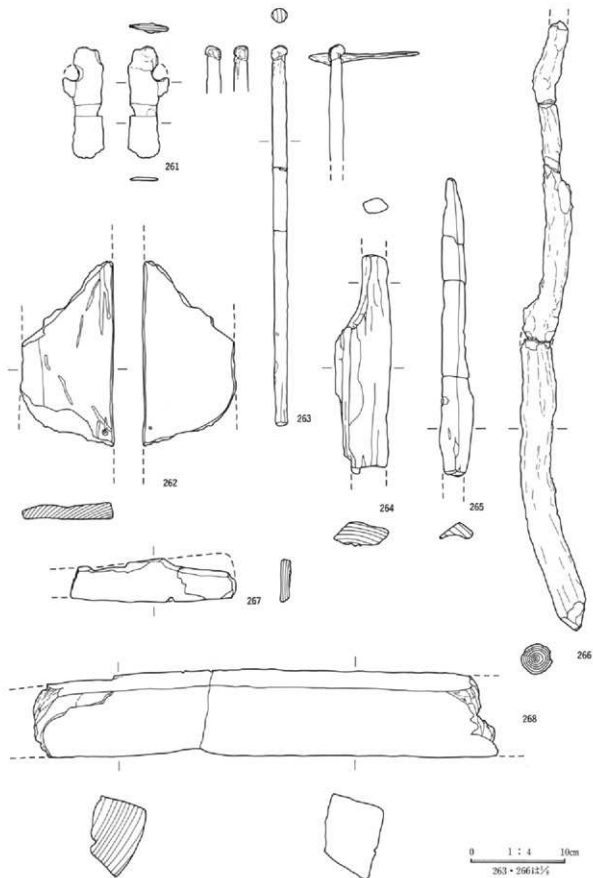


第38図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



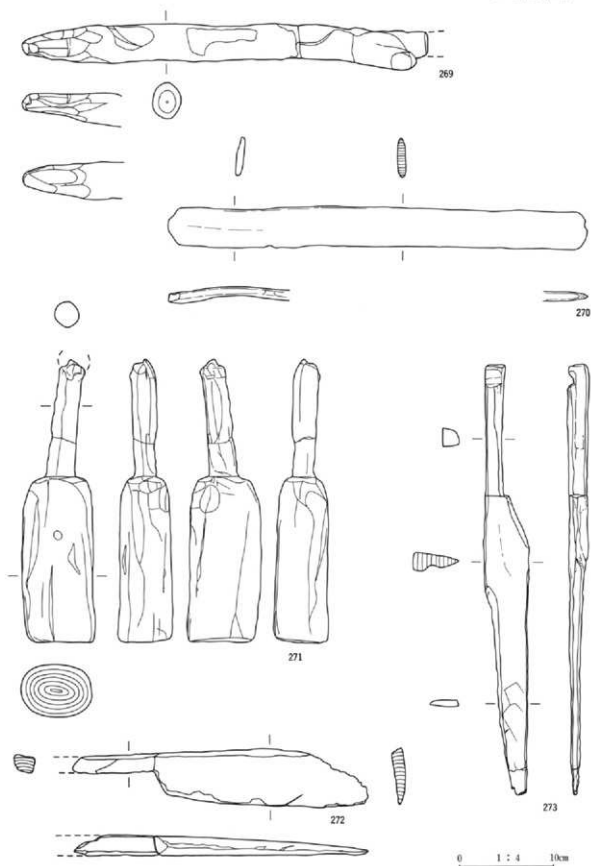
第39図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

I 出土木器



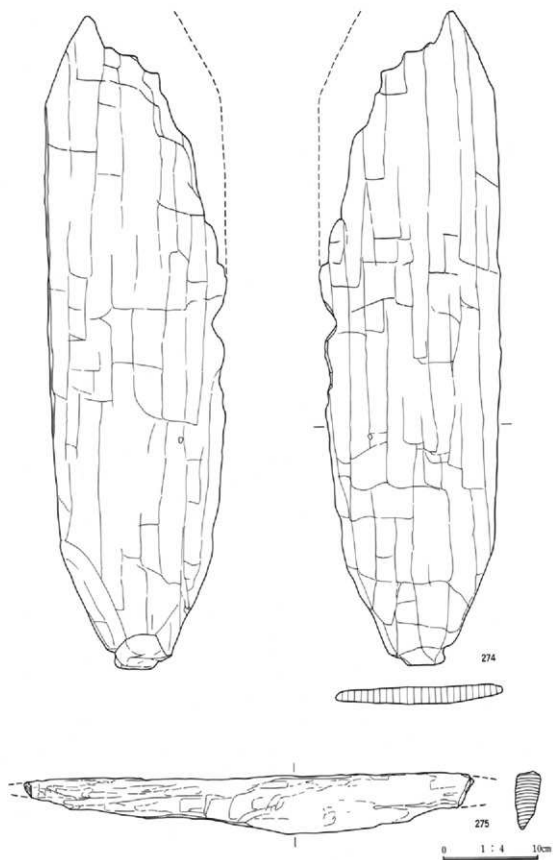
第40図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)





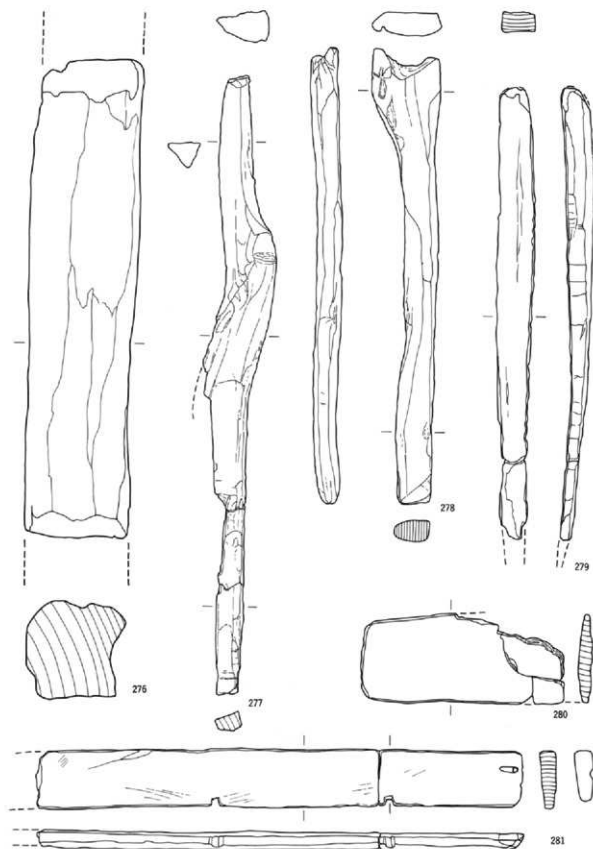
第41図 古墳時代の木器 (269・270はⅣ区Ⅴ層出土その他はⅣ区Ⅵ層下出土)

I 出土木器



第42図 古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

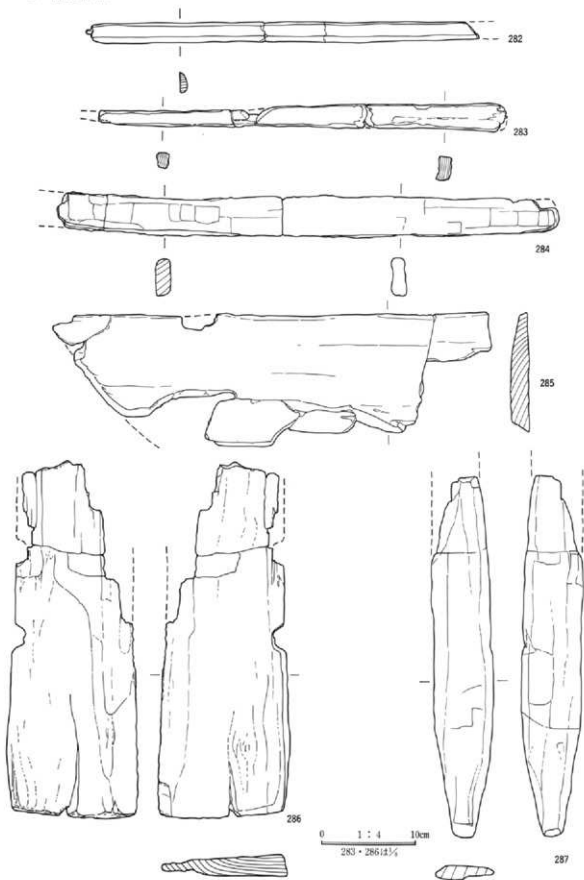
I 出土木器



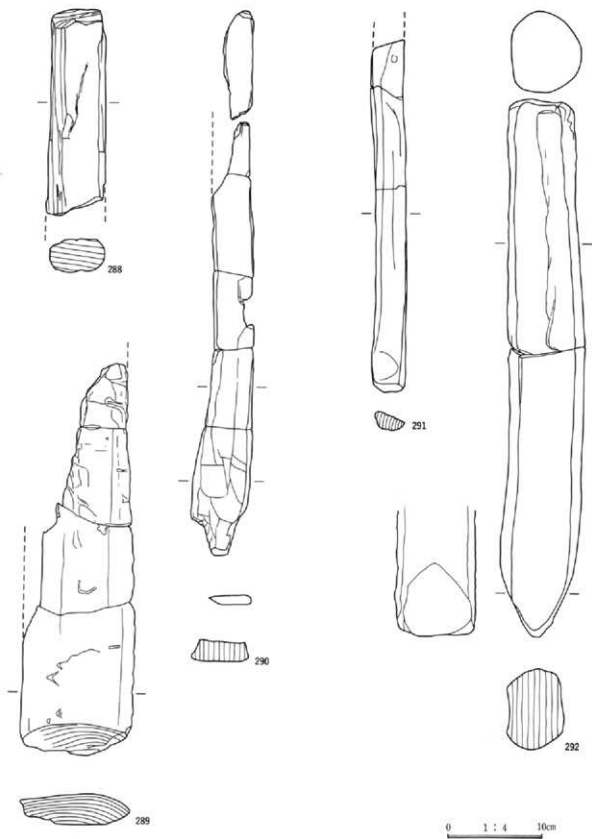
0 1 : 4 10cm  
276は1/4、277・278は1/2

第43図 古墳時代の木器 (Ⅶ区Ⅵ層出土)

I 出土木器

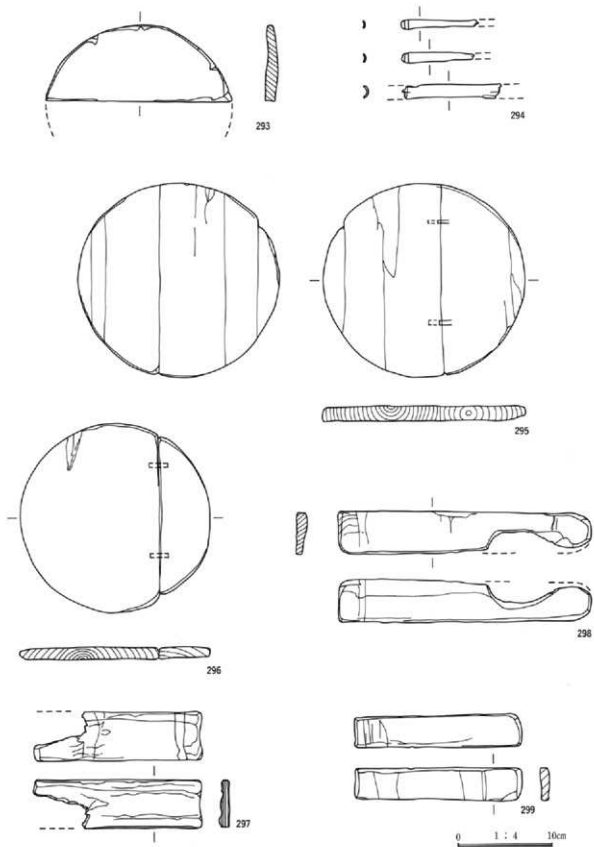


第44図 古墳時代の木器 (Ⅵ区Ⅵ層出土)

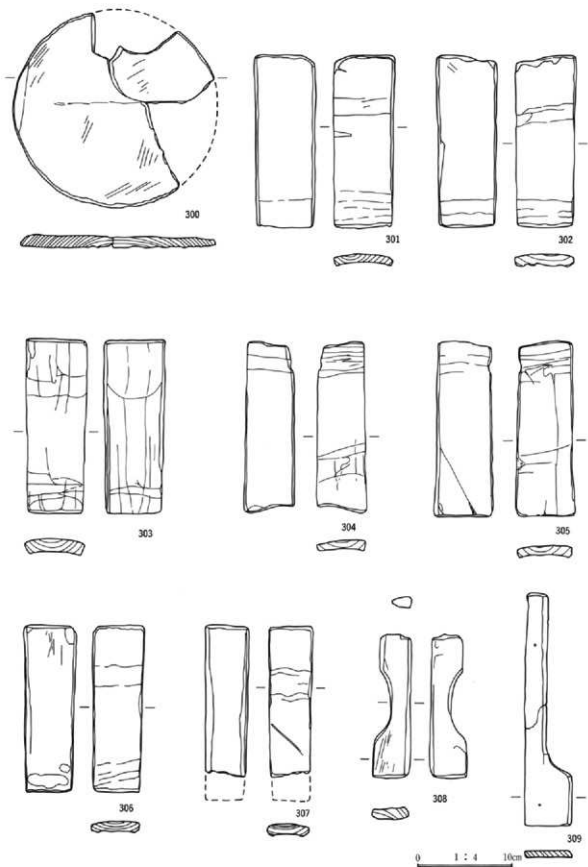


第45図 古墳時代の木器（VI区VI層出土）

1 出土木器

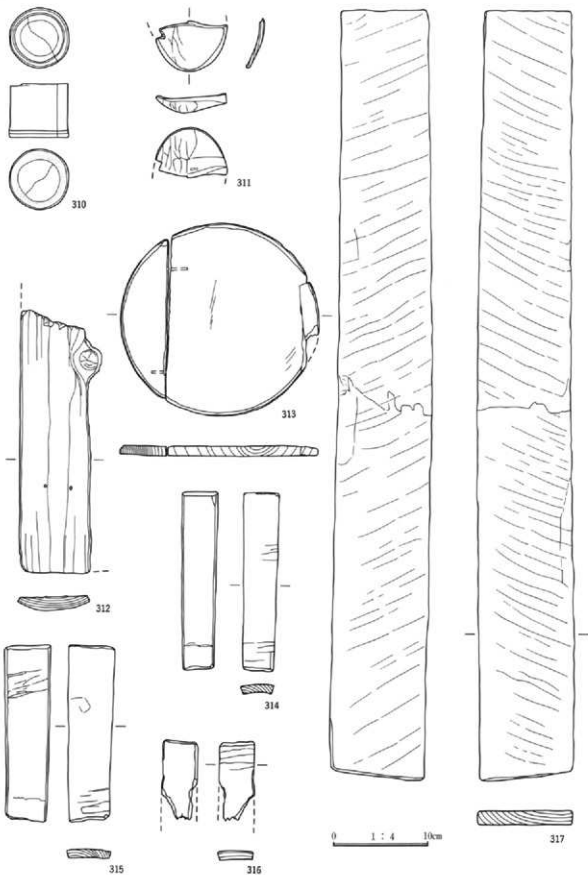


第46図 江戸時代以降の木器 (293・294はⅡ区2号井戸、その他はⅡ区3号井戸出土)



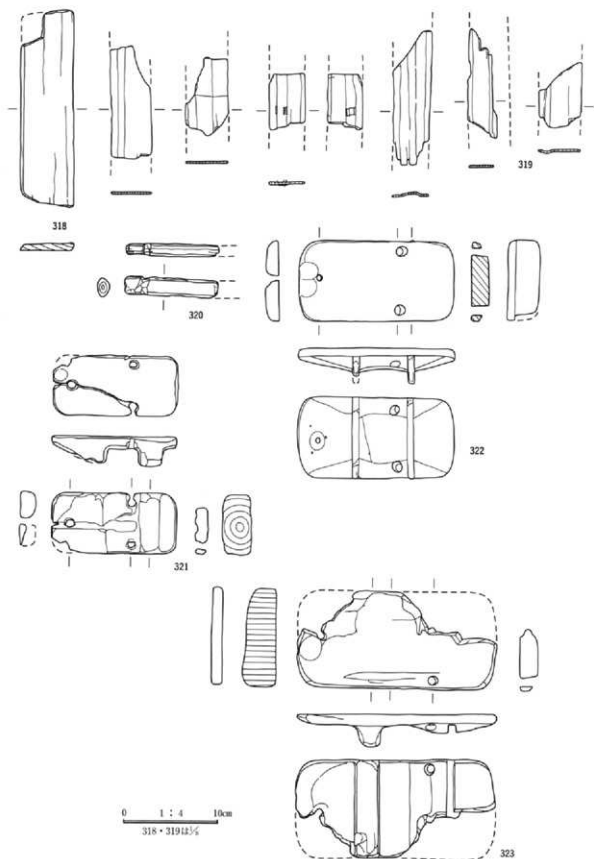
第47図 江戸時代以降の木器 (雑区3号井戸出土)

I 出土木器



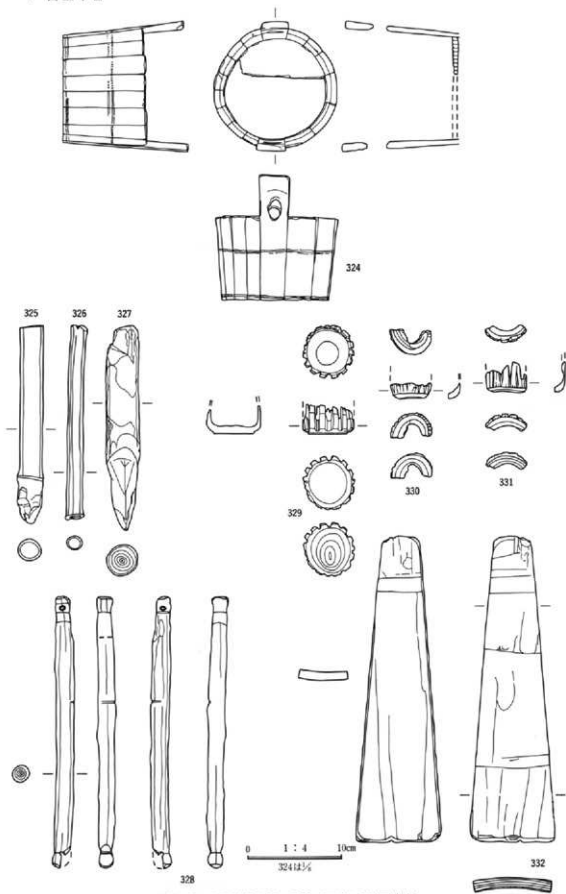
第48図 江戸時代以降の木器 (310~312・317はW区4号井戸313~316はW区6号井戸出土)





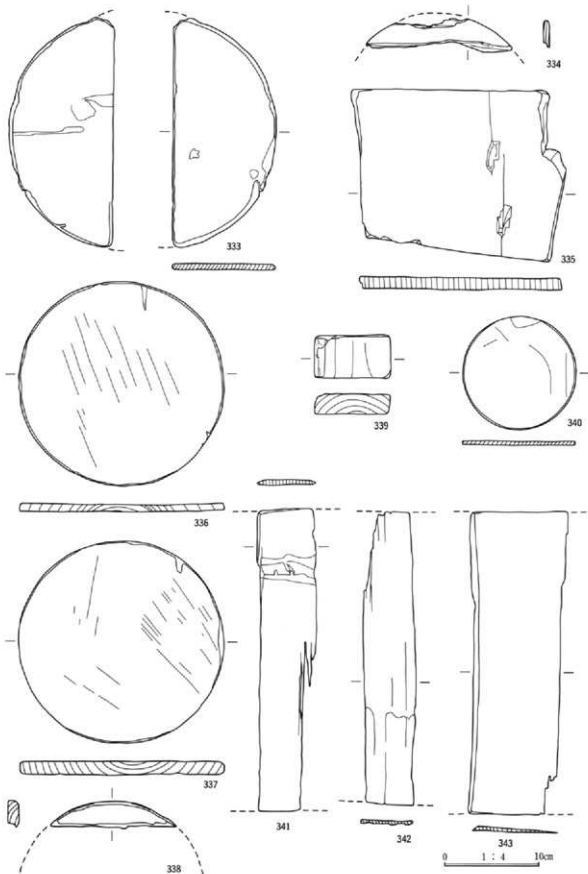
第49図 江戸時代以降の木器 (318～320は町区8号井戸321～323は町区9号井戸出土)

I 出土木器



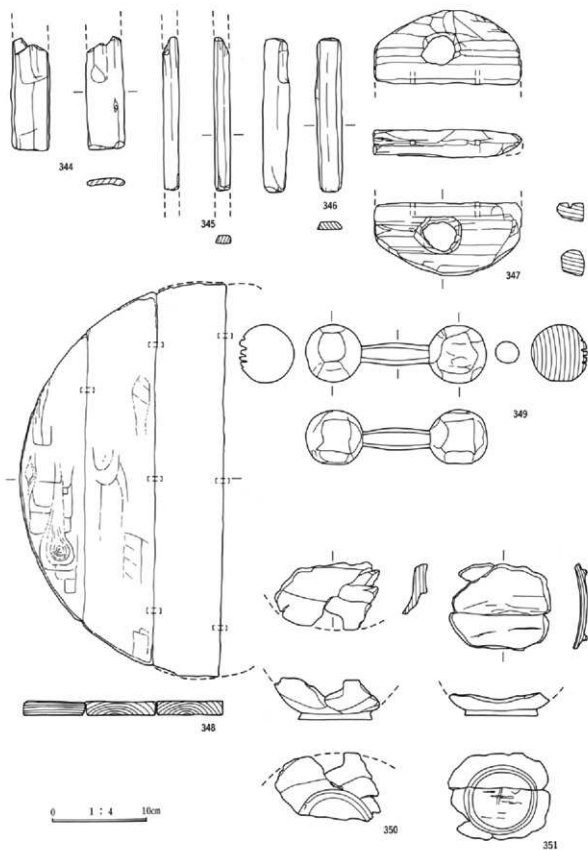
第50图 江戸時代以降の木器（Ⅱ区9号井戸出土）

I 出土木器



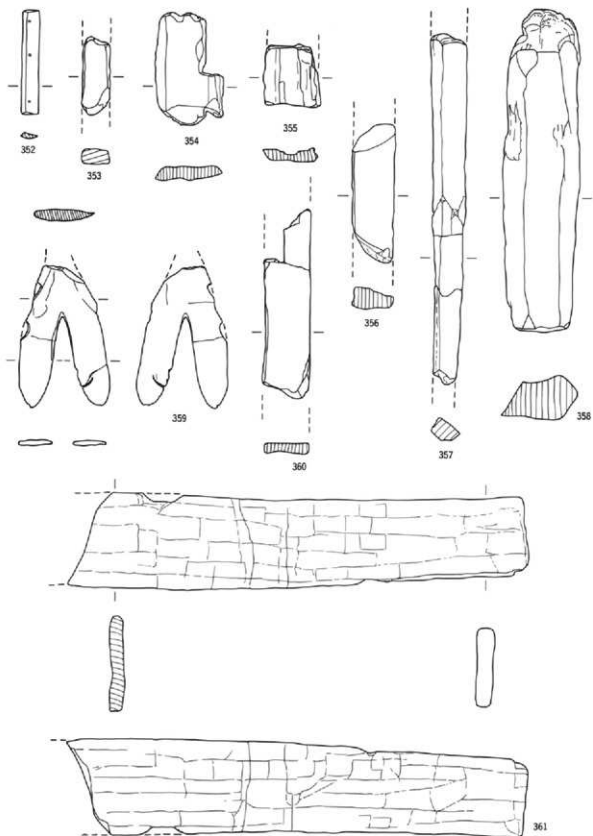
第51図 江戸時代以降の木器 (333~335はⅡ区9号井戸336~343はⅡ区10号井戸出土)

I 出土木器



第52図 江戸時代以降の木器 (344～347は甞区23号土坑348は甞区26号土坑、349は甞区163号土坑350・351は甞区南側河道路出土)

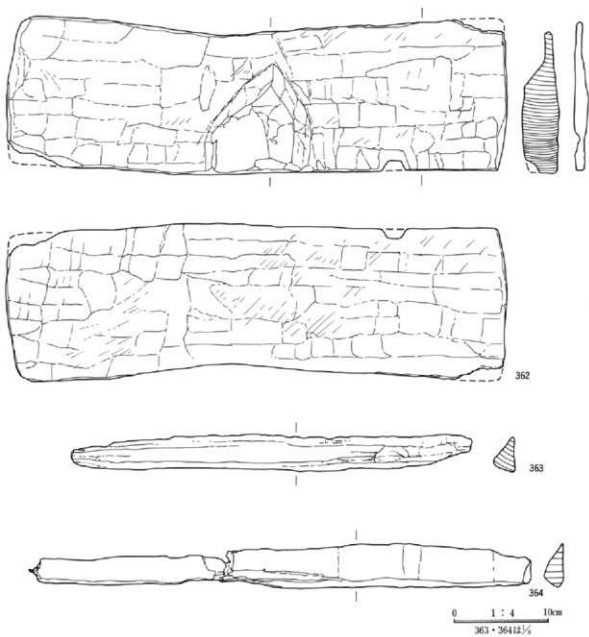
I 出土木器



0 1 : 4 10cm  
35912/4

第53図 古墳時代の木器 (Ⅶ区低地Ⅵ～Ⅶ層出土)

I 出土木器



第54図 古墳時代の木器（Ⅶ区低地Ⅵ～Ⅶ層出土）

## II 木器観察表

番号	器種	出土位置	長さ×幅×厚さ (cm)	木取	遺存状態	加工形状の特徴
1	板材	Ⅷ区面層	21.5×8.0×0.9	柾目	一部残存	補底板と思われる、凹形に外周を調整、外周辺沿いに樹皮を通した部分一ヶ所ある。
2	板材	#	5.9×2.9×0.4	柾目	一部残存	板材の一部。両端部折れ。
3	板材	#	8.8×2.8×0.4	柾目	一部残存	板材の一部。一辺は折れ、逆側は削り調整。
4	板材	#	5.2×5.6×1.1	柾目	一部残存	板材の角の部分残存。角部は削り調整。
5	曲物	#	14.1×2.9×0.4	柾目	一部残存	曲物の側板。片端部から上端は削り調整。下端部にも一部削り調整。逆端部折れ。
6	曲物	#	10.2×2.7×0.6	柾目	一部欠損	曲物の側板。両端部削り調整。
7	加工木	#	13.2×6.2×3.5	柾目	一部残存	用途不明。片側に向け先端をとがらせた削り調整。
8	曲物	#	38.2×9.0×0.5	柾目	一部残存	曲物の側板。両端部折れ。9と上下重なる。上側縁部に小孔がある。
9	曲物	#	25.6×9.8×0.4	柾目	一部残存	曲物の側板。8の下側に充たす。両端部は折れ、中央部に方形の穴。柄の穴か。
10	板材	#	13.9×3.5×0.6	柾目	一部残存	板材の一部。両端部折れ。
11	曲物	#	10.8×6.3×1.0	柾目	一部残存	曲物の側板。側板2枚を合わせ、樹皮で纏っている。
12	板材	#	7.5×3.7×0.7	柾目	一部残存	表面凹凸多い板材。両端部折れ。片側炭化している。表面に細いキズ有る。
13	曲物	#	11.0×2.3×0.4	柾目	一部残存	曲物の側板。両端部折れ。
14	曲物	#	8.6×2.4×0.3	柾目	一部残存	曲物の側板。両端部折れ。
15	板材(隈)	#	32.4×11.6×1.0	柾目	一部残存	板材が剥きの可能性がある。片側に長方形の穴がある。
16	曲物	#	5.8×3.5×0.6	柾目	一部残存	曲物の底板。片端部削り調整。
17	漆碗	#	6.9×4.3×0.8	柾目	一部残存	内外面黒色の漆が部分に残る。板の破片。
18	漆碗	#	5.6×3.1×0.2	柾目	一部残存	漆碗の一部破片。表面一部に黒色漆残る。
19	曲物	#	9.6×4.1×0.3	柾目	一部残存	曲物の側板。両端部折れ。
20	板材	#	10.2×3.5×1.2	柾目	一部残存	板材の一部破片。両端部ともに折れ。
21	漆碗	#	8.5×2.8×1.8	柾目	一部残存	漆碗の一部破片。裏面一部に黒色漆。
22	曲物	#	9.7×3.7×0.4	柾目	一部残存	片側端部削り調整。中央部に合わせの孔があるが貫通していない。逆側端部折れ。
23	曲物	#	22.3×7.9×0.5	柾目	一部残存	裏板。凹形板の一部残る。凹周辺は削り調整。
24	曲物	#	19.2×8.3×1.0	柾目	一部残存	曲物の底板。凹周辺は削り調整。炭化ではなく板の全面が黒色である。
25	曲物	#	4.7×18.3×0.5	柾目	一部残存	曲物の側板。両端部折れ。中央部に樹皮で纏じた痕跡が残る。
26	板材	#	14.9×1.9×0.5	柾目	一部残存	両端部ともに折れ。一部に刃物による傷がある。
27	竹杖	#	24.8 径3.5		一部残存	片側端部は一方からの削り。逆側端部は両側。
28	竹杖	#	13.7 径4.2		一部残存	片側端部は一方からの削り。逆側端部は折れ。
29	竹杖	#	24.6 径4.6		一部残存	片側端部は一方からの削り。逆側端部は折れ。
30	竹杖	#	45.0 径3.7		一部残存	片側端部は一方からの削り。逆側端部は折れ。
31	曲物	#	12.8×3.0×0.3	柾目	一部残存	曲物の側板。両端部折れ。
32	曲物	#	13.0×3.2×0.5	柾目	一部残存	曲物の側板破片。
33	刀子の柄	#	8.3×1.6×0.9	柾目	一部欠損	断面三角形状を呈し、内側に刀子をさした溝がある。内部に鉄が残存。裏部残存。逆側端部折れ。
34	曲物	#	①8.8×3.5×0.4 ②4.6×1.5×0.4 ③5.8×2.0×0.4	柾目	一部残存	曲物の側板の破片。③に板の皮が残っている。
35	漆碗	#	6.1×3.0×1.5		一部残存	碗底部の破片。内面に黒色漆確認。
36	曲物	#	6.9×3.4×0.4	柾目	一部残存	曲物側板の破片。各面は欠損。
37	隈	Ⅷ区新河道	14.5×7.0×2.0	柾目	一部残存	隈基部。ナスビ型を呈すと思われる。断面中央部が厚く、外側が薄くなる。
38	柄	Ⅷ区田層	9.5×6.2×3.8	分割	一部残存	柄端部の屈曲部残存。屈曲部には舟状の削り込が入る。
39	自在鎌	#	20.0×10.8×2.9	芯持	先端欠損	強い角度で屈曲する。外面削り調整。端部に作り出しが付く。
40	建築部材	#	106.2×10.6×5.0	分割	一部残存	片側部は柄状にえぐりが入り、方形の穴が縁づく。3穴は確認され、さらに使っていたものと思われる。
41	角材	#	37.4×6.0×2.2	分割	一部残存	角材断面は不明瞭。両端部折れ。
42	角材	#	40.9×5.0×3.0	分割	一部残存	断面四方形の角材。両端部折れ。

II 木器観察表

番号	器種	出土位置	長さ×幅×厚さ(cm)	木取	遺存状態	加工形状の特徴
43	加工木	Ⅳ区Ⅲ層	20.6×6.6×5.5	分割	一部残存	中央部は断面円形形状を呈す。両端部は断面三角形形状を呈し、縁の可能性あり。両端部は折れ。
44	角材	Ⅱ	27.0×5.1×4.6	分割	一部残存	断面四角形の角材。片端部は一方方向から削り残れる。逆端部折れ。
45	丸木弓	Ⅱ	102.5×2.7×2.2	丸木	一部欠損	片端部は中央部を削り細く調整している。逆端部は削り調整。先端部は炭化している。
46	加工木	Ⅱ	24.5×10.2×8.9	分割	一部残存	上・下面平坦面を持つ。
47	二股線	Ⅱ	17.8×13.5×0.8	板目	一部残存	二股に分かれる一部から基部残存。表面平坦に削り調整。
48	柄	Ⅱ	51.6 径3.5×3.1	削り材	一部残存	断面円形に外面調整。両端部折れ。
49	板材	Ⅱ	22.5×3.0×0.3	板目	一部残存	両端部折れ。両面平坦に調整。
50	横線	Ⅱ	6.0×14.7×2.9	削り材?	一部残存	横線中央部柄の装着孔残存。外形は欠損。
51	加工品	Ⅱ	7.5×1.8×1.7	板目	一部残存	断面四角形に四面平坦に調整。片側欠損。片側出柄残存。
52	刀子の柄	Ⅱ	11.1×1.3×0.8	板目	一部欠損	断面楕円形を呈し、片側欠損。片側直交に茎穴が長く入り、縁金具の痕が明瞭に残る。
53	加工品	Ⅱ	14.0×(4.1+2.4)×1.2	芯持	一部残存	片側両側面から先端に向かい削り。太端部出柄状に両側から削り。柄部欠落。
54	刀の柄	Ⅱ	18.2×3.5×1.5	板目	一部欠損	尖金は削り出し、懸造の円孔を付す。茎穴に溝がなく、目貫もないことから、実用ではなく、儀礼刀の可能性が高い。
55	線	Ⅱ	31.2×12.7×1.4	板目	完形	表面平坦に削り、先端部両方向から削り、柄を入れる穴残存。基部の両側に円孔各1。
56	曲物	Ⅱ	20.3×2.3×0.2	板目	一部残存	両面平坦に薄く削り、両端部欠損。中央部に小孔。
57	アンゴ 編み部材	Ⅱ	9.6×1.6×0.5	板目	一部残存	両端欠損。片側に山形の削り込みが入る。基部にややこげ痕あり。さきらの可能性あり。
58	加工品	Ⅱ	4.0×径9.7~2.8	嵌角(角)	ほぼ完形	断面円形に外面調整。片側から円孔(柄穴)が入る。
59	漆碗	Ⅱ	口径7.0~8.0 底径5.0~8.0 高2.1	板目	ほぼ完形	縦線抜き、楕円形状の縁部を呈し、内外面削り調整。内外面全面黒漆。
60	漆碗	Ⅱ	底径5.8	板目	ほぼ完形	縦線抜き、内外面削り調整。底部内外面削り残れる。内外面全面黒漆。
61	碗	Ⅱ	底径6.4	板目	底部残存	縦線抜き、内外面削り調整。漆無し。
62	漆碗	Ⅱ	底径6.4	板目	一部残存	縦線抜き、内外面削り調整。底部剥落。内外面黒漆。
63	漆碗	Ⅱ	底径9.5	板目	底部残存	縦線抜き、底部表面削り調整。底部に「井」の字状線刻あり。内外面黒漆。
64	漆碗	Ⅱ	底径7.8	板目	一部残存	縦線抜き、内外面削り調整。内外面黒漆。
65	漆碗	Ⅱ	底径7.8	板目	片残存	縦線抜き、内外面削り調整。外面回転削り痕。底部以外内外面黒漆。
66	漆碗	Ⅱ	底径8.3	板目	底部残存	縦線抜き、底部高台。平坦。底部削り痕。内外面黒漆。
67	漆碗	Ⅱ	口径13.4 底径8.2 高4.2	板目	一部欠損	縦線抜き、内外面削り調整。底部以外内外面黒漆。
68	人形	Ⅳ区 2号河溝	13.3×1.7×0.3	板目	完形	人形を呈し、頭、胴、脚が二又になる。顔に髪、目、口鼻が墨で描かれ、胴上部に「檢女」の墨書。
69	人形	Ⅱ	13.7×0.6~ 1.7×0.1~0.2	板目	1部欠損	人形を呈し68同様顔部に墨で墨で描かれる。体部片側欠損。
70	人形	Ⅱ	7.0×2.3×0.3	板目	上半残存	人形を呈し71・72同様顔の形を呈すが、胴部以下大半は欠落し胴部欠けている。
71	人形	Ⅱ	14.1×1.4×0.3	板目	ほぼ完形	顔部船に両側からえぐり入る。胴部、足部の折れは、取り上げ後のもの。
72	人形	Ⅳ区Ⅲ層	19.1×1.6×0.2~0.3	板目	片残存	人形を呈し、頭部、片足欠落。両面平坦に調整。
73	壺串	Ⅱ	11.6×1.3×0.3	板目	一部残存	片側方向に向かい削り、先端をとがらせてある。
74	壺串	Ⅱ	13.8×2.3×0.4	板目	完形	表面平坦に削り調整。下部両側から削り。上部両側面に2ヶ所計4ヶ所の削り込み。
75	船形木製品	Ⅳ区 As-C層 下水田1 号溝	56.7×5.9×(高)3.7	分割	完形	船首に横方向、船尾に縦方向の円孔があく。船尾はえぐりを入れて二股に造り出し、上層には船体に直交する段を造り出す。1木造りで船体を削って粗造り仕上げしており、全体のバランスも良く、実際に水面に浮くことが可能である。
76	馬形木製品	Ⅳ区 2号河溝	12.8×1~2.8×0.9	板目	ほぼ完形	両端部削り調整。二山の突出部を造り出す。縦方向に3本の木釘が打ち込まれており、中央突出部側の1本は下方にぬけているが、欠損している。左側の1本は貫通しておらず、右側の1本は孔のみで木釘はない。木釘はいずれも頭部を造り出し時に削られている。



II 木器観察表

番号	器種	出土位置	長さ×幅×厚さ(cm)	木取	遺存状態	加工形状の特徴
77	刀形木製品	Ⅵ区 3号河道	16.4×2.3×0.6	板目	一部残存	片面は平坦で断面コマボコ状を呈す。片側は細く削り調整。両面ともにスレ痕が認められる。
78	写形木製品	#	8.5×3.1×1.0	板目	一部欠損	写形形を呈し、両側は曲線をなす。外面はきれいに調整が入る。中央部凸部に板方向に孔が入り貫通はしない。
79	木製杖木製品	Ⅵ区Ⅲ層	13.6×1.3~1.8×0.5	板目	一部残存	表面平坦に調整。片側欠落。片端部両側からえぐり入り端部はカット。文字は見えない。
80	加工品	Ⅵ区 3号河道	7.7×2.3×0.4	板目	一部残存	表面両面平坦に調整。片側は欠落。残存部両側からえぐり入り細くなる。中央部に孔があり貫通していない。
81	横櫓	Ⅵ区Ⅲ層	5.87×2.8×0.8	板目	一部残存	基部から膝部へ薄くなり、曲が付く。基部調整。
82	木鏝	Ⅵ区Ⅳ層	10.25×1.5×0.7	板目	先端部残存	断面楕円形を呈し、先端部、柄部削り板。
83	曲物板皮	Ⅵ区 5号河道	径15.6 厚1.1	板目	ほぼ完形	表面平坦に調整。内面両面を溝状にえぐり通る。外面に墨書「象十四」。墨書の縁の一部はなぞったように傷が入る。4ヶ所に板皮の縊じ痕が残る。
84	加工品	Ⅵ区 2号河道	2.2×1.7×1.2	板目	一部残存	外側きれいに調整が入る。片端部はカット。えぐり部で欠損している。
85	曲物	Ⅵ区Ⅰ号河道	29.5×1.5×0.9	板目	一部残存	表面平坦に削り調整。内面に削り痕が残る。2ヶ所に削皮でためた板。
86	糸巻状木製品	#	12.5 径3.0~3.5	丸木	ほぼ完形	外面全面取り。中央部細くなる。両端部平坦にカットしてある。
87	曲物側板	#	13.5×3.5×0.3	板目	一部残存	表面裏面平坦に薄く削り調整。両端部折れ。
88	曲物側板	#	17.8×3.0×0.2	板目	一部残存	表面裏面平坦に削り調整。両端部折れ。2ヶ所側皮でためた板。
89	曲物側板	#	10.2×3.8×0.2	板目	一部残存	曲物側板。表面裏面に削り調整。両端部折れ。
90	板材	#	11.0×3.5×0.2	板目	一部残存	表面裏面平坦に薄く削り調整。両端部折れ。
91	曲物 板	#	25.0 径1.5~2.1	分割	一部残存	外面面取り調整。片端部削りとならせてある。逆端部カット。
92	曲物側板	Ⅵ区 2号河道	21.7×1.5×0.2	板目	一部残存	曲物の側板。表面裏面薄く平坦に調整。両端部は厚化している。
93	加工品	#	7.8×3.3×1.4	丸木	一部残存	外側丁寧な調整が入る。片端部欠落削り端部は曲線状に調整。中央部に木製釘目。
94	板材	#	10.0×1.3×0.35	板目	一部残存	薄い板材。表面裏面に調整。両面はすべて折れ。
95	くまび杖木製品	#	10.3× 径1.0~2.5	板目	一部残存	断面楕円形に、外面丸く調整。片端部折れ。逆端部は削りとならせてある。
96	加工木	#	23.0 径約5.0	丸木	一部残存	断面円形を呈す。片端部折れ。逆端部両方向から削り。削り面に直交しえぐり入る。
97	加工木	#	19.0×4.2×3.5	丸木	一部残存	丸木。外面に一部削皮が残る。片端部は折れ、逆端部は一方より段をもつ斜めの削り。
98	板材	#	23.8×2.7×0.4	板目	一部欠損	表面裏面に調整。片端部は欠損。片端部斜方向に削り調整。2ヶ所に木製釘残る。曲物の底板?
99	加工品	#	19.8× 径約1.0	板目	一部残存	外面多面に面取り。片端部斜めにカット。逆端部折れ。
100	板材	#	14.2×0.9×0.5	板目	一部残存	断面コマボコ状で片側は平坦に削り込んでいる。逆端部は折れ。
101	曲物側板	#	厚3.0 径2.0~3.0 幅約1~1.5	板目	一部残存	一本の状態出土。薄く仕上げている。
102	丸材	#	72.0×4.4×3.2	丸木	一部残存	断面楕円形を呈す。両端部折れ。
103	角材	#	47.0×4.0	分割	一部残存	断面四角形状に面取り。両端部折れ。
104	弓	#	8.9×1.8×0.7	丸木	ほぼ完形	断面楕円形を呈し、両端部に弓頭を造り出す。
105	加工材	#	44.0×6.1×2.1	板目	一部残存	断面楕円形を呈す。片端部サケ、片端部斜めに削り出している。
106	柄	#	32.5 径約2.4~2.8	丸木	一部残存	断面円形を呈す。片端部折れ。逆端部折れているか。
107	柄	#	32.4×2.8×1.4	丸木	一部残存	断面楕円形を呈す。片端部折れ。逆端部丸く削り調整。
108	加工木	#	48.7×3.8~4.5×1.2~3.2	分割	一部残存	外面削り調整。両端部折れ。
109	角棒	#	46.2×4.0×2.1	分割	定形	断面長方形。外面削り調整。両端部削り。
110	角棒	#	125.4×5.0×3.2	分割	一部残存	断面四角形状を呈す。片端部折れ。逆端部両側から斜め方向に削り。
111	建築部材	#	45.0×8.5×5.0	板目	一部残存	角材状中央部に方形の孔。片面に刃状で二条切り口が入る。両端部折れ。
112	曲物側板	Ⅵ区Ⅲ層	7.0×2.0×0.2	板目	一部残存	表面裏面に薄く削り調整。両端部折れ。
113	曲物側板	#	10.8×3.0×0.6	板目	一部残存	表面裏面に削り調整。両端部は面取り。
114	曲物側板	Ⅵ区Ⅲ層	7.4×2.1×0.05	板目	一部残存	表面裏面に削り調整。穴は加工ではない。

II 木器観察表

番号	器種	出土位置	長さ×幅×厚さ(cm)	木	取	遺存状態	加工形状の特徴
115	加工品	Ⅷ区 5号河溝	13.4×3.6×3.0		分割	一部残存	外面削り調整。片端部丸く調整。逆端部一方から削り落としてある。
116	加工品	Ⅷ区河溝	8.0×6.0×3.0		丸木	一部残存	断面楕円形を呈す。外面丁寧に面取り。片端部折れ。
117	曲物底板	#	12.3×5.2×0.5		板目	一部残存	表裏平直に削り調整。内側は外面に近い削りが通る。
118	板材	#	8.0×3.3×0.6		板目	一部残存	表裏平直に削り調整。両端部は折れ。
119	火切刀	#	4.5×1.6×0.5		板目	一部残存	火切棒のある部分丸く残存。小槌を使用したもの。
120	弓	Ⅷ区 5号河溝	19.0×径2.2~3.2		丸木	一部残存	外面削り調整。片端部折れ。片端部に弓頭を造り出す。一部に黒色塗が残る。
121	丸杭	#	163.5 径約9.0		丸木	一部残存	断面円形に調整。片端部折れ。逆端部片側から柄状に削り出してある。
122	丸杭	#	36.0 径約4.5		丸木	一部残存	外面調整あまり入らず。片端部折れ。逆端部数方向から削りが入りとがらせてある。外面磨皮残る。
123	角材	Ⅷ区Ⅷ層	14.0×1.6×0.7		板目	一部残存	断面三角形に外面調整。両端部折れ。
124	曲物底板	Ⅷ区Ⅷ層	18.3×3.0×1.6		板目	一部残存	表裏平直に調整。曲物の底板と思われる。両端部同心円状にカーブする。
125	板材	#	21.0×2.7×1.5		板目	一部残存	表裏平直に調整。両端部折れ。
126	板材	#	17.8×3.2×0.4		板目	一部残存	表裏平直に薄く調整。片端部折れ。逆端部斜めに削り調整。
127	曲物底板	#	32.5×6.0×1.0		板目	一部残存	表裏平直に調整。曲物の底板と思われる。両端部同心円状にカーブする。
128	板材	#	17.8×2.8×1.0		板目	一部残存	表裏平直に調整。両端部折れ。
129	組物	#	9.8×3.6×1.6		板目	一部残存	断面四角形に外面調整。片端部折れ。逆端部片側から削り入り中央部に貫通孔。
130	組物	#	19.0×4.0×2.0		板目	一部残存	断面四角形を呈し、外面調整。片端部平直にカット。逆端部出柄状に削り出してある。片側から二段にわたりえぐり入る。
131	櫛き棒木	#	32.8×3.0×2.3		分割	ほぼ完形	断面円形に外面調整。2ヶ所は山形に突き出す。この部分片側から方形にえぐり入り、貫通孔があく。逆側からは欠損のため不明。両端部丸く調整。丁寧に仕上げられている。
132	ナスビ型鏝	Ⅷ区Ⅷ層	59.4×14.1×1.3		板目	完形	ナスビ型を呈す。先端部両面から削り調整。片面は削り調整痕残る。
133	板材	#	52.4×12.0×4.0		板目	一部欠損	表裏平直調整。両端部ともに面取りしてある。
134	鏝	#	74.1×5.0×17.0×0.5 7~13.0		板目	柄部と先端部一部欠損	鍔先部表裏平直に調整。先端は基部より薄く仕上げられている。基部は両側からえぐり入る。基部から柄部は断面四角形状に調整。
135	鏝	#	29.3×8.5×2.6		板目	一部残存	太端部は平直に調整。細端部断面四角形状に調整。中央部は細端部に向かいえぐり込み。両端部折れ。
136	鏝	#	59.6×13.0 柄部3.5×1.5		板目	一部欠損	鍔部表裏平直に削り調整。先端部折れ。柄部断面丸く調整。基部折れ。
137	柄	#	63.0×2.0~5.0×2.0		板目	一部欠損	片端部幅5cmの大部分があり先に断面四角形の柄を作り出す。細先端部は折れ。太端部は欠損。
138	鏝	#	68.0×7.2×1.8		板目	一部残存	表裏平直に調整。ナスビ型鏝の部分的残存。基部先端部折れ。
139	件	#	43.0×10.0×5.0		分割	一部残存	たてに割れている。整件であろう。太端部丸く使用痕。細端部折れ。外面削り痕残る。
140	板材	#	31.3×7.4×0.9		板目	一部残存	表裏両面平直に調整。両端部折れ。
141	加工品	#	36.7×4.9×1.0		板目	一部欠損	表裏平直に調整。片端部貫通孔5ヶ所。逆端部欠損。炭化している。片側から曲線状にえぐり、逆側は四角形状のえぐり入る。
142	棒子	#	265.8×15.4×9.0		丸木	一部残存	足かけ5ヶ所上部は平直に下部は丸く削り出す。全面削り調整。片端部折れ。逆端部カットしてある。
143	柄より	#	53.3×14.6×1.8~2.8		板目	完形	表裏両面削り痕残る。中央に柄を入れる孔。柄の部分周囲高くなる。各断面面取り。
144	柄	#	55.5×2.5~7.0×3.5		板目	一部残存	四角状に外面削り調整。片端部折れ。逆端部えぐり入る。外面火を受けている。
145	柄	#	64.9×17.4×3.4		丸木	完形	基部断面円形に外面調整。装着部削り痕残る。多面形の面取り。基部折れ。
146	機件?	#	31.5 径7.4~9.4		分割	一部残存	断面楕円形を呈す。片端部折れ。逆端部丸く調整してある。
147	加工品	#	34.7×2.0~4.9×0.3~0.8		板目	一部欠損	表裏平直に薄く整形。幅の広い両端部折れ。細端部は丸く面取り。
148	板材	#	44.0×10.0×3.0		板目	一部残存	表裏平直に整形。片端部面取り。逆端部片側柄状のもの出る。先端は折れ。

## II 木器観察表

番号	器種	出土位置	長さ×幅×厚さ(cm)	木取	遺存状態	加工形状の特徴
149	柄	#	70.3 径7.5~3.4	丸木	一部欠損	柄部断面円形を呈し、先はくの字に曲がる。外面丁寧に削り調整。両端部折れ。先端の曲部は丸く削り出している。
150	壺片	#	93.0 径2.8~9.0	分割	完形	断面やや楕円形を呈し、中央部細くなり、両端部使用したようにならんでいる。
151	壺片	#	40.6×9.3×7.0	分割	一部残存	断面太部楕円形。細部円形を呈す。外面丁寧に調整。太端部丸く調整。細端部折れ。
152	糸巻状木製品	#	17.7 径8.0~8.5	丸木	一部欠損	断面楕円形を呈す。中央部に断面V字様に切り込みが入る。両端部は丸く削り調整。
153	片	#	18.5 径5.7~4.2	丸木	一部残存	断面ほぼ円形を呈し、太端部丸く調整。細端部折れ。
154	横槌	#	34.1 径8.3	分割	一部残存	太部断面長円形を呈し、中央部使用痕。くぼんでいる。先端丸く調整。柄との接合部片側から削り込みである。柄は断面円形で外面調整。先端部折れ。
155	木製品	#	30.5×3.4×0.8	板目	完形	表面平坦に調整。7ヶ所貫通する孔。両端部は出柄状に両側から削り。
156	糸巻状木製品	#	15.8 径6.3	丸木	完形	丸木外面を調整。両端部は削り直後ほぼ平坦に調整。中央部に両方向から削り込み。
157	糸巻状木製品	Ⅷ区Ⅷ前期	16.5 径7.5~8.7	丸木	一部欠損	断面楕円形を呈す。中央にU字形の切り込みが入る。両端部は平坦に近く調整。
158	横槌	#	43.4 径約5.5	丸木	一部欠損	外面丸く細かく面取りしてある。細端部は折れ。太端部細かく面取り。
159	加工品	#	28.1×4.6×3.6	板目	一部残存	断面楕円形で中央部が太い。片端部折れ。逆端部細く端部が太くなる。またさらに先に細い部分折れ。
160	組材	#	53.2×13.5×2.6	割り材	完形	断面四角形に外面丁寧に調整。両端部両側、四角形の貫通孔2ヶ所。
161	組材	#	40.0×25.4×1.0	板目	完形	L字形を呈し表面平坦に丁寧に整形。周囲に孔が貫通する。各端部丁寧に面取り。
162	刺物容器	#	20.0	分割	一部残存	中をくり抜いた盤状。内側へりに段をもつ。
163	ヤットコ?	#	26.6 厚さ1.7	分割	ほぼ完形	ヤットコ状の器具。断面円形を呈す。基部に2孔目釘状木製釘が打ち込まれている。
164	織具	#	40.8×4.2×2.2	分割	一部欠損	機織具の部品。断面四角形状で片端部折れ。逆端部両側から削り込みである。
165	柄(把手?)	#	直線部7.5 径2.0 曲がり部径2.5	分割	一部残存	まっすぐな部分は断面円形。他は四角状。全体を丁寧に仕上げている。
166	部材	#	43.7×7.4~8.4×1.0~1.5	板目	一部欠損	表面平坦に調整。片端部中央に四角形状のえぐり逆端部折れ。貫通する孔2ヶ所。
167	部材	#	69.0×6.0×0.8~2.0	板目	一部残存	表面平坦に調整。片端部折れ。逆端部柄状にえぐりが入り、柄部中央に削り込みである。
168	加工品	#	35.5×6.0×1.8	板目	ほぼ完形	断面楕円形に外面を丁寧に仕上げ。片端部は丸く整形。逆端部両側から削り整形。
169	板材	#	79.0×6.0×1.2	板目	一部欠損	表面平坦に調整。両端部カット。
170	角材	#	78.6×3.2~6.5×2.0~3.2	木心持ち	一部残存	角材のさげたもの。2面直角状に整形した部分残存。両端部折れ。
171	板材	#	79.2×10.8×3.0	板目	一部残存	表面平坦に調整。端部折れ。
172	角材	#	82.7×8.1×3.5	板目	一部残存	断面四角形の角材。両端部折れ。外面炭化している。
173	板材	#	183.5×10.0×1.9	板目	一部欠損	表面平坦に調整。両端部斜めに切り落とされている。また浅い切り込みが入る。
174	柄	#	65.5 径3.0~4.1	丸木	一部残存	断面楕円形に外面調整。両端部折れ。
175	加工品	#	74.8×3.1~8.7×1.9~2.5	板目	一部残存	表面平坦に調整。片端部折れ。逆端部斜めに切り落とし、下へえぐり入る。
176	板材	#	26.5×3.4×1.4	板目	一部残存	表面平坦に整形。両端部折れ。
177	部材	#	19.5×15.0×2.0	板目	完形	ゆがんだ四角形。表面平坦に整形。各断面面取り。丁寧に仕上げている。
178	板材	#	18.5×10.7×3.0	板目	一部残存	断面ゆがんだ四角形状を呈し、両端部両側。片面から目釘状の穴貫通せず。
179	加工品	#	51.6×1.7~2.0×1.0~6.5	分割	一部残存	片側に切り込みが入る。逆側は加工痕なし。両端部折れ。部分的に炭化している。
180	加工品	#	45.0×9.5×3.0	板目	一部欠損	表面平坦に削り調整。細端部は折れ。逆端部出柄状に削り出している。柄部は丸く調整してある。
181	部材	#	40.0×11.0×1.0	板目	一部欠損	表面平坦に削り調整。両端部折れ。表面面貫通して長方形の孔3ヶ所。
182	加工材	#	25.0×12.0×8.0	分割	一部残存	外面明確な加工痕あり。片端部折れ。逆端部は削り面、面取り。

## II 木器観察表

番号	部 種	出土位置	長さ×幅×厚さ(cm)	木 取	遺存状態	加工形状の特徴
183	鎌の柄	#	32.0 径2.5	楕目	一部欠損	断面楕円形を呈し外周丁寧に整形。片端部折れ。逆端部やや太く、端部面取り。
184	角棒	#	61.5×6.0×2.5	丸木	一部残存	断面四角形状に整形。両端部折れ。
185	加工材	#	88.7×16.0×14.9	丸木	一部欠損	断面円形を呈し、外周部分的に樹皮残る。片端部平坦に調整。逆端部削り出してとがらせてある。
186	板材	#	46.5×9.5×0.7	板目	完形	表裏平坦に調整。両端部カット。
187	加工品	#	74.0×5.5×1.5	楕目	一部残存	片側は断面楕円形を呈し、逆端部はへう状に平坦に調整してある。丁寧に調整。両端部折れ。
188	角材	#	80.2×5.9×3.0	分割	一部残存	断面四角形に外面丁寧に調整。両端部折れ。
189	板材	#	53.7×12.8×3.2	楕目	完形	表裏平坦に調整。両端部面取り。
190	部材	#	111.1×11.8×9.2	丸木	一部欠損	丸木材のままあまり加工痕はみられない。両端部丸く削ってある。
191	板材	#	23.0×12.8×2.2	割り材	一部残存	表裏平坦に調整。片端部折れ。逆端部面取り。
192	柄	#	57.5 径2.0	丸木	一部残存	断面楕円形を呈す。片端部折れ。逆端部欠損。面取り部一部残る。
193	柄	#	46.9×2.5×2.0	分割	一部残存	断面円形に外面でいよいよ調整。両端部折れ。
194	柄	#	49.3 径2.4~2.5	分割	一部残存	断面円形形状に外面調整。片端部は丸く削り調整。逆端部折れ。
195	柄	#	46.0×5.5×2.7	分割	一部残存	断面円形を呈し、外面調整。片端部カット。逆端部折れ。
196	角材	宮区Ⅷ層	68.3×5.5×3.5	分割	一部残存	断面三角形を呈し、外面調整。片端部先端を丸く削り出してある。逆端部折れ。
197	柄	#	39.0×1.9~4.0×2.5	分割	一部残存	両端部は折れ。大端部は断面長方形。細端部は円形を呈し、外面を丁寧に調整してある。
198	割り材	#	94.0×13.5~16.0×2.5~7.2	割り材	一部残存	分割材で外面あまり加工はない。片端部折れ。逆端部カットしてある。
199	板材	#	69.1×20.0×1.5	楕目	一部欠損	表裏平坦に削り調整。片端部はカット。逆端部折れ。
200	板材	#	72.5×7.2×1.0	板目	完形	表裏平坦に調整。両端部カット。
201	柄	#	64.8×5.0×2.4~3.4	丸木	一部残存	丸木を外周調整。両端部折れ。
202	部材	#	327.0×7.3~8.7×1.7~3.2	分割材	一部残存	分割材中心側を平坦にしてある。両端部折れ。片端部は炭化している。
203	角材	#	48.5×2.0×0.7	楕目	一部残存	断面四角形状で細く面取りしている。片端部折れ。逆端部折れ。先端に斜めに削り面取りしてある。
204	柄	#	104.0 径約4.0	丸木	一部残存	断面楕円形を呈し、外面丁寧に仕上げている。片端部折れ。逆端部丸く削り、端部近く側面から斜めに削り込んだぐりが入る。
205	加工品	#	29.0×6.5×5.3	分割	一部残存	断面楕円形に外面調整。両端部折れ。
206	板材	#	19.7×5.1×1.0	楕目	一部残存	表裏平坦に調整。片端部カット。逆端部折れ。
207	梯子	#	52.6×13.3~15.4×3.8~8.4	割り材	一部残存	梯子のステップ1ヶ所の破片。表裏粗く削り、ステップ部切り込み入る。両端部折れ。
208	加工品	#	47.1×4.6×1.7	楕目	一部残存	断面四角形に丁寧に調整してある。両端部折れ。
209	副部品	#	29.2×2.5×1.8	楕目	一部残存	断面楕円形に外面丁寧に整形してある。片端部は折れ。逆端部片状に整形。細くなる部分に縦方向に2.5×0.3の長方形の孔がある。
210	曲物	#	10.5×9.5×0.4	楕目	一部残存	表裏平坦に整形。曲物の透板か。一部円形の曲線部残る。
211	板材	#	10.9×5.8×1.5	楕目	一部残存	表裏平坦に調整。両端部折れ。
212	柄	#	40.0×4.5×3.2	分割	一部残存	断面楕円形を呈し、片端部折れ。逆端部丸く調整してある。
213	部材	#	30.0×6.5×1.5	板目	一部残存	表裏面平坦に削り残る。片端部折れ。逆端部削り出してある。
214	角材	#	48.0×3.0×2.0	板目	一部残存	断面四角形を呈す。外面丁寧に面取り。片端部折れ。逆端部面取り。
215	丸材	#	91.1 径7.3	丸木	一部残存	断面不定楕円形を呈し、外面部分的に削り痕。両端部折れ。
216	加工材	#	62.5×7.0×4.6~6.5	丸木	一部残存	断面楕円形を呈し、外面丁寧に面取りしてある。
217	角材	#	139.0×10.1×5.1	分割	一部残存	分割材の外面を面取り調整。片端部に片側から削り込み。逆端部は折れ。
218	柄?	#	107.5×5.0~7.0×2.0~3.5	割り材	一部残存	芯持ちの平截で外面削り調整。片端部は半円形を呈し、逆端部は平坦に削り調整。両端部折れ。
219	柄	#	55.0×2.5~3.0×0.8	分割	一部残存	表裏平坦に整形。片端部折れ。逆端部やや幅広く表裏両面から削り丸くしてある。
220	角材	#	57.5×2.3~3.3×1.9	分割	一部残存	断面四角形状に調整。両端部折れ。
221	加工品	#	38.3×2.0×1.0	分割	一部残存	断面四角形状に外面調整。片端部折れ。逆端部削り調整。

## II 木器観察表

番号	器 種	出土位置	長さ×幅×厚さ (cm)	木 取	遺存状態	加工形状の特徴
222	柄	#	42.5×2.5×1.0	分割	一部残存	断面楕円形を呈し、外面丸く調整。両端部折れ。
223	角材	#	86.0×7.2×2.3	割り材	一部残存	断面カマボコ状で平組部をもつ。加工痕跡でない。両端部折れ。
224	板	#	35.5×2.5×0.4	柱目	一部残存	表裏平組に調整。片端部折れ。逆端部カット。
225	加工品	#	52.4×3.8×2.6	丸木	一部残存	断面楕円形を呈し、外面丁寧に調整。両端部折れ。
226	板材	#	15.5×12.0×2.0	柱目	一部残存	表裏平組に整形。片端部欠損。逆端部折れ。
227	板材	#	25.5×8.2×1.8	柱目	一部残存	表裏平組に整形。片端部折れ。逆端部面取り。
228	丸棒	#	31.8×5.2×4.5	丸木	一部残存	断面は楕円形を呈し、片端部折れ。逆端部は片方向から斜めに削り。
229	板材	#	37.0×2.5×1.0	板目	一部残存	表裏平組に整形。太端部折れ。細端部折れているが1ヶ所に三角形の切り込みが入る。
230	加工品	#	30.0×2.7×0.6~1.0	柱目	一部残存	断面三角形形状を呈す。片端部折れ。逆端部両側から削り出している。
231	角材	#	30.2×2.0×1.0	柱目	一部残存	断面三角形を呈す。両端部折れ。
232	角材	#	54.1×8.0×10.5×5.0	割り材	一部残存	断面四角形に西辺平組に調整。両端部折れ。
233	柄	#	45.7×4.1×1.5	丸木	一部残存	断面楕円形につぶれている。一方折れ。
234	柄先	#	4.7×3.0×2.4	分割	一部残存	断面四角形を呈し調整。柄の先端部と考えられる。片端部は折れ。
235	加工品	#	34.8×5.2×1.2	板目	一部残存	表裏平組に調整。両端は丸く整形している。外面全体が火で焼け炭化している。
236	棒	#	26.0×5.5×4.0	分割	一部残存	断面六角形状に面取り。片端部折れ。逆端部丸く調整してある。
237	板材	VI区V層	28.0×3.5×1.3	板目	一部残存	表裏丁寧に整形しており両端部折れ。細長く端部に残る部分の先端は整形してある部分が残る。
238	組材	#	21.0×3.2×0.8	板目	一部残存	表裏平組に整形。片端部折れ。逆端部斜めに削り基としてある。5ヶ所に貫通する孔あり。
239	板材	#	20.5×10.3×3.4	柱目	一部残存	表裏両面平組に調整。片端部カット、面取り。逆端部折れ。
240	角材	#	14.5×6.1×2.8	板目	一部残存	断面長方形に外面丁寧に削り調整。両端部折れ。
241	部材	#	4.6×3.2×2.4	柱目	一部残存	
242	板材	#	18.0×14.0×3.0	柱目	一部残存	表裏平組に調整。半円形状を呈すが、直線部のみ面取りがしてあり他は加工痕不明。
243	皿状容器	#	23.6×13.3×3.3	割り材	一部欠損	皿状に内側はやくくぼむ。内外面丁寧に調整。片端部表裏から削り調整。逆端部折れ。
244	板材	#	17.5×5.2×3.4	分割材	一部残存	断面三角形を呈す。三側平組に調整。両端部折れ。
245	板材	#	17.8×6.1×1.9	柱目	完形	表裏平組に調整。両端部面取り調整してある。
246	機械部品？	#	24.5×3.0×1.0	柱目	完形	断面半円形に丁寧に整形。片端部両側から削り込み、逆端部丸くまぐり入る。
247	加工品	#	18.0 径約6.5	分割	完形	断面多角形状に面取り状に削り、両端部も面取り状に削り、ややとがらせてある。
248	板製品	#	23.1×8.0×3.6	柱目	一部残存	表裏両面調整している。片側面取り、両端部は折れ。片方は炭化している。
249	加工品	#	22.5×7.5×1.0	柱目	一部残存	表裏平組に薄く調整してある。片端部は折れ。逆端部斜めに削ってある。
250	加工品	#	27.0×4.8×1.9	柱目	一部残存	外面でいかに調整。曲がる部分に削り込み。片端部折れ。逆端部削り出している。
251	割り材	#	43.9×3.5×2.0	分割	一部残存	外面削り調整。両端部折れ。
252	加工品	#	40.3×3.8×2.0	分割	一部残存	断面楕円形を呈し、外面丁寧に調整。両端部折れ。
253	舟形容器	#	32.0×7.2×3.0	分割	一部残存	舟形容器の破片。内側を丸く整形。外側に脚が1つ残る。一部炭化している。
254	加工品 弓？	#	35.9×2.6×1.1	板目	一部残存	断面薄く外面削り面取り丁寧に整形してある。片端部折れ。逆端部先端部弓先状に削り出している。
255	加工品 繊維部材	#	52.0×4.4×1.5	板目	一部残存	断面長方形を呈し、両面平組に削り調整。両端部折れ。逆端部は片側からまぐり入る。
256	柄	#	18.9×5.0×2.6	丸木	一部残存	断面楕円形に外面整形。片端部は丸く面取り。逆端部は片側から切り込みあり、そこから折れ。
257	部材	#	18.0×7.5×2.8	柱目	完形	断面三角形を呈し、先端部部分欠落。各断面は面取りしてある。
258	柄？	#	15.4×2.7×1.0	丸木	一部残存	明確な加工痕は認められないが、柄の可能性あり。両端部折れ。
259	加工品	#	12.5×3.0×1.5	柱目	一部残存	表裏平組に丁寧に調整。片側はまぐり入り斜めに削り落とす。下方に延びる部分折れ。逆端部折れ。

## II 木器観察表

番号	部 種	出土位置	長さ×幅×厚さ (cm)	木 取	遺存状態	加工形状の特徴
260	織機部品 ?	#	17.3×4.1×0.9	割り材	一部欠損	表裏平面に調整。片端部各面に面取り。逆端部片側からえぐり、逆側から切り込み入り、先端部は折れ。貫通孔4ヶ所。
261	加工品	#	11.8×4.2×1.7	板目	一部残存	円孔あり。
262	板材	#	19.5×10.0×1.2	板目	一部残存	表裏平面に調整。1ヶ所に貫通する孔。両端部折れ。
263	不明木製 品	#	柄79.5 径3.0 先端23.3×8.3×0.5~2.0	柄 丸木 先 板目	一部欠損	先端は平面に薄く調整。柄を装着する穴半分欠損。両端部は折れ。柄断面円形に外面調整。片端部は折れ。逆端部先を丸く削り出している。出土時はこの丸い部分が穴に装着されていた。
264	加工品	#	23.0×5.2×0.3	板目	一部残存	表裏平面に調整。片端部折れ。逆端部片側からえぐりが丸く入る。
265	角材	#	32.0×3.5×0.6	分割	一部残存	断面三角形に外面面取り。両端部折れ。
266	丸材	#	128.4×7.4×6.1	丸木	一部欠損	断面円形に外面面取り。外面は加工痕なし。片端部折れ。逆端部削りとがらせてある。
267	板材	#	17.6×4.6×1.1	板目	一部残存	表裏平面に調整。片端部カット。逆端部折れ。
268	角材	#	49.3×9.0×6.2	分割	一部残存	断面四角形状に外面平面に調整。両端部折れ。
269	丸杭	#	43.8 径4.0	丸木	一部残存	断面円形を呈す。片端部二股に分かれ折れ。逆端部多方向から削り出している。
270	加工品	#	45.0×4.0×0.9	板目	完形	表裏平面に調整。片端部表裏両面から削り調整。逆端部丸く削り取り。
271	横棧	Ⅷ区Ⅷ層	29.9×2.5~7.5×丸27~5.5	丸木	一部欠損	断面円形に外面調整。先端部平面に分割調整。柄部断面円形に丁寧に調整。先端部折れ。やや炭化している。
272	加工品	#	31.4×6.3×2.2	板目	一部残存	表裏平面に調整。削り痕が残る。両端部折れ。
273	加工品	#	45.5×1.8~4.7×1.0~2.0	板目	ほぼ完形	用途は不明。あざめん丁摩に調整。粗端部に片方向から断面四角形状にえぐり入る。又線の再調整か。
274	加工品	Ⅷ区Ⅷ層	69.0×18.0×2.0	板目	一部欠損	表裏平面に調整。削り痕が残る。両端部とも両側から削り込んである。片端部先端部四角形状の凸出。逆端部は折れ。
275	加工品	#	47.7×2.2~6.2×2.5	割り材	一部残存	断面不定三角形を呈し、外面調整。両端部は細くなり先端部折れ。
276	角材	#	38.0×9.0×7.0	分割	一部残存	断面四角形状を呈し外面調整。両端部折れ。
277	角材	#	130.5×4.0~11.5×3.5~6.3	割り材	一部残存	割り材を断面不定形に調整。両端部折れ。
278	加工品	#	96.2×7.3~14.5×4.15~4.7	分割	一部残存	片側は広く、断面ほぼ方形に調整。広端部は両側からえぐり入る。粗端部両側から削り調整。
279	角材	#	47.8×4.0×2.2	分割	一部残存	断面四角形状を呈し、外面調整。両端部折れ。
280	板材	#	21.5×9.2×1.4	板目	一部残存	表裏平面に調整。両端部折れ。
281	織機	#	51.7×6.6×1.9	板目	一部残存	表裏平面に調整。片端部折れ。逆端部カットしてあり斜めに貫通孔。片側面2ヶ所にえぐり入る。
282	加工品	#	41.8×2.1×0.8	板目	一部残存	断面コマボコ状に外面丁寧に調整。両端部折れ。
283	角棒	#	86.8×6.0×3.3	分割	一部残存	断面方形に外面調整。両端部折れ。
284	角材	#	53.0×3.8×1.6	分割	一部残存	断面四角形状を呈し、外面調整。両端部折れ。
285	板材	#	46.7×14.0×1.9	板目	一部残存	表裏平面に調整。片端部折れ。両端部折れ。
286	板材	#	174.5×27.0×4.2	板目	一部残存	表裏両面平面に薄く調整。片端部は削ってカット。逆端部折れ。片側に2ヶ所えぐり入る。
287	加工品	#	38.0×6.2×1.5	板目	一部残存	表裏平面に調整。片端部両側から削り、逆端部折れ。
288	角材	#	21.9×6.0×3.6	板目	一部残存	断面四角形状を呈し、外面調整。両端部折れ。
289	加工品	#	41.6×12.0×3.3	分割	一部残存	割り材をやや凸面状に調整。両端部折れ。
290	加工品	#	57.7×4.4~6.0×1.0~2.0	板目	一部欠損	断面長方形形状を呈し、外面調整。両端部は両側から削り出している。
291	柄	#	37.4×3.6×1.8	割り材	一部残存	断面不定三角形を呈し、調整。両端部折れ。
292	加工材	#	56.5 径約8.5	分割	一部残存	割り材を全面面取り調整してある。片端部は折れ。逆端部表裏2方向から削り出している。
293	曲物底板	Ⅷ区Ⅷ層	19.7×8.0×1.0	板目	一部残存	表裏平面に調整。外側丸く同心円状に調整。
294	竹	#				長さ約8.0~10cmの竹片。
295~299	横 (5点)	Ⅷ区 3号井戸	径21.5×20 底板2 板板3	板目 板目		底板2枚表裏平面に調整。側板平面にややカーブを描く。
300~309	桶 (10点)	#	底板1 鋼板10点 底板径20.6 側板	板目 板目		底板表裏平面に調整。側板ややカーブして調整。側板2点は片側からえぐり入り1ヶ所貫通孔ある。
310	竹容器	Ⅷ区Ⅷ層	高さ6.7 径6.2	竹	完形	竹のよしを底部に高さ6.7を測る。上部より調整。
311	しゃくし	#	7.5×5.3×0.5	板目	一部残存	内外両面凹面に表裏丁寧に調整。内側一部残存。

## II 木器観察表

番号	器種	出土位置	長さ×幅×厚さ(cm)	木取	遺存状態	加工形状の特徴
312	板材	#	27.9×8.7×1.5	板目	一部残存	表裏平面に調整。逆端部折れ。逆端部カット。
313-316	桶 (4点)	甕区 6号井戸	底板径20.4厚81.0側板 18.9×3.9~4.9×1.1	板目 板目	一部残存	底板表裏平面に調整。外周面取り。片面は角をさらに面取り。側板上下2ヶ所にタガの痕残る。
317	板材	甕区 8号井戸	80.7×9.8×1.4	板目	一部残存	表裏平面に調整。両端部カット。
318-320	曲物側板 (8点)	甕区 8号井戸	最長20.9~11.0 厚0.2~1.3	板目 丸木	一部残存	8号井戸からの一括で、1は桶の側板。他は曲物。一部樹皮が装着されている。
321	下駄	甕区 9号井戸	13.3×6.6×3.1	木心持	一部欠損	前方は斜めに傾斜し、後方は2.4cmを測る。表面平面に調整し、はなほ孔3ヶ所。
322	下駄	#	16.6×8.5×1.8	板目	一部欠損	表面平面に調整。下面面をさし込む部分もり上がる。歯は7mmで差し込み、3ヶ所にはなお孔。先端孔の周囲に指ずれ痕残る。
323	下駄	#	21.2×10.2×1.9~3.5	板目	一部欠損	表面平面に調整。前歯は削り出し。後歯は差し込み。3ヶ所にはなお貫通孔。
324	桶	#	縦25.9横27.7高26.6	板目	完形	桶の完形品。底板は一部欠損。対角の側板は他より9cm高く、中央に貫通孔あり。側板の上下にタガの痕残る。
325-326	竹製品	#	長20.0 径15.2	竹	一部残存	用途不明だが竹筒状。加工痕は認められない。
327	丸杖	#	21.0 径3.3	丸木	一部残存	断面円形を呈し、外面調整。片端部折れ。逆端部2方向から面取りしてとがらせてある。外面炭化。
328	加工品	#	38.5 径1.7~2.2	丸木	完形	中央部やや太く、断面円形を呈し、外面調整。両端部は丸く作り出し。貫通孔がある。
329-331	傘部品	#	径7.5~5.0 高2.8	丸木	一部残存	木の中央部をくり抜いてある。外側はさらにたてに削りが入る。
332	桶 (側板?)	#	32.4×4.0~9.0×1.0	板目	一部残存	桶の側板? 上下の幅が5cmあり、桶とするとかなりの開き想定されてしまう。側端部内側には底板のあて部を削り込んだりある。外側中央に約12cmの長さで2mm程削り込んだりある。
333	塗物	#	24.2×11.0×0.6	板目	一部残存	塗物のフタ表裏に各々赤と黒の塗層。
334	桶底板	#	15.4×3.0×0.6	板目	一部残存	表裏平面に調整。
335	板材	甕区 9号井戸	21.2×16.8×1.2	板目	一部残存	表裏平面に調整。片端部折れ。逆端部カット。
336	桶底板	甕区 9号井戸	径21.7 厚0.8	板目	一部残存	表裏平面に調整。
337	桶底板	#	径21.3 厚1.5	板目	一部残存	表裏平面に調整。
338	桶底板	#	13.3×3.0×1.2	板目	一部残存	表裏平面に調整。外周面面取り。
339	角材	#	4.6×8.2×2.1	割り材	完形	四面を平面に調整。丁寧に面取りしてある。
340	桶底板	#	径12.0 厚0.4	板目	一部残存	表裏平面に調整。両面厚塗り。
341-343	曲物側板	#	長32.0 厚0.5	板目	一部残存	1~3はほぼ同じ長さを薄きをもつ。両端部カット。1の片面は合わせ部でへこんでいる。
344	板材	甕区 163土坑	12.0×4.0×0.6	板目	一部残存	表裏平面に調整。両端部折れ。
345	角棒	#	16.0×1.7×0.9	板目	一部残存	断面四角形を呈し、四面調整。両端部折れ。
346	角棒	#	16.2×2.6×0.8	板目	一部残存	断面四角形を呈し、外面調整。両端部折れ。
347	把手	#	15.7×7.7×2.9	板目	一部残存	表裏平面に調整。中央に貫通孔。直線部面2ヶ所にとめくぎ痕。
348	大桶底板	甕区 26号土坑		板目	一部残存	土坑内に埋藏されていた。板材を数枚つぎ合わせて加工している。
349	不明木製品	甕区 163土坑	19.2×6.5×5.8	分割	完形	両端に球状2個。丁寧に面取りしてある。中央の棒は断面円形を呈し、中央部太くなる。
350	漆桶	甕区南河内道	厚1.5	分割	底部残存	底部以外、内外面厚塗り。
351	漆桶	#	直径7.6 厚0.8	分割	底部残存	底部以外内外面厚塗り。底部に印の線刻入る。
352	加工品	甕区 VI~VII層	11.0×1.8×0.6	板目	一部残存	断面三角形を呈し外面調整。両端部折れ。3ヶ所に貫通孔。
353	角材	#	8.3×4.9×1.6	分割	一部残存	断面四角形状を呈し、外面調整。両端部折れ。
354	板材	#	11.8×7.1×1.5	板目	一部残存	表裏平面に調整。両端部折れ。片端部は折れ面炭化している。
355	板材	#	6.6×6.0×0.6~1.4	板目	一部残存	部分的欠損あるが表裏面を調整。両端部折れ。
356	角材	#	14.7×4.4×2.2	分割	一部残存	断面四角形を呈し、外面調整。両端部折れ。
357	角材	#	37.2×3.0×2.5	分割	一部残存	断面多角形に外面面取り。両端部折れ。
358	割り材	#	34.2×8.0×4.5	分割	一部残存	断面不定角形に調整。両端部折れ。片端部炭化。
359	二又根	#	30.0×10.0~19.2×1.0~2.3	板目	一部欠損	表裏平面に調整。二又の先端部は両面から削り薄くなる。基部は折れ。
360	板材	#	20.0×4.8×1.1	板目	一部残存	表裏平面に調整。両端部折れ。

## II 木器観察表

番号	器種	出土位置	長さ×幅×厚さ(cm)	木取	遺存状態	加工形状の特徴
351	板材	#	48.8×10.0×1.8	径目	一部欠損	両面に削り痕を残す。
362	えぶり 未製品	#	52.8×16.3×4.0	径目	完形	表面平坦に調整。削り痕が明確に残る。片面に三角形状に柄の装着部残るが、1ヶ所削り入るが孔はなく未製品の可能性あり。
363	割り材	#	84.2×7.2×4.4	分割材	一部残存	分割材の断面を三角形状に外面調整。両端部折れ。片端部炭化。
364	割り材	#	105.6×8.8×8.0	分割材	一部残存	断面長三角形状に調整。両端部折れ。



## III 樹種同定

藤根 久 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

本総社寺田遺跡は、Hr-FA (標名ニツ岳火山灰) やAs-B (浅間B軽石) あるいはAs-C (浅間C軽石) に画され、多量の木製品類が出土した。また、井戸あるいは旧河道などからも木製品が出土している。これら木製品は、実測試料499点と参考試料434点に分類された。ここでは、これら木製品の樹種を同定し、木材利用状況について検討する。

### 2. 方法と記載

試料は、群馬県埋蔵文化財調査事業団において、プレパラートの作成が行われた。プレパラートは、検出された木器類のうち加工痕が明瞭なもの(実測試料)と加工痕がさほど明瞭でないもの(参考試料)とに分類されている。樹種の同定は、これら標本を光学顕微鏡下で40~400倍の倍率で観察を行い、現生標本との比較により行う。以下に、標本の記載及び同定の根拠を述べる。表1~11にその結果を示す。なお、プレパラートは、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管してある。

#### カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科 図版1a~1c.

仮道管および放射柔細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。放射組織は、柔細胞から単列で1~10細胞高である。また、分野壁孔はヒノキ型で4個見られる(接線断面)。仮道管の内壁には、2本のらせん肥厚が対になって分布する(放射・接線断面)。

以上の形質から、イチイ科のカヤの材と同定される。カヤは、本州の宮城県以南の暖帯から温帯にかけて分布する樹高25m、直径90cmに達する常緑針葉樹である。

#### イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* K. Koch イヌガヤ科 図版2a~2c.

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は非常に狭い(横断面)。放射組織は、単列で1~7細胞高である(接線断面)。分野壁孔はトウヒ型で1~2個見られる(放射断面)。仮道管の内壁には、らせん肥厚が分布する(放射・接線断面)。

以上の形質から、イヌガヤ科イヌガヤ属のイヌガヤの材と同定される。イヌガヤは、本州(岩手県以南)の暖帯から温帯にかけて分布する樹高15m、直径30cmに達する常緑針葉樹である。

#### マキ属 *Podocarpus* マキ科 図版3a~3c.

仮道管および樹脂細胞からなる針葉樹で、早材から晩材への移行は緩やかで、樹脂細胞はまんべんなく散在する(横断面)。分野壁孔はヒノキ型で1分野に2個見られる(放射断面)。放射組織は、単列で2~15細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、マキ科マキ属の材と同定される。マキ属の樹木には、関東以西に分布する樹高20m、幹径50cmに達するイヌマキ(*P. macrophyllus*)と和歌山県以西に分布する樹高20m、幹径80cmに達するナギ(*P. nagi*)とがある。

### III 樹種同定

#### マツ属単維管束亜属 *Pinus* subgen. *Haploxyton* マツ科 図版 4 a~4 c.

放射仮道管、垂直および水平樹脂道、これを取り囲むエビセリウム細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行はやや急である(横断面)。分野壁孔は、窓状で放射仮道管の内壁は平滑である(放射断面)。エビセリウム細胞以外は、放射仮道管を含め単列で1~20細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、マツ科のマツ属単維管束亜属の材と同定される。マツ属単維管束亜属は、ヒメコマツ(*P. parviflora*)とチョウセンゴウ(*P. koraiensis*)がある。いずれも樹高30m、幹径1m前後に達する常緑針葉樹である。

#### マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxyton* マツ科

放射仮道管、垂直および水平樹脂道、これを取り囲むエビセリウム細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁は内側に向かって著しく突出している(放射断面)。エビセリウム細胞以外は、放射仮道管を含め単列で1~15細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、マツ科のマツ属複維管束亜属の材と同定される。マツ属複維管束亜属は、本州・四国・九州に生育するアカマツ(*P. densiflora*)と海岸部に生育するクロマツ(*P. thunbergii*)がある。いずれも樹高30m、幹径1m前後に達する常緑針葉樹である。

#### アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科 図版 5 a~5 c.

放射仮道管、垂直および水平樹脂道、これを取り囲むエビセリウム細胞からなる針葉樹材で、早材部から晩材部への移行は急である(横断面)。放射組織のうち、柔細胞の分野壁孔は窓状であり、放射仮道管の内壁は内側に向かって鋸歯状に著しく突出している(放射断面)。放射組織は、エビセリウム細胞以外は、放射仮道管も含め単列で2~17細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、マツ科マツ属複維管束亜属のアカマツの材と同定される。アカマツは、暖帯および温帯下部に分布する樹高30~35m、幹径60~80cmに達する常緑針葉樹である。

#### マツ属 *Pinus* マツ科

放射仮道管、垂直および水平樹脂道、これを取り囲むエビセリウム細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。分野壁孔は窓状である(放射断面)。エビセリウム細胞以外は、放射仮道管を含め単列で2~20細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、マツ科マツ属の材と同定される。マツ属は、二葉松類(マツ属複維管束亜属)と五葉松類(マツ属単維管束亜属)に識別可能であるが、保存が悪いため識別できない。

#### モミ属 *Abies* マツ科 図版 6 a~6 c.

仮道管および放射柔細胞からなる針葉樹材で、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。また、早材部仮道管は大きく薄壁で、晩材部仮道管は厚壁で扁平でかつ狭い(横断面)。放射組織は、柔細胞からなり単列で2~25細胞高である(接線断面)。その分野壁孔はトウヒ型で1分野に1~2個存在する。また、放射組織の壁は厚く、じゅう状末端壁を有する(放射断面)。

以上の形質から、マツ科のモミ属の材と同定される。モミ属の樹木には、亜高山帯に分布するシラビソ(*A. veitchii*)やオオシラビソ(*A. mariesii*)、暖帯から温帯にかけて分布するモミ(*A. firma*)などがある。い

いずれも樹高30m、幹径1mに達する常緑針葉樹である。

#### トウヒ属 *Picea* マツ科 図版7a~7c.

放射仮道管、垂直および水平樹脂道、これを取り囲むエビセリウム細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。エビセリウム細胞以外は、放射仮道管を含め単列で2~39細胞高である(接線断面)。その分野壁孔は、トウヒ型で1分野に2~3個見られる(放射断面)。

以上の形質から、マツ科のトウヒ属の材と同定される。トウヒ属の樹木には、エゾマツ(*P. jezoensis*)やその変種のトウヒ(*P. jezoensis* var. *hondoensis*)などがある。亜高山帯を中心に分布する樹高30mに達する常緑針葉樹である。

#### スギ *Cryptomeria japonica* (Linn. fil.) D. Don スギ科 図版8a~8c.

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞からなる針葉樹材で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。分野壁孔は、水平方向に長軸をもった典型的なスギ型で、1分野に2個見られる(放射断面)。放射組織は、柔細胞からなり単列で2~20細胞高からなる(接線断面)。

以上の形質から、スギ科スギ属のスギの材と同定される。スギは東北から九州にかけて温帯から暖帯にかけて分布する常緑針葉樹である。

#### サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版9a~9c.

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。分野壁孔は、ヒノキ型~スギ型で1分野に2~3個見られる(放射断面)。放射組織は、柔細胞からなり2~14細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ヒノキ科ヒノキ属のサワラの材と同定される。サワラは、本州や九州の温帯に分布する樹高30m、幹径1mに達する常緑針葉樹である。

#### ヒノキ属 *Chamaecyparis* ヒノキ科 図版10a~10c.

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかである(横断面)。分野壁孔は、ヒノキ型で、1分野に2~3個見られる(放射断面)。放射組織は、柔細胞からなり、2~8細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ヒノキ科のヒノキ属の材と同定される。ヒノキ属の樹木には、ヒノキ(*C. Obtusa*)と前述のサワラ(*C. pisifera*)があり、ヒノキは本州、四国、九州の温帯に分布する樹高40m、幹径2mに達する常緑針葉樹である。

#### アスナロ *Thuopsis dolabrata* Sieb. et Zucc. ヒノキ科 図版11a~11c.

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、樹脂細胞は晩材部に遍在する(横断面)。分野壁孔は、ヒノキ型あるいはトウヒ型で1分野に2~5個見られる(放射断面)。放射組織は、柔細胞からなり1~7細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ヒノキ科アスナロ属のアスナロの材と同定される。アスナロは温帯を中心に分布する樹高30m、幹径80cmに達する常緑針葉樹である。

### III 樹種同定

#### ネズコ *Thuja standishii* (Gord.) Carr. ヒノキ科 図版12a~12c.

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞からなる針葉樹で、早材部から晩材部への移行は緩やかで、柔細胞は年輪と平行して散在する（横断面）。分野壁孔は、小型のスギ型で1分野に2~6個見られる（放射断面）。放射組織は、1~12細胞高である（接線断面）。

以上の形質から、ヒノキ科ネズコ属のネズコの材と同定される。ネズコは、温帯に分布する樹高30m、幹径1mの常緑針葉樹である。

#### ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版13a~13c.

中型の管孔が単独あるいは放射方向に2~3個複合して散在する散孔材である（横断面）。道管のせん孔は単一である。道管と放射組織との壁孔は、蜂巣状を呈している（放射断面）。放射組織は異性単列、3~14細胞高である（接線断面）。

以上の形質から、ヤナギ科のヤナギ属の材と同定される。ヤナギ属の樹木には、日本において約40種程度あり、高木から低木までその大きさはさまざまである。ヤナギ属の樹木は、陽光の水湿地に生育する落葉広葉樹である。

#### オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. クルミ科 図版14a~14c.

大型の管孔がやや径を減じながら単独または放射方向に2~4個複合して散在する散孔材である（横断面）。道管のせん孔は単一である（放射断面）。放射組織は、異性に近い同性で、1~4細胞幅、3~30細胞高である（接線断面）。

以上の形質から、クルミ科のオニグルミの材と同定される。オニグルミは全国の温帯から暖帯にかけて分布する樹高25m、幹径1mに達する落葉広葉樹である。

#### アサダ *Ostrya japonica* Sarg. 図版15a~15c.

丸みを帯びた小~中型の道管が放射方向に2~5個複合した散孔材である（横断面）。道管の内壁には微細ならせん肥厚が見られ、道管のせん孔は単一である（放射断面）。放射組織は、ほぼ同性1~3細胞幅、3~27細胞高である（接線断面）。

以上の形質から、カバノキ科のアサダの材と同定される。アサダは全国の温暖に分布する樹高15mに達する落葉広葉樹である。

#### イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版16a~16c.

やや小型の丸の管孔が単独あるいは放射方向に2~3個複合し散在する散孔材である（横断面）。道管のせん孔は単一で、内壁にはわずかではあるがらせん肥厚が認められる（放射断面）。放射組織は、異性で1~3細胞幅、3~19細胞高であり、両端細胞はやや大きい（接線断面）。

以上の形質から、カバノキ科クマシデ属のイヌシデ節の材と同定される。イヌシデ節には、イヌシデ (*C. tschonoskii*) 及びアカシデ (*C. laxiflora*) があり、暖帯から温帯にかけて分布する落葉広葉樹で、樹高15m、幹径60cmに達する。

クマシデ節 *Carpinus* sect. *Distegocarpus* カバノキ科 図版17a~17c.

やや小型の丸の管孔が単独あるいは放射方向に2~3個複合し散在する散孔性放射孔材である(横断面)。道管のせん孔は10本程度の横棒からなる階段状で、その内壁にはかすかにらせん肥厚が認められる(放射断面)。放射組織は、異性で1~3細胞幅、3~26細胞高であり、両端細胞はやや大きい(接線断面)。

以上の形質から、カバノキ科クマシデ属のクマシデ節の材と同定される。クマシデ節には、クマシデ(*C. tschonoskii*)とサワシバ(*C. laxiflora*)があり、暖帯から温帯にかけて分布する落葉広葉樹で、樹高15m、幹径60cmに達する。

カバノキ属 *Betula* カバノキ科 図版18a~18c.

やや丸い中型の道管が単独あるいは2~3個放射方向に複合してほぼ均一に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は10本前後の太い横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は同性で1~3細胞幅、2~23細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、カバノキ科のカバノキ属の材と同定される。カバノキ属の樹木には、樹高25m、幹径1mに達するウダイカンバ(*Betula maximowicziana*)や亜高山帯上部に広く分布するダケカンバ(*B. ermanii*)、山地帯の二次林に多いシラカンバ(*B. platyphylla* var. *japonica*)など10種類ほどあるが、種を識別するには至っていない。材は、緻密でやや堅硬で建築材や器具材に用いられる。

ハンノキ節 *Alnus* sect. *Gumnothusus* カバノキ科 図版19a~19c.

中型の管孔が放射方向または塊状に2~4個複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は、10本程度横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、同性単列もしくは2細胞幅と集合状の放射組織からなる(接線断面)。

以上の形質から、カバノキ科のハンノキ属ハンノキ節の材と同定される。ハンノキ節の材には、平野部の水湿地に生育するハンノキ(*Alnus japonica*)、平野部から山地の斜面にかけて生育するヤマハンノキ(*A. hirsuta*)、そして山地に生育するヤシャブシ(*A. firma*)などが分布している。ハンノキ節の樹木は、いずれも樹高20m、幹径50mに達する落葉広葉樹で、陽のよく当たるところに生育する。木材は、緻密で柔らかく、建築材、器具材、家具材などに用いられる。

アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版20a~20c.

大型の管孔が放射方向に配列する放射孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、チロースが見られる(放射断面または接線断面)。放射組織は、単列同性のもの集合放射組織のものがある(接線断面)。

以上の形質から、ブナ科コナラ属のアカガシ亜属の材と同定される。アカガシ亜属の樹木には関東に分布するアカガシ(*Q. acuta*)やアラカシ(*Q. glauca*)やシラカシ(*Q. myrsinaefolia*)をはじめ8種類ほどある。アカガシ亜属の樹木は、樹高20m、幹径1mに達する常緑広葉樹である。

ブナ属 *Fagus* ブナ科 図版21a~21c.

丸い小型の管孔がややまばらに散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一あるいは数本の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は同性で、細胞幅の広い複合放射組織からなる(接線断面)。

以上の形質から、ブナ科のブナ属の材と同定される。日本に分布するブナ属の樹木には、温帯に生育する

### III 樹種同定

ブナ (*F. crenata*) と中間温帯に分布するイヌブナ (*F. japonica*) の 2 種類があるが、材組織からは識別できない。いずれも樹高25mに達する落葉広葉樹である。

#### コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版22a~22c.

年輪のはじめに大型の管孔が1列に並び、そこから径を減じた小管孔がやや火炎状に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、単列同性のもの集合放射組織からなる(接線断面)。

以上の形質からブナ科のコナラ属コナラ節の材と同定される。コナラ節の樹木にはコナラ (*Q. serrata*) やミズナラ (*Q. mongolica* var. *grosseserrata*)、カシワ (*Q. dentata*)、ナラガシワ (*Q. aliena*) などがあるが、現在のところこれらを識別するには至っていない。いずれの樹木も温帯から暖帯にかけて広く分布する樹高20m、幹径1mを超える落葉広葉樹である。

#### クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版23a~23c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~2列並び、そこからやや急に径を減じたやや厚壁の丸い小管孔が放射方向に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、単列同性のもの集合放射組織のものがある(接線断面)。

以上の形質から、ブナ科のコナラ属クヌギ節の材と同定される。クヌギ節の樹木には関東地方に普通に見られるクヌギ (*Quercus acutissima*) と、東海・北陸以西に主として分布するアベマキ (*Q. variabilis*) がある。いずれの樹木も樹高15m、幹径60cmに達する落葉広葉樹である。

#### クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版24a~24c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~3列並び、そこから徐々に径を減じた小管孔が火炎状に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、単列同性であり時に2細胞幅で、2~17細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ブナ科クリ属のクリの材と同定される。クリは全国の暖帯から温帯にかけて分布する樹高20m、幹径1mに達する落葉広葉樹である。

#### ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図版25a~25c.

年輪のはじめに大型の管孔が数個配列し、晩材部では小型の管孔が径を減じて斜めに配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(接線断面)。放射組織は、異性1~6細胞幅、2~40細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のニレ属の材と同定される。ニレ属の樹木には、中部地方以西の荒地などに生える樹高15m、幹径60cmに達するアキニレ (*U. parvifolia*)、北海道から九州にかけての平野部や山麓部で普通に生える樹高30m、幹径1mに達するハルニレ (*U. davidiana* Planch. var. *japonica*) や北海道に特に多く見られる樹高25m、幹径1mに達するオヒョウ (*U. laciniata*) がある。いずれも落葉広葉樹である。

#### ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版26a~26c.

年輪のはじめに大型の管孔が単独ないし2列に並び、早材部では小管孔が2~8程度集合して接線方向な

いしはやや斜めに配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が明瞭に認められる(放射断面)。放射組織は、異性1~6細胞幅、2~65細胞高からなり、大型の結晶細胞が認められる(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のケヤキの材と同定される。ケヤキは暖帯から温帯にかけて分布する樹高35m、幹径2mに達する落葉広葉樹である。

#### エノキ属 *Celtis* ニレ科 図版27a~27c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~2列並び、そこから径を減じた小管孔が早材部では多数集合して斜め方向に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、異性1~10細胞幅、3~39細胞高で明瞭な鞘細胞が認められる(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のエノキ属の材と同定される。エノキ属の樹木には、本州以南の暖帯から亜熱帯に分布するエノキ(*C. sinensis*)や、温帯に分布するエゾエノキ(*C. jessoensis*)などがある。エノキは樹高20m、幹径1mに達する落葉広葉樹である。

#### ヤマグワ *Morus bombycis* Koidz. クワ科 図版28a~28c.

年輪のはじめに大型の管孔が数列並び、そこから径を減じた小管孔が早材部で接線方向に数個複合して散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、異性1~4細胞幅、2~29細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、クワ科クワ属のヤマグワの材と同定される。ヤマグワは、温帯から亜熱帯にかけ広く分布する樹高12m、幹径60cmの落葉広葉樹である。

#### コウゾ属 *Broussonetia* クワ科 図版29a~29c.

年輪のはじめに大型の管孔が数列並び、晩材部では径を減じた管孔が塊状に集合して散在し、柔組織は周囲状または翼状である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性1~5細胞幅、3~36細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、クワ科のコウゾ属の材と同定される。コウゾ属の樹木には、低山地の林縁に生える樹高2~5m程度のヒメコウゾ(*B. kazinoki*)や野生化したと考えられている樹高4~10m前後のカジノキ(*B. papyrifera*)がある。いずれも落葉広葉樹である。

#### カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科 図版30a~30c.

中型の管孔が密に分布する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~2細胞幅、1~23細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、カツラ科カツラ属のカツラの材と同定される。カツラは、全国の温帯から暖帯にかけて分布する樹高20m、幹径60cmの落葉広葉樹で、日本産の樹木である。

#### モクレン属 *Magnolia* モクレン科 図版31a~31c.

小型の管孔が単独または放射方向に2~4個複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性で1~3細胞幅、5~28細胞高である(接線断面)。

### Ⅲ 樹種同定

以上の形質から、モクレン科のモクレン属の材と同定される。モクレン属の樹木には、ホウノキ (*M. obovata*) やコブシ (*M. kobus*) などがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する。

#### クスノキ *Cinnamomum camphora* Presl クスノキ科 生材図版32a~32c.

中型の管孔が単独ないしは2~4個放射方向に複合して散在する散孔材で、木部柔細胞は周囲状である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、2~15細胞高で、油細胞が見られる(接線断面)。

以上の形質から、クスノキ科ニッケイ属のクスノキの材と同定される。クスノキは、暖帯から亜熱帯にかけて分布する樹高25m、幹径80cmに達する常緑広葉樹である。

#### ウツギ *Deutzia crenata* Sieb. et Zucc. ユキノシタ科 図版33a~33c.

角張った小型の管孔が均一に分布する散孔材で、放射組織が広く特徴的である(横断面)。道管のせん孔は、10本程度の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、異性で1~4細胞幅で背は非常に高い(接線断面)。

以上の形質から、ユキノシタ科ウツギ属のウツギの材と同定される。ウツギは、おもに暖帯から温帯にかけて分布する落葉低木である。

#### アジサイ属 *Hydrangea* ユキノシタ科 図版34a~34c.

やや角張った小型の管孔がほぼ単独で散在する散孔材で、管孔の径は年輪に向かって減少する(横断面)。道管のせん孔は、多数の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~2細胞幅、10~14細胞高で、単列部および多列部端部は直立細胞からなる(接線断面)。

以上の形質から、ユキノシタ科のアジサイ属の材と同定される。アジサイ属の樹木には、温帯に分布するノリウツギ (*H. paniculata*) など数種あり、いずれも低木あるいは藤本である。

#### ヤマザクラ *Prunus jamasakura* Sieb. ex Koidz. バラ科 図版35a~35c.

年輪のはじめにやや小型の管孔が並び、数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管は外側に向かって減少する傾向がみられる(横断面)。道管のせん孔は単一で、その内壁にはらせん肥厚がある(放射断面)。放射組織は、同性に近い異性で1~5細胞幅、2~32細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、バラ科サクラ属のヤマザクラの材と同定される。ヤマザクラは、暖帯から亜熱帯にかけて分布する樹高25mに達する落葉広葉樹である。

#### モモ *Prunus persica* バラ科 図版36a~36c.

年輪のはじめにやや大型の管孔が1~3列ほど並び、そこから径を減じた小管孔が2~4個放射方向あるいはやや斜めに複合して散在する環孔性散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、その内壁には明瞭ならせん肥厚が認められる(接線断面または放射断面)。放射組織は異性で、1~4細胞幅、2~38細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、バラ科サクラ属のモモの材と同定される。モモは中国北部原産であるが、日本には有史以前に渡来し、鑑賞用あるいは果樹として栽培され、一部野生状態で生えている。本種が日本に自生すると



いう考えもある。

**サクラ属 *Prunus* バラ科 図版37a~37c.**

年輪のはじめにやや小型の管孔が並び、数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管は外側に向かって減少する傾向がみられる(横断面)。道管のせん孔は単一で、その内壁にはらせん肥厚がある(放射断面)。放射組織は、同性に近い異性で、1~5細胞幅、2~29細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、バラ科のサクラ属の材と同定される。サクラ属の樹木には、暖帯から亜熱帯にかけて分布する樹高25mに達するヤマザクラ (*P. jamasakura*) など数種類ある。

**イヌエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. var. *buergeri*(Maxim.)C.K. Schn.**

マメ科 図版38a~38c.

年輪のはじめに大管孔が並び、そこから径を減じた管孔が2個程度複合して散在する環孔材である(横断面)、接線断面においては層階状で、内壁にはらせんがある(放射組織)。放射組織は、異性1~7細胞幅、2~22細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、マメ科イヌエンジュ属のイヌエンジュの材と同定される。イヌエンジュは、北海道から本州中部の温帯に分布し、その変種であるハネミイヌエンジュは本州中部から九州の暖帯に分布する。イヌエンジュは、樹高15m、幹径60cmに達する落葉広葉樹である。

**フジ *Wisteria floribunda*(willd.)DC. マメ科 図版39a~39c.**

年輪のはじめに大型の管孔が1列並び、晩材部で小型の管孔が塊状に集合する。また木部柔組織は周囲状で(横断面)、木部柔組織は、接線断面において層階状を呈する。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がある(放射断面)。放射組織は、異性1~5細胞幅、3~27細胞高で、不完全な周囲状を示す。

以上の形質から、マメ科フジ属のフジの材と同定される。フジは、本州以南の暖帯から温帯にかけて分布する落葉の籐本である。

**コクサギ *Orixa japonica* Thunb. ミカン科 図版40a~40c.**

小型の管孔が集合して雲紋状を呈する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、かすかにらせん肥厚が認められる(放射断面)。放射組織は、異性1~2細胞幅、3~14細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ミカン科コクサギ属のコクサギの材と同定される。コクサギは本州以南の暖帯から温帯にかけて分布する低木の落葉広葉樹である。

**ニガキ *Picrasma quassioides* (D. Don)Benn. ニガキ科 図版41a~41c.**

年輪のはじめに大型の管孔が数列並び、そこから径を減じた小管孔が数個複合して散在する環孔材で、柔細胞は連合翼状である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、同性1~4細胞幅、3~34細胞高である。

以上の形質から、ニガキ科ニガキ属のニガキの材と同定される。ニガキは、暖帯から温帯にかけて分布する樹高15m、幹径40cmに達する落葉広葉樹である。

### III 樹種同定

#### アカメガスワ *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. トウダイグサ科 図版42a~42c.

年輪の始めにやや大きく厚壁の管孔があり、そこから順次径を減じ、夏材部では比較的厚壁の小道管が2~6個放射方向に複合して散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性で1~2細胞幅、2~17細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、トウダイグサ科アカメガスワ属のアカメガスワの材と同定される。アカメガスワは東北地方以南の暖帯の陽光地に普通にみられる樹高10m、幹径30cm程度になる落葉広葉樹である。

#### ヌルデ *Rhus javanica* Linn. ウルシ科 図版43a~43c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~2程度並び、晩材部では小型の管孔が単独または2~4個程度放射方向あるいは塊状に散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、3~29細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ウルシ科ウルシ属のヌルデの材と同定される。ヌルデは、樹高7mに達する温帯から亜熱帯にかけて分布する落葉広葉樹である。

#### ヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq. ウルシ科 図版44a~44c.

年輪のはじめに大型の環孔が並び、そこから径を減じた管孔が放射方向に数個複合して散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が認められる(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、2~21細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ウルシ科ウルシ属のヤマウルシの材と同定される。ヤマウルシは、暖帯から温帯にかけて分布する樹高8m、幹径10cm程度の落葉広葉樹である。

#### ニシキギ属 *Euonymus* ニシキギ科 図版45a~45c.

小型で丸い管孔がほぼ単独で均一に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面および接線断面)。放射組織は、異性単列、2~9細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ニシキギ科のニシキギ属の材と同定される。ニシキギ属の樹木には、樹高15mに達する落葉高木のマヌミ (*E. sieboldianus*) あるいは常緑低木のマサキ (*E. japonicus*) など18種類ほどあり、暖帯から温帯にかけて分布する。

#### ケンボナシ属 *Hovenia* クロウメモドキ科 図版46a~46c.

年輪のはじめに大型の管孔が1列程度並び、晩材部では小型の管孔が塊状あるいは放射方向に複合して散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、3~33細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、クロウメモドキ科のケンボナシ属の材と同定される。ケンボナシ属の樹木には、ケンボナシ (*H. dulcis*) やケンボナシ (*H. tomentella*) があり、いずれも樹高25m、幹径1mに達する落葉広葉樹で、ケンボナシが全国の温帯に、ケンボナシが本州西部や四国などに分布する。

#### カエデ属 *Acer* カエデ科 図版47a~47c.

中型の管孔が単独あるいは放射方向に2~5複合して散在する散孔材で、木部柔細胞は帯状または雲紋状

を呈する（横断面）。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が認められる（放射断面）。放射組織は、同性1～6細胞幅、1～48細胞高である（接線断面）。

以上の形質から、カエデ科のカエデ属の材と同定される。カエデ属の樹木は、全国の暖帯から亜寒帯まで以上の形質から、ミズキ科ミズキ属のクマノミズキあるいはヤマボウシ（*C. kousa*）のいずれかの材と同定される。クマノミズキは本州以南に暖帯や温帯に生育する樹高12m、幹径30cmの落葉広葉樹である。またヤマボウシは本州以南の温帯に生育する樹高10m、幹径30cm前後の落葉広葉樹である。

#### ツタ *Parthenocissus tricuspidata* (Sieb. et Zucc.) Planch. ブドウ科 図版54a～54c.

大型の管孔が単独あるいは2個符号して散在する散孔材である（横断面）。道管のせん孔は単一せん孔である（放射断面）。放射組織は、同性6～8細胞幅で背が高い（接線断面）。

以上の形質から、ブドウ科ツタ属のツタの材と同定される。ツタは、全国の暖帯の山地に分布するつる性の落葉広葉樹である。

#### ミズキ属 *Cornus* ミズキ科 図版55a～55c.

小型で丸い管孔が単独あるいは2個程度複合して散在する散孔材である（横断面）。道管のせん孔は多数の横棒からなる階段状である（放射断面）。放射組織は、異性1～4細胞幅、4～33細胞高で、単列部は背が高い（接線断面）。

以上の形質から、ミズキ科のミズキ属の材と同定される。ミズキ属の樹木には、ミズキ（*C. controversa*）やクマノミズキ（*C. brachypoda*）などがあり、暖帯から温帯にかけて分布する樹高15m、幹径40cmに達する落葉広葉樹である。

#### ウコギ属 *Acanthopanax* ウコギ科 図版56a～56c.

小型の管孔が接線方向からななめ接線方向につらなって配列する散孔材である（横断面）。道管のせん孔は単一である（放射断面）。放射組織は異性で、2～6細胞幅、4～42細胞高である（接線断面）。

以上の形質から、ウコギ科のウコギ属の材と同定される。ウコギ属の樹木には、落葉高木のコシアブラ（*Acanthopanax sciadophylloides*）を除く、樹高2～5mの落葉低木のヤマウコギ（*A. spinosus*）や樹高1mの落葉低木のオカウコギ（*A. nipponicus*）などがある。

#### タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemann ウコギ科 図版57a～57c.

年輪のはじめに中型の管孔が数列並び、晩材部では径を減じた管孔が放射方向に2～3個程度複合して散在する環孔材である（横断面）。道管のせん孔は単一である（放射断面）。放射組織は、異性1～3細胞幅、2～20細胞高である。

以上の形質から、ウコギ科タラノキ属のタラノキの材と同定される。タラノキは、全国の暖帯の低地に生える樹高5m程度の落葉広葉樹である。

#### ハリギリ *Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai ウコギ科 図版58a～58c.

年輪のはじめに大型の管孔が並び、以後径を減じた管孔が接線方向に帯状に配列する環孔材である（横断面）。道管のせん孔は単一である（放射断面）。放射組織は、異性1～5細胞幅、3～31細胞高である（接線

### Ⅲ 樹種 同定

断面)。

以上の形質からウコギ科ハリギリ属のハリギリの材と同定される。ハリギリは温帯から暖帯にかけて分布する樹高25m、幹径1mに達する落葉広葉樹である。

広く、その種類も20種以上と多い。

#### ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 図版48a~48c.

年輪のはじめに大型の管孔が並び、夏材部には1~2個複合した小管孔が散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一、小管孔の内壁には肥厚がある(放射断面)。木部柔組織は連合翼状に分布し、放射組織は、同性1~4細胞幅、3~35細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ムクロジ科ムクロジ属のムクロジの材と同定される。ムクロジは関東地方以西の暖帯から亜熱帯に分布する樹高15m、幹径40cm程度になる落葉広葉樹である。

#### トチノキ *Aesculus turbinata* Blume. トチノキ科 図版49a~49c.

小型の管孔が単独または2~4個程度放射方向に複合し、やや密に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は、単一である。内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、同性単列まれに1~2細胞幅で、3~14細胞高である。また、この樹種を最も特徴づけるリップルマーク(規則的な層階状配列)を示している(接線断面)。

以上の形質から、トチノキ科トチノキ属のトチノキと同定される。トチノキの樹木は、樹高30m、幹径2mに達する北海道から九州まで分布する落葉広葉樹である。

#### アワブキ *Meliosma myriantha* Sieb. et Zucc. 図版50a~50c.

中型の管孔が単独ないし2~3個放射方向に複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性1~4細胞幅で背は高い(接線断面)。

以上の形質から、アワブキ科のアワブキの材と同定される。アワブキは、本州以西の暖帯から温帯にかけて分布する樹高10m、幹径25cmに達する落葉広葉樹である。

#### サカキ *Cleyera japonica* Thunb. pro emend. Sieb. et Zucc. ツバキ科 図版51a~51c.

角張った管孔がほぼ単独に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は、37本以上の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は異性単列、1~14細胞高からなり、数細胞は大きくかつ長く伸びる方形である(接線断面)。

以上の形質から、ツバキ科サカキ属のサカキの材と同定される。サカキは、関東地方以西の暖帯に分布する樹高10m、幹径30cmの常緑広葉樹である。

#### ヒサカキ *Eurya japonica* thunb. ツバキ科 図版52a~52c.

小型の管孔が単独ないし2~4個放射方向に複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~4細胞幅、1~25細胞高である。

以上の形質から、ツバキ科ヒサカキ属のヒサカキの材と同定される。ヒサカキは、本州以南の暖帯から温帯にかけて分布する樹高10mに達する常緑広葉樹である。

クマノミズキ類 *Cornus* cf. *brachypoda* C. A. Meyer ミズキ科 図版53a~53c.

小型で丸い管孔がほぼ単独で散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は25本前後の横棒からなる階段状せん孔である(放射断面)。放射組織は、異性1~4細胞幅、10~27細胞高である。

カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 図版59a~59c.

中型の丸い管孔が単独または放射方向に2個複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性で1~2細胞幅、4~12細胞高であり、高さのほぼ等しい層階状に規則的に配列する(接線断面)。

以上の形質から、カキノキ科のカキノキ属の材と同定される。カキノキ属の樹木には、暖帯に自生するトキワガキ (*D. morrisiana*) あるいは本州から九州にかけて栽培されているカキ (*D. kaki*) などがあり、小高木から高木までである。

エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図版60a~60c.

小型の管孔が放射方向に2~5個複合し、夏材部ではやや径を減じて放射方向に2~5個複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は10本程度の太い横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、2~24細胞高である。

以上の形質から、エゴノキ科のエゴノキ属の材と同定される。エゴノキ属の樹木は、本州以南の温帯から暖帯に分布するエゴノキ (*S. japonica*) や全国の温帯に分布するハクウンボク (*S. obassia*) あるいは関東以西の温帯に分布するコハクウンボク (*S. shirasawana*) などがある。

イボタノキ属 *Ligustrum* モクセイ科 図版61a~61c.

小型の管孔が年輪の始めにやや密に並び、以後径をやや減じて数個放射方向に複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、異性で1~3細胞幅、2~30細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、モクセイ科のイボタノキ属の材と同定される。イボタノキ属の樹木には、温帯から暖帯にかけて分布する落葉広葉樹のイボタノキ (*L. obtusifolium*) や暖帯に分布する常緑広葉樹のネズミモチ (*L. japonicum*) などがある。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版62a~62c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~3個並び、以後径を減じた管孔がやや塊状に分布する環孔材である。また、木部柔細胞は周囲状もしくは連合翼状である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、同性1~3細胞幅、2~13細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、モクセイ科のトネリコ属の材と同定される。トネリコ属の樹木には、トネリコ (*F. japonica*) やシオジ (*F. spaethiana*) あるいはヤチダモ (*F. mandshurica*) などがあり、全国の温帯に分布する。

キリ *Paulownia tomentosa* (Thunb.) Steud. ゴマノハグサ科 図版63a~63c.

年輪の初めに大型で丸い管孔が単独あるいは2個放射方向に複合し、晩材部では丸い小型~中型の管孔が周囲状柔細胞に囲まれて散在する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組

### III 樹種同定

織は、異性1~3細胞幅、4~12細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、ゴマノハグサ科キリ属のキリの材と同定される。キリは、東北・関東地方北部においてよく生育する樹高10mほどの落葉広葉樹である。キリは中国中部原産などと考えられている。

#### サワフタギ *Symplocos chinensis* ハイノキ科 図版64a~64c.

小型の管孔がほぼ単独で均一に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は、68本程度の横棒からなる階段状せん孔である(放射断面)。放射組織は、異性1~4細胞幅、3~32細胞高で、単列部は背が高く、交互状である。

以上の形質から、ハイノキ科ハイノキ属のサワフタギの材と同定される。サワフタギは、全国の温帯から暖帯にかけて分布する落葉広葉樹の低木である。

#### ニワトコ *Sambucus sieboldiana* Blume ex. Graebn スイカズラ科 図版65a~65c.

小型の管孔が年輪のはじめにやや密に並び、以後接線方向に2~3個複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、4~25細胞高である。

以上の形質から、スイカズラ科ニワトコ属のニワトコの材と同定される。ニワトコは樹高5m程度の全国の温帯から暖帯にかけて分布する落葉広葉樹である。

#### ガマズミ属 *Viburnum* スイカズラ科 図版66a~66c.

やや小型で角張った管孔がほぼ単独で散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は、多数の横棒からなる階段状せん孔からなる(放射断面)。放射組織は、異性1~4細胞高、5~33細胞高からなり、端部あるいは端列部は背が高い(接線断面)。

以上の形質から、スイカズラ科のガマズミ属の材と同定される。ガマズミ属の樹木には、落葉広葉樹で樹高5m程度のガマズミ(*V. dilatatum*)や樹高2~6mのヤブデマリ(*V. plicatum*)などがあり、本州~九州の暖帯から温帯に分布する。

#### 散孔材A 図版67a~67c.

中型の管孔が単独あるいは1~3個程度放射方向に散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は単一である(放射断面)。放射組織は、異性5~9細胞幅で背は非常に高い(接線断面)。

### 3. ま と め

実測および参考試料から検出される樹木は71分類群である。このうち実測試料は、499点のうち針葉樹が14分類群、広葉樹が58分類群である(表12)。また参考試料434点では、針葉樹が9分類群、広葉樹が47分類群である(表13)。実測試料では、VI区およびVII区を合わせてHr-FA下からの出土数が最も多く252点、次いで河道87点、以下井戸52点、浅間B軽石下および浅間C軽石混土中が各28点、浅間C軽石下27点、土坑6点、6面4点、Hr-FA上1点、その他6点である。一方、参考試料では、VI区およびVII区を合わせてFA下が最も多く200点、次いで河道122点、以下浅間C軽石混土中41点、浅間C軽石下34点、浅間B軽石下27点、土坑5点、井戸3点、6面2点である。全体としてはクスギ節が多く、ヤナギ属、クリ、ヤマグワ、コナラ節、針葉樹のアスナロやスギなどが比較的多く検出されている。「元総社寺田遺跡II」において報告された木製品の樹種

調査と比較すると、クヌギ節やヤナギ属の出現率はほぼ同程度であるが、コナラ節の樹木の出現率がやや低いと言った違いが見られる（藤根・鈴木、1994）。

実測試料の製品別の樹種を見ると（表14～16）、FA下木製品では、杭や角材、板材や丸材あるいは柄類が主な木製品で、コナラ属クヌギ節が最も多く、次いでクリ、アスナロ、ケヤキ、モミ属、トチノキ、ヤマヅワなどの樹木から構成される。このうち杭材や板材としてトチノキが利用され、最も多く検出されるクヌギ節の樹木は広い用途に用いられているものの割材では全く検出されていないと言った特徴が見られる。

次いで多く出土する河道では、杭や板材、角材や丸材、柄類や曲物などが出土し、クリやモミ属あるいはヒノキ属などが比較的多く検出され、クヌギ節の樹木の検出数は少ない。曲物では、すべて針葉樹から構成されモミ属やスギあるいはヒノキ属やネズコなどが利用されている。

井戸内の木製品では、板材や桶などが出土し、針葉樹のスギやアスナロあるいはネズコやマツ属などが多く利用されている。

浅間C経石下では、角材や丸材あるいは板材などが出土しているが、クヌギ節が多く、モミ属やクリなどが検出されている。

浅間B経石下では、板材や柄類が出土し、板材などでは針葉樹のネズコやアスナロなどが利用され、柄類としてケヤキが検出される。

全体的な傾向としては、Hr-FA以下から出土する木製品では、クヌギ節の樹木を中心として多くの種類からなる樹木が、数々の製品に利用されていることが理解される。一方、浅間B経石下より新しい時代の製品類では、針葉樹のスギやモミ属あるいはアスナロ、広葉樹のクリなどが多く、比較的限られた木材利用が認められる。こうした木材利用状況は、参考試料においても概ね同様と考える。

#### 引用文献

- 藤根 久・鈴木 茂（1994）元総社寺田遺跡出土材の樹種同定と周辺植生。元総社寺田遺跡Ⅱ、135-185。（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団。

### Ⅲ 樹種同定

#### 4. 本資料使用上の留意点

- ① 木器及びサンプルとして現地で取り上げた出土材については、当事業団で樹種同定用のプレバラートを作成し、資料化することを基本としている。本遺跡の試料もそのシステムによって扱われているが、現地取り上げからプレバラート作成までの間の管理が不十分であったため、特に調査年度の古いⅥ区北半部の試料を中心に、プレバラートが作成できなかったものがある。そのため、本書に掲載した資料のなかには、樹種が同定できなかったものもある。
- ② 表1～表6は実測図を作成したものの、表7～表11は未実測の参考資料を指す。
- ③ 表1～表11の「取り上げNo.」は、現地取り上げ時に付した通番、「図版」は本書に掲載した実測図の番号である。
- ④ 「出土層位」のうち、Ⅶ区井戸・土坑は江戸時代後期以降に対応。Ⅵ区河道・B下・FA上・9号溝・第1洪水・Ⅶ区河道は、基本土層Ⅲ層中に対応し、奈良・平安時代に該当。Ⅵ区C混土・FA下・Ⅶ区FA下は基本土層Ⅵ層中に対応し、古墳時代に該当。Ⅵ区6面・C下は基本土層Ⅶ層以下に対応し、縄文～弥生時代に該当。

表11. 出土木製品の樹種 (Ⅵ・Ⅶ区参考⑤)

取上No.	図版	出土層位	製品名	樹種	取上No.	図版	出土層位	製品名	樹種
W-894		ⅥA区基下			W-4		FA下 阿	柄	ヤマブキ
W-895					W-18		C	下 瓦	木
W-896					W-19				
W-897					W-20				
W-898					W-21				
W-899					W-22				
W-900					W-23				
W-901					W-24				
W-902					W-25				
W-903					W-26				
W-904					W-27				
W-905					W-28				
W-906					W-29				
W-907					W-30				
W-908					W-31				
W-909					W-32				
W-910					W-33				
W-911					W-34				
W-912					W-35				
W-913					W-36				
W-914					W-37				
W-915					W-38				
W-916					W-39				
W-917					W-40				
W-918					W-41				
W-919					W-42				
W-920					W-43				
W-921					W-44				
W-922					W-45				
W-923					W-46				
W-924					W-47				
W-925					W-48				
W-926					W-49				
W-927					W-50				
W-928					W-51				
W-929					W-52				
W-930					W-53				
W-931					W-54				
W-932					W-55				
W-933					W-56				
W-934					W-57				
W-935					W-58				
W-936					W-59				
W-937					W-60				
W-938					W-61				
W-939					W-62				
W-940					W-63				
W-941					W-64				
W-942					W-65				
W-943					W-66				
W-944					W-67				
W-945					W-68				
W-946					W-69				
W-947					W-70				
W-948					W-71				
W-949					W-72				
W-950					W-73				
W-951					W-74				
W-952					W-75				
W-953					W-76				
W-954					W-77				
W-955					W-78				
W-956					W-79				
W-957					W-80				
W-958					W-81				
W-959					W-82				
W-960					W-83				
W-961					W-84				
W-962					W-85				
W-963					W-86				
W-964					W-87				
W-965					W-88				
W-966					W-89				
W-967					W-90				
W-968					W-91				
W-969					W-92				
W-970					W-93				
W-971					W-94				
W-972					W-95				
W-973					W-96				
W-974					W-97				
W-975					W-98				
W-976					W-99				
W-977					W-100				
W-978					W-101				
W-979					W-102				
W-980					W-103				
W-981					W-104				
W-982					W-105				
W-983					W-106				
W-984					W-107				
W-985					W-108				
W-986					W-109				
W-987					W-110				
W-988					W-111				
W-989					W-112				
W-990					W-113				
W-991					W-114				
W-992					W-115				
W-993					W-116				
W-994					W-117				
W-995					W-118				
W-996					W-119				
W-997					W-120				
W-998					W-121				
W-999					W-122				
W-1000					W-123				



表1. 出土木製品の樹種 (W区 実測①)

樹種	出材部位	製品名	樹種	出材部位	製品名	樹種
W-3	6号河原	丸	W-3	1号河原	丸	W-3
W-8	丸	材	W-8	1号河原	丸	W-8
W-10	76	丸	W-10	1号河原	丸	W-10
W-14	83	丸	W-14	1号河原	丸	W-14
W-17	91	丸	W-17	1号河原	丸	W-17
W-20	96	丸	W-20	1号河原	丸	W-20
W-25	93	丸	W-25	1号河原	丸	W-25
W-27	94	丸	W-27	1号河原	丸	W-27
W-28	95	丸	W-28	1号河原	丸	W-28
W-29	96	丸	W-29	1号河原	丸	W-29
W-32	105	丸	W-32	1号河原	丸	W-32
W-36	丸	材	W-36	1号河原	丸	W-36
W-47	丸	材	W-47	1号河原	丸	W-47
W-48	92	丸	W-48	1号河原	丸	W-48
W-50	97	丸	W-50	1号河原	丸	W-50
W-52	94	丸	W-52	1号河原	丸	W-52
W-54	101	丸	W-54	1号河原	丸	W-54
W-57	丸	材	W-57	1号河原	丸	W-57
W-62	115	丸	W-62	1号河原	丸	W-62
W-69	116	丸	W-69	1号河原	丸	W-69
W-71	113	丸	W-71	1号河原	丸	W-71
W-75	丸	材	W-75	1号河原	丸	W-75
W-80	丸	材	W-80	1号河原	丸	W-80
W-84	丸	材	W-84	1号河原	丸	W-84
W-91	114	丸	W-91	1号河原	丸	W-91
W-99	丸	材	W-99	1号河原	丸	W-99
W-112	115	丸	W-112	1号河原	丸	W-112
W-114	116	丸	W-114	1号河原	丸	W-114
W-124	110	丸	W-124	1号河原	丸	W-124
W-125	丸	材	W-125	1号河原	丸	W-125
W-127	122	丸	W-127	1号河原	丸	W-127
W-131	丸	材	W-131	1号河原	丸	W-131
W-133	丸	材	W-133	1号河原	丸	W-133
W-134	丸	材	W-134	1号河原	丸	W-134
W-136	97	丸	W-136	1号河原	丸	W-136
W-138	99	丸	W-138	1号河原	丸	W-138
W-139	99	丸	W-139	1号河原	丸	W-139
W-141	95	丸	W-141	1号河原	丸	W-141
W-144	95	丸	W-144	1号河原	丸	W-144
W-145	98	丸	W-145	1号河原	丸	W-145
W-147	96	丸	W-147	1号河原	丸	W-147
W-148	99	丸	W-148	1号河原	丸	W-148
W-151	91	丸	W-151	1号河原	丸	W-151
W-153	95	丸	W-153	1号河原	丸	W-153
W-154	100	丸	W-154	1号河原	丸	W-154

表2. 出土木製品の樹種 (W区 実測②)

樹種	出材部位	製品名	樹種	出材部位	製品名	樹種
W-285	丸	材	W-285	丸	材	W-285
W-293	丸	材	W-293	丸	材	W-293
W-303	丸	材	W-303	丸	材	W-303
W-305	181	丸	W-305	丸	材	W-305
W-307	180	丸	W-307	丸	材	W-307
W-313	丸	材	W-313	丸	材	W-313
W-315	丸	材	W-315	丸	材	W-315
W-319	丸	材	W-319	丸	材	W-319
W-320	丸	材	W-320	丸	材	W-320
W-323	237	丸	W-323	丸	材	W-323
W-324	264	丸	W-324	丸	材	W-324
W-325	229	丸	W-325	丸	材	W-325
W-329	228	丸	W-329	丸	材	W-329
W-332	181	丸	W-332	丸	材	W-332
W-335	283	丸	W-335	丸	材	W-335
W-338	251	丸	W-338	丸	材	W-338
W-343	251	丸	W-343	丸	材	W-343
W-345	185	丸	W-345	丸	材	W-345
W-349	246	丸	W-349	丸	材	W-349
W-356	丸	材	W-356	丸	材	W-356
W-360	丸	材	W-360	丸	材	W-360
W-363	丸	材	W-363	丸	材	W-363
W-364	214	丸	W-364	丸	材	W-364
W-366	227	丸	W-366	丸	材	W-366
W-373	234	丸	W-373	丸	材	W-373
W-374	253	丸	W-374	丸	材	W-374
W-375	229	丸	W-375	丸	材	W-375
W-377	290	丸	W-377	丸	材	W-377
W-380	丸	材	W-380	丸	材	W-380
W-382	142	丸	W-382	丸	材	W-382
W-387	丸	材	W-387	丸	材	W-387
W-388	丸	材	W-388	丸	材	W-388
W-390	丸	材	W-390	丸	材	W-390
W-392	133	丸	W-392	丸	材	W-392
W-394	285	丸	W-394	丸	材	W-394
W-398	213	丸	W-398	丸	材	W-398

表4. 出土木製品の群種 (W区実測④)

取込No	図説	出土層位	製品名	製品中	取込No	図説	出土層位	製品名	製品中
W-679	190	FA下台官用	丸	杖ノキ	W-791	194	C取土中	杖ノキ	杖ノキ
W-680	190		杖ノキ	杖ノキ	W-792	286	C	杖ノキ	杖ノキ
W-682	211		杖ノキ	杖ノキ	W-793	278		杖ノキ	杖ノキ
W-683	214		杖ノキ	杖ノキ	W-795	292		杖ノキ	杖ノキ
W-685			杖ノキ	杖ノキ	W-796	273		杖ノキ	杖ノキ
W-687			杖ノキ	杖ノキ	W-798	385		杖ノキ	杖ノキ
W-689			杖ノキ	杖ノキ	W-799	385		杖ノキ	杖ノキ
W-690			杖ノキ	杖ノキ	W-805	281		杖ノキ	杖ノキ
W-691			杖ノキ	杖ノキ	W-807	271		杖ノキ	杖ノキ
W-694			杖ノキ	杖ノキ	W-810			杖ノキ	杖ノキ
W-695			杖ノキ	杖ノキ	W-815	282		杖ノキ	杖ノキ
W-696			杖ノキ	杖ノキ	W-817			杖ノキ	杖ノキ
W-700			杖ノキ	杖ノキ	W-818	272		杖ノキ	杖ノキ
W-701	201		杖ノキ	杖ノキ	W-822	274		杖ノキ	杖ノキ
W-703			杖ノキ	杖ノキ	W-824			杖ノキ	杖ノキ
W-706	198		杖ノキ	杖ノキ	W-829	291		杖ノキ	杖ノキ
W-709			杖ノキ	杖ノキ	W-831	279		杖ノキ	杖ノキ
W-710	186		杖ノキ	杖ノキ	W-836	281		杖ノキ	杖ノキ
W-711	156		杖ノキ	杖ノキ	W-837	290		杖ノキ	杖ノキ
W-712	135		杖ノキ	杖ノキ	W-838			杖ノキ	杖ノキ
W-715	175		杖ノキ	杖ノキ	W-839			杖ノキ	杖ノキ
W-717	234		杖ノキ	杖ノキ	W-840	275		杖ノキ	杖ノキ
W-718	217		杖ノキ	杖ノキ	W-844			杖ノキ	杖ノキ
W-721	217		杖ノキ	杖ノキ	W-845	277		杖ノキ	杖ノキ
W-722	113		杖ノキ	杖ノキ	W-848	284		杖ノキ	杖ノキ
W-723	113		杖ノキ	杖ノキ	W-849			杖ノキ	杖ノキ
W-724	382		杖ノキ	杖ノキ	W-850			杖ノキ	杖ノキ
W-726			杖ノキ	杖ノキ	W-855			杖ノキ	杖ノキ
W-727	174		杖ノキ	杖ノキ	W-856	131		杖ノキ	杖ノキ
W-728	238		杖ノキ	杖ノキ	W-857			杖ノキ	杖ノキ
W-735	111		杖ノキ	杖ノキ	W-858	125		杖ノキ	杖ノキ
W-736	259		杖ノキ	杖ノキ	W-859	136		杖ノキ	杖ノキ
W-737	243		杖ノキ	杖ノキ	W-860	130		杖ノキ	杖ノキ
W-741	288		杖ノキ	杖ノキ	W-861	129		杖ノキ	杖ノキ
W-742	238		杖ノキ	杖ノキ	W-862	129		杖ノキ	杖ノキ
W-743	238		杖ノキ	杖ノキ	W-863	129		杖ノキ	杖ノキ
W-747	191		杖ノキ	杖ノキ	W-864	123		杖ノキ	杖ノキ
W-750	247		杖ノキ	杖ノキ	W-865	124		杖ノキ	杖ノキ
W-755	268		杖ノキ	杖ノキ	W-866	127		杖ノキ	杖ノキ
W-760	220		杖ノキ	杖ノキ	W-871	276		杖ノキ	杖ノキ
W-761	188		杖ノキ	杖ノキ	W-872	289		杖ノキ	杖ノキ
W-762	160		杖ノキ	杖ノキ	W-873			杖ノキ	杖ノキ
W-765	223		杖ノキ	杖ノキ	W-874			杖ノキ	杖ノキ
W-767	287		杖ノキ	杖ノキ	W-875			杖ノキ	杖ノキ
W-772	242		杖ノキ	杖ノキ	W-876			杖ノキ	杖ノキ
W-773	252		杖ノキ	杖ノキ	W-882			杖ノキ	杖ノキ
W-766	248		杖ノキ	杖ノキ	W-882			杖ノキ	杖ノキ
W-769			杖ノキ	杖ノキ	W-882			杖ノキ	杖ノキ

表3. 出土木製品の群種 (W区 実測③)

取込No	図説	出土層位	製品名	製品中	取込No	図説	出土層位	製品名	製品中
W-485	159	FA下台官用	丸	杖ノキ	W-507	225	FA下台官用	杖ノキ	杖ノキ
W-487			杖ノキ	杖ノキ	W-508	185		杖ノキ	杖ノキ
W-490	164		杖ノキ	杖ノキ	W-511	172		杖ノキ	杖ノキ
W-493	147		杖ノキ	杖ノキ	W-512	166		杖ノキ	杖ノキ
W-494	158		杖ノキ	杖ノキ	W-513	169		杖ノキ	杖ノキ
W-496			杖ノキ	杖ノキ	W-514	249		杖ノキ	杖ノキ
W-497			杖ノキ	杖ノキ	W-516	149		杖ノキ	杖ノキ
W-501	209		杖ノキ	杖ノキ	W-518	154		杖ノキ	杖ノキ
W-503	179		杖ノキ	杖ノキ	W-520	203		杖ノキ	杖ノキ
W-505			杖ノキ	杖ノキ	W-522	250		杖ノキ	杖ノキ
W-507	163		杖ノキ	杖ノキ	W-523	216		杖ノキ	杖ノキ
W-509			杖ノキ	杖ノキ	W-525			杖ノキ	杖ノキ
W-510			杖ノキ	杖ノキ	W-526	152		杖ノキ	杖ノキ
W-519	146		杖ノキ	杖ノキ	W-527	151		杖ノキ	杖ノキ
W-514			杖ノキ	杖ノキ	W-528			杖ノキ	杖ノキ
W-516	209		杖ノキ	杖ノキ	W-532	255		杖ノキ	杖ノキ
W-518			杖ノキ	杖ノキ	W-534	187		杖ノキ	杖ノキ
W-519			杖ノキ	杖ノキ	W-539	140		杖ノキ	杖ノキ
W-520	203		杖ノキ	杖ノキ	W-542			杖ノキ	杖ノキ
W-522	250		杖ノキ	杖ノキ	W-549			杖ノキ	杖ノキ
W-523	216		杖ノキ	杖ノキ	W-552			杖ノキ	杖ノキ
W-526	152		杖ノキ	杖ノキ	W-553			杖ノキ	杖ノキ
W-527	151		杖ノキ	杖ノキ	W-555			杖ノキ	杖ノキ
W-528			杖ノキ	杖ノキ	W-556			杖ノキ	杖ノキ
W-532	255		杖ノキ	杖ノキ	W-557			杖ノキ	杖ノキ
W-534	187		杖ノキ	杖ノキ	W-559			杖ノキ	杖ノキ
W-539	140		杖ノキ	杖ノキ	W-572			杖ノキ	杖ノキ
W-542			杖ノキ	杖ノキ	W-578	200		杖ノキ	杖ノキ
W-549			杖ノキ	杖ノキ	W-581	161		杖ノキ	杖ノキ
W-552			杖ノキ	杖ノキ	W-583	151		杖ノキ	杖ノキ
W-553			杖ノキ	杖ノキ	W-585	221		杖ノキ	杖ノキ
W-555			杖ノキ	杖ノキ	W-583			杖ノキ	杖ノキ
W-556			杖ノキ	杖ノキ	W-586	173		杖ノキ	杖ノキ
W-557			杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-559			杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-572			杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-578	200		杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-581	161		杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-583	151		杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-585	221		杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-583			杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ
W-586	173		杖ノキ	杖ノキ				杖ノキ	杖ノキ

表 5. 出土木製品の樹種 (V区東溝5)

測定番号	樹種	出土層位	製品名	製造者	樹種
W-184	杉	下段	板		
W-185	杉	上段	板		
W-186	杉	上段	板		
W-187	杉	中段	板		
W-188	杉	中段	板		
W-189	杉	中段	板		
W-201	杉	中段	板		
W-202	杉	中段	板		
W-203	杉	中段	板		
W-204	杉	中段	板		
W-205	杉	中段	板		
W-206	杉	中段	板		
W-207	杉	中段	板		
W-208	杉	中段	板		
W-210	杉	中段	板		
W-212	杉	中段	板		
W-214	杉	中段	板		
W-215	杉	中段	板		
W-218	杉	中段	板		
W-219	杉	中段	板		
W-220	杉	中段	板		

表 6. 出土木製品の樹種 (V区東溝6)

測定番号	樹種	出土層位	製品名	製造者	樹種
W-5	杉	上段	板		
W-6	杉	上段	板		
W-7	杉	上段	板		
W-8	杉	上段	板		
W-9	杉	上段	板		
W-11	杉	上段	板		
W-13	杉	上段	板		
W-17	杉	上段	板		
W-22	杉	上段	板		
W-23	杉	上段	板		
W-24	杉	上段	板		
W-25	杉	上段	板		
W-26	杉	上段	板		
W-27	杉	上段	板		
W-28	杉	上段	板		
W-29	杉	上段	板		
W-30	杉	上段	板		
W-31	杉	上段	板		
W-32	杉	上段	板		
W-33	杉	上段	板		
W-34	杉	上段	板		
W-35	杉	上段	板		
W-36	杉	上段	板		
W-37	杉	上段	板		
W-38	杉	上段	板		
W-39	杉	上段	板		
W-40	杉	上段	板		
W-41	杉	上段	板		
W-42	杉	上段	板		
W-43	杉	上段	板		
W-44	杉	上段	板		
W-45	杉	上段	板		
W-46	杉	上段	板		
W-47	杉	上段	板		
W-48	杉	上段	板		
W-49	杉	上段	板		
W-50	杉	上段	板		
W-51	杉	上段	板		
W-52	杉	上段	板		
W-53	杉	上段	板		
W-54	杉	上段	板		
W-55	杉	上段	板		
W-56	杉	上段	板		
W-57	杉	上段	板		
W-58	杉	上段	板		
W-59	杉	上段	板		
W-60	杉	上段	板		
W-61	杉	上段	板		
W-62	杉	上段	板		
W-63	杉	上段	板		
W-64	杉	上段	板		
W-65	杉	上段	板		
W-66	杉	上段	板		
W-67	杉	上段	板		
W-68	杉	上段	板		
W-69	杉	上段	板		
W-70	杉	上段	板		
W-71	杉	上段	板		
W-72	杉	上段	板		
W-73	杉	上段	板		
W-74	杉	上段	板		
W-75	杉	上段	板		
W-76	杉	上段	板		
W-77	杉	上段	板		
W-78	杉	上段	板		
W-79	杉	上段	板		
W-80	杉	上段	板		
W-81	杉	上段	板		
W-82	杉	上段	板		
W-83	杉	上段	板		
W-84	杉	上段	板		
W-85	杉	上段	板		
W-86	杉	上段	板		
W-87	杉	上段	板		
W-88	杉	上段	板		
W-89	杉	上段	板		
W-90	杉	上段	板		
W-91	杉	上段	板		
W-92	杉	上段	板		
W-93	杉	上段	板		
W-94	杉	上段	板		
W-95	杉	上段	板		
W-96	杉	上段	板		
W-97	杉	上段	板		
W-98	杉	上段	板		
W-99	杉	上段	板		
W-100	杉	上段	板		
W-101	杉	上段	板		
W-102	杉	上段	板		
W-103	杉	上段	板		
W-104	杉	上段	板		
W-105	杉	上段	板		
W-106	杉	上段	板		
W-107	杉	上段	板		
W-108	杉	上段	板		
W-109	杉	上段	板		
W-110	杉	上段	板		
W-111	杉	上段	板		
W-112	杉	上段	板		
W-113	杉	上段	板		
W-114	杉	上段	板		
W-115	杉	上段	板		
W-116	杉	上段	板		
W-117	杉	上段	板		
W-118	杉	上段	板		
W-119	杉	上段	板		
W-120	杉	上段	板		

III 樹種別 商品

表 8. 出土木製品の樹種 (W区参考②)

製品№	樹種	製品名	製品用途	製法	樹種
W-187	小	木	木	小	木
W-190	小	木	木	小	木
W-191	小	木	木	小	木
W-193	小	木	木	小	木
W-194	小	木	木	小	木
W-197	小	木	木	小	木
W-199	小	木	木	小	木
W-207	小	木	木	小	木
W-212	小	木	木	小	木
W-216	小	木	木	小	木
W-217	小	木	木	小	木
W-221	小	木	木	小	木
W-223	小	木	木	小	木
W-225	小	木	木	小	木
W-226	小	木	木	小	木
W-228	小	木	木	小	木
W-229	小	木	木	小	木
W-231	小	木	木	小	木
W-235	小	木	木	小	木
W-236	小	木	木	小	木
W-237	小	木	木	小	木
W-240	小	木	木	小	木
W-244	小	木	木	小	木
W-245	小	木	木	小	木
W-246	小	木	木	小	木
W-247	小	木	木	小	木
W-251	小	木	木	小	木
W-252	小	木	木	小	木
W-254	小	木	木	小	木
W-255	小	木	木	小	木
W-257	小	木	木	小	木
W-258	小	木	木	小	木
W-259	小	木	木	小	木
W-260	小	木	木	小	木
W-263	小	木	木	小	木
W-270	小	木	木	小	木
W-271	小	木	木	小	木
W-272	小	木	木	小	木
W-274	小	木	木	小	木
W-276	小	木	木	小	木
W-278	小	木	木	小	木
W-283	小	木	木	小	木
W-284	小	木	木	小	木
W-287	小	木	木	小	木
W-290	小	木	木	小	木

表 7. 出土木製品の樹種 (W区参考①)

製品№	樹種	製品名	製品用途	製法	樹種
W-4	小	木	木	小	木
W-5	小	木	木	小	木
W-7	小	木	木	小	木
W-9	小	木	木	小	木
W-11	小	木	木	小	木
W-12	小	木	木	小	木
W-13	小	木	木	小	木
W-15	小	木	木	小	木
W-16	小	木	木	小	木
W-18	小	木	木	小	木
W-19	小	木	木	小	木
W-21	小	木	木	小	木
W-22	小	木	木	小	木
W-26	小	木	木	小	木
W-33	小	木	木	小	木
W-34	小	木	木	小	木
W-35	小	木	木	小	木
W-38	小	木	木	小	木
W-39	小	木	木	小	木
W-40	小	木	木	小	木
W-41	小	木	木	小	木
W-42	小	木	木	小	木
W-44	小	木	木	小	木
W-45	小	木	木	小	木
W-49	小	木	木	小	木
W-51	小	木	木	小	木
W-53	小	木	木	小	木
W-55	小	木	木	小	木
W-56	小	木	木	小	木
W-58	小	木	木	小	木
W-59	小	木	木	小	木
W-60	小	木	木	小	木
W-61	小	木	木	小	木
W-63	小	木	木	小	木
W-64	小	木	木	小	木
W-66	小	木	木	小	木
W-69	小	木	木	小	木
W-70	小	木	木	小	木
W-72	小	木	木	小	木
W-73	小	木	木	小	木
W-74	小	木	木	小	木
W-76	小	木	木	小	木
W-77	小	木	木	小	木
W-78	小	木	木	小	木
W-79	小	木	木	小	木
W-82	小	木	木	小	木
W-83	小	木	木	小	木
W-85	小	木	木	小	木



III 樹種同定

表12. 実測試料の出土層位と樹種

	Ⅵ					Ⅶ					Ⅷ					合計		
	河内	6面	B下	CR1	C下	FAE	FAY	1期	1期B	他	小計	井戸	FAY	土坑	河内		他	小計
カヤ							1				2	3						3
イヌガヤ	1						1											2
マキ													4		1			5
マツ													1					1
マツ(風船型)実生					1							1						1
マツ(風船型)実生							1					1						2
アカマツ	1											1	4					5
モミ	8		2	3			11				24	1						25
トウヒ	1										1							1
スギ	3		3	2			3				11	18	1	2				32
サツラ					1		1				3	2		2				7
ヒノキ	6						1				7					2		9
アスナロ	4		7	1			14			1	27	6						33
ホズコ	2		6	1			1				10	6				1		17
ヤナギ	5			2			8				15							15
オニグルミ																		
アサダ							4				4							4
イヌシデ	1										1							1
アヲシデ							1				1							1
オバノキ	1				1		7				9						1	10
ハンノキ						1	2				3							3
アカダシ			1			1	4				6							6
ブナ	1			1			1				3	1						4
コナラ	3	1		1	3		9				17							17
クヌギ	5	1	1	8	18		66		1		100	1	10				111	
タリ	11		1	3	1		17				33					2		35
ニレ							1				1							1
ケヤキ	4		3		1	1	13	1			23							23
エノキ	6						7				13							13
ヤマダワ	3				1		10				14							14
コウゾ							1				1							1
カクラ				1			2				3							3
モクレン												1						1
クスノキ																		
ウツギ																		
アジサイ																		
ヤマザクラ	1										1							1
モミ	3						3				6	1						7
サクラ							3				3			1				4
イヌエンジュ												1						1
フジ																		
コクサギ							2				2							2
ニガキ	1	2									3							3
アカメダシ																		
ヌルデ				1			3				4							4
ヤマウルシ							1				1							1
ニシキギ																		
ケンボクシ							3				3							3
カエデ	2			1			7				10							10
ムクロジ				1			5				6							6
トナリノキ	1		2				11			3	17			2				19
アワブキ	3						3				6							6
サカキ							1				1							1
ヒサカキ																		
クマノミズキ	1						1				2							2
ツタ																		
ミズキ	3						1				4							4
ウロギ												1						1
タラノネ																		
ハリギリ												1						1
カキノキ	3						1				4							4
エゴノキ							3				3							3
イボタノキ																		
トネリコ							2				2							2
キリ												1						1
サツタ							1				1							1
ニワトコ							3				3							3
ガマズミ																1	1	1
散孔材																		
針葉樹				1							1							1
広葉樹																		
樹皮	1										1							1
合計	85	4	28	28	27	1	241	1	1	6	422	32	11	6	2	6	77	499

## III 樹種同定

表13. 参考試料の出土層位と樹種

	河	VI 区						VII 区						合計
		6	B	C	C	F	小	C	F	F	井	土	小	
	遊	説	下	上	下	F	F	小	F	F	井	土	小	
カヤ	1			2			2	5						5
イヌガヤ	1							1						1
マキ														
マツ														
マツ			2	1				3						3
マツ														
アカマツ			1				1				1		1	2
モミ				2			4	6						6
トウヒ												3	3	3
スギ											1	1	2	4
サワラ	1						1	2						
ヒノキ														
アスナロ	1		2	2			2	5						5
ネズコ			1	1			2	5				1	1	6
セナギ	10		9	6			33	58		1			1	59
オニグルミ							1	1						1
アサキダ	2						2	4						4
イヌシデ	2						1	3						3
タマシデ							1	1						1
カバノキ							4	8						8
ハシノキ	3			1			2	3						3
アカガシ				1			2	3						3
ブナ	1						2	3						3
コナラ	7	1		3	3		8	22						22
クヌギ	6	1	3	5	13	43	71		4				4	75
クナ	17			1	3	11	32							32
ニレ	1						1							1
ケヤキ	1						5	6						6
ヒノキ	6		1	2			2	11						11
ヤマブキ	6		4	3	8	8	29			1			1	30
コウゾ														
カワラ	1			3			4							4
モクレン							2	2						2
クスノキ							1	1						1
クワ							1	1						1
アジサイ							1	1						1
ヤマザクラ	2		1		1		4							4
モモ	10			1			13	24						24
サクラ				1	1		2	4			1		1	5
イヌエンジュ	1						1							1
フジ	3						1	4						4
コサギ	3			1			1	5						5
ニギハキ														
アカメガシワ	1						1	2						2
ヌルデ	3			2			6	11						11
ヤマウルシ				1			1							1
ニシキギ							1	1						1
ケンボナシ	1						3	4						4
カニゴシ	5						9	14						14
ムトク	2			1		1	1							4
トナリ							1	1						1
アワブキ	1						1	1						1
サカキ														
ヒサカキ	1		2	1				4						4
クマノミズキ	1							1						1
ツタ							3	3						3
ミズキ	1							1						1
ウコギ	2						2	4						4
ダラノキ							3	3						3
ハリギリ														
カキノキ														
エゴノキ	2						3	5						5
イボタノキ	1							1						1
トネリコ	1						5	6						6
キリ														
サワラ														
ニワトコ	3		1					4						4
ガマズミ														
散孔材	8						5	13						13
針葉樹														
広葉樹	1						2	3						3
樹皮	1							1						1
合計	122	2	27	41	30	198	420	4	2	3	5	14	434	







III 樹種同定

表16. 実測試料 (VII区) の木製品と樹種

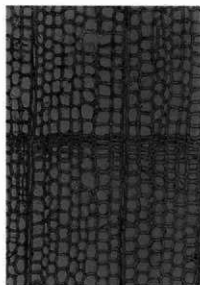
(注) 加工:加工材, 内材:内材も含む

	非 戸					PA下包含層					土 瓦			河産 他	他		
	板	角材	板材	柱	他	計	角材	板材	材	敷	計	板材	柱			他	計
カヤ																	
イヌガヤ																	
マキ			3	1		4						1		1			
マツ			1	1		1											
マツ(黒松)				1		1											
マツ(黒松)				1		1											
アカマツ	1		2	1		4											
モミ			1	1		1											
トウヒ																	
スラ		1	3	14		18		1			1	2			2		
ワラ				2		2					2				2		
ヒノキ																2	
アスナロ			6			6											
スズコ			2	4		6										1	
ナナギ																	
オニグルミ																	
アサダ																	
イヌシダ																	
クマシダ																	
カバノキ					1	1											
ハンノキ																	
アカガシ																	
ブナ				1	1												
コナラ																	
クヌギ	1					1	4	3	2	1	10					2	
ク																	
ニレ																	
クヤ																	
エノキ																	
ヤマダ																	
コウゾ																	
カワ																	
モクレン					1	1											
クスノキ																	
ウツギ																	
アジサイ																	
ヤマザクラ																	
モ				1		1											
サクラ													1	1			
イヌエンジュ				1	1												
フ																	
コト																	
ニギ																	
アカメガシ																	
メ																	
ヤマウルシ																	
ニシキギ																	
ケンボナシ																	
カエデ																	
ムクロ																	
トチノキ																2	
アワブキ																	
サ																	
ヒヤ																	
クマノミズキ																	
ツ																	
ミズ																	
ウコギ					1	1											
イラ																	
ハリ				1	1												
カキノキ																	
エゴノキ																	
イボタノキ																	
トネリコ																	
キ					1	1											
サワ																	
ニワ																	
ガ																1	
孔																	
針																	
広																	
楳																	
合 計	2	1	17	35	7	62	4	4	2	1	11	4	1	1	6	2	6





図版1. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



1 a, カヤ(横断面)実例3-663 bar: 0.2mm



1 b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



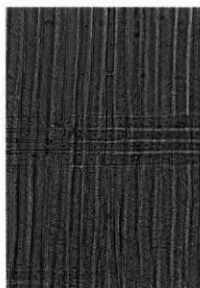
1 c, 同(放射断面) bar: 0.1mm



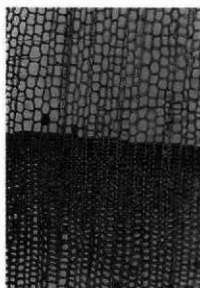
2 a, イヌガヤ(横断面)実例3-675 bar: 0.2mm



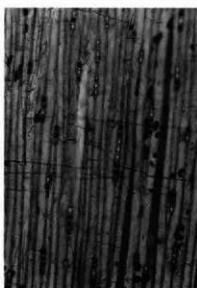
2 b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



2 c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



3 a, マキ(横断面)実例6-279 bar: 0.5mm



3 b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



3 c, 同(放射断面) bar: 0.1mm



4 a, マツ属単維管束亜属(横断面)  
実測4-762 bar: 0.2mm



4 b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



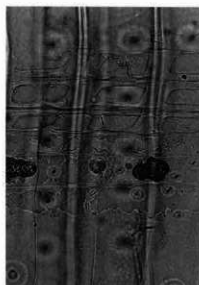
4 c, 同(放射断面) bar: 0.05mm



5 a, アカマツ(横断面)実測4-876② bar: 0.2mm



5 b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



5 c, 同(放射断面) bar: 0.05mm



6 a, ミミ属(横断面)実測4-760 bar: 0.2mm

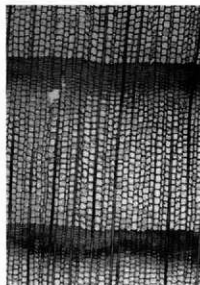


6 b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



6 c, 同(放射断面) bar: 0.2mm

図版3. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



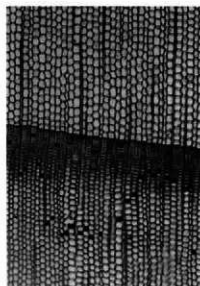
7 a, トウヒ属(横断面)実測1-134 bar : 0.5mm



7 b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



7 c, 同(放射断面) bar : 0.05mm



8 a, スギ(横断面)実測4-735 bar : 0.5mm



8 b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



8 c, 同(放射断面) bar : 0.1mm



9 a, サワラ(横断面)実測3-642 bar : 0.2mm

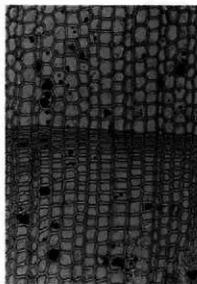


9 b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



9 c, 同(放射断面) bar : 0.05mm

図版4. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



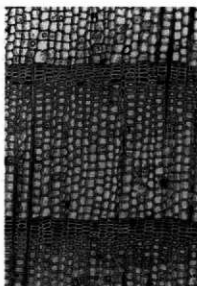
10a, ヒノキ(横断面)実測1-62 bar: 0.5mm



10b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



10c, 同(放射断面) bar: 0.05mm



11a, アスナロ(横断面)実測3-523 bar: 0.2mm



11b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



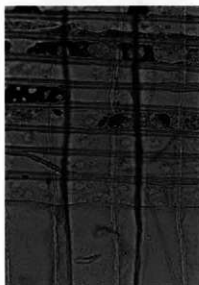
11c, 同(放射断面) bar: 0.05mm



12a, ネスコ(横断面)実測3-533 bar: 0.2mm



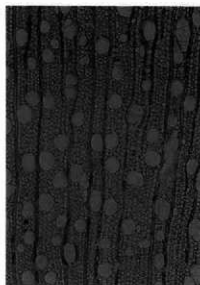
12b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



12c, 同(放射断面) bar: 0.05mm



図版5. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



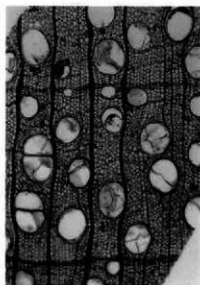
13a, ヤナギ属(横断面)参考1-61 bar : 0.5mm



13b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



13c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



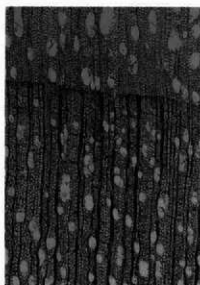
14a, オニヅミ(横断面)参考2-292 bar : 0.5mm



14b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



14c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



15a, アサダ(横断面)参考1-83 bar : 0.5mm

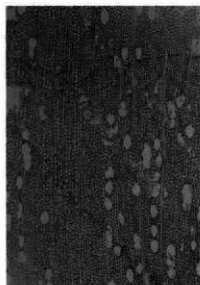


15b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



15c, 同(放射断面) bar : 0.2mm

図版 6. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



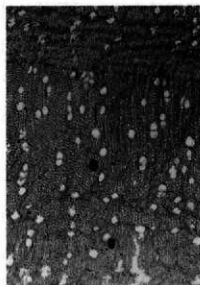
16a, イソスファ節(横断面)参考1-103 bar: 0.5mm



16b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



16c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



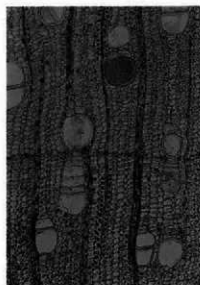
17a, タマシダ節(横断面)実測3-434 bar: 0.5mm



17b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



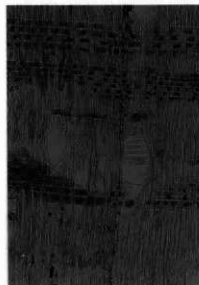
17c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



18a, カバノキ川(横断面)実測3-501 bar: 0.2mm

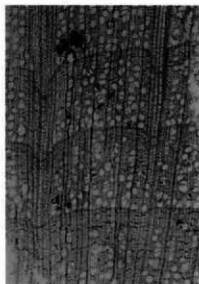


18b, 同(接線断面) bar: 0.2mm

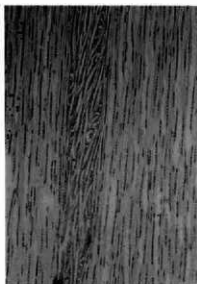


18c, 同(放射断面) bar: 0.2mm

図版7. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



19a, ハネヒキ節(横断面) 実測4-807 bar: 0.5mm



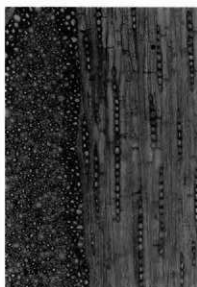
19b, 同(接線断面) bar: 0.5mm



19c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



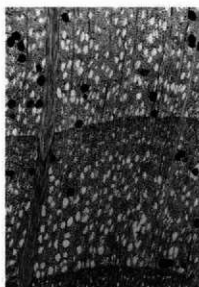
20a, アカガシ亜属(横断面)実測4-799 bar: 0.5mm



20b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



20c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



21a, ブナ属(横断面)実測1-185 bar: 0.5mm



21b, 同(接線断面) bar: 0.5mm



21c, 同(放射断面) bar: 0.2mm

図版 8. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



22a, コナラ節(横断面)実測4-773 bar: 0.5mm



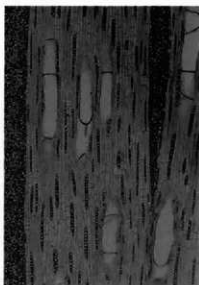
22b, 同(接線断面) bar: 0.5mm



22c, 同(放射断面) bar: 0.5mm



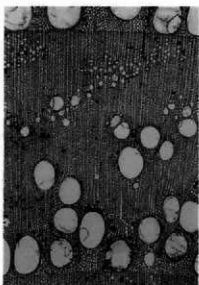
23a, クサギ節(横断面)実測3-638 bar: 0.5mm



23b, 同(接線断面) bar: 0.5mm



23c, 同(放射断面) bar: 0.5mm



24a, クリ(横断面)実測4-690 bar: 0.5mm

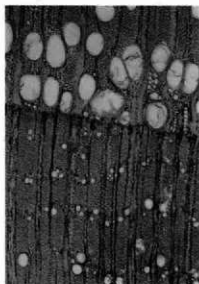


24b, 同(接線断面) bar: 0.2mm

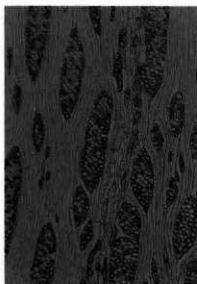


24c, 同(放射断面) bar: 0.5mm

図版9. 出土木製品樹種の顕微鏡写真



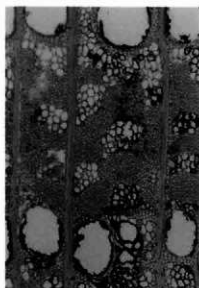
25a, ニレ属(横断面)参考1-142 bar : 0.5mm



25b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



25c, 同(放射断面) bar : 0.1mm



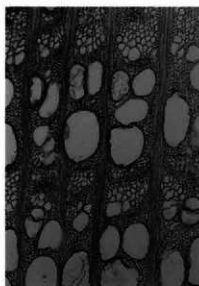
26a, ケヤキ(横断面)実測5-207 bar : 0.5mm



26b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



26c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



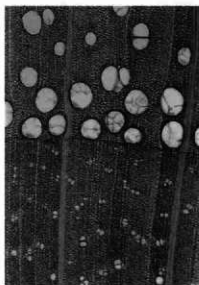
27a, エノキ属(横断面)実測3-630 bar : 0.5mm



27b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



27c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



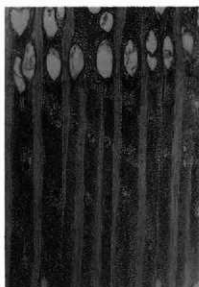
28a, ヤマダク(横断面)実測4-845 bar: 0.5mm



28b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



28c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



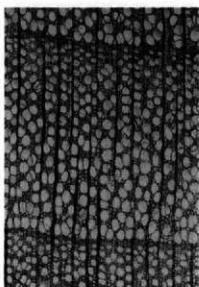
29a, コウゾ(横断面)実測3-565 bar: 0.5mm



29b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



29c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



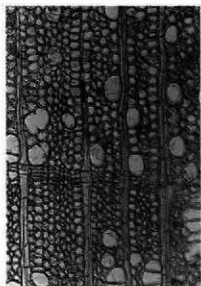
30a, カツミ(横断面)実測3-661 bar: 0.5mm



30b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



30c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



31a. モクレン属(横断面)実例 6-36② bar : 0.2mm



31b. 同(接線断面) bar : 0.2mm



31c. 同(放射断面) bar : 0.2mm



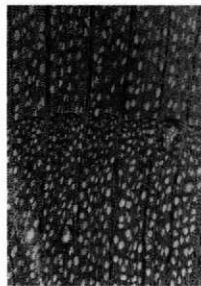
32a. クスノキ(横断面)参考2-252 bar : 0.2mm



32b. 同(接線断面) bar : 0.2mm



32c. 同(放射断面) bar : 0.2mm



33a. ウツギ(横断面)参考2-407 bar : 0.5mm



33b. 同(接線断面) bar : 0.2mm



33c. 同(放射断面) bar : 0.1mm



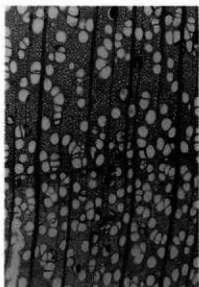
34a. アジサイ属(横断面)参考3-517 bar: 0.5mm



34b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



34c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



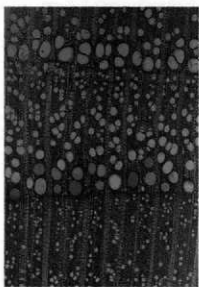
35a. ヤマザクラ(横断面)参考1-40 bar: 0.5mm



35b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



35c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



36a. モモ(横断面)参考1-168 bar: 0.5mm

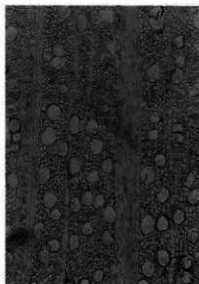


36b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



36c. 同(放射断面) bar: 0.2mm





37a. サクラ属(横断面)参考4-800 bar: 0.2mm



37b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



37c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



38a. イヌエンジュ(横断面)実叢6-34① bar: 0.2mm



38b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



38c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



39a. フジ(横断面)参考1-78 bar: 0.5mm



39b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



39c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



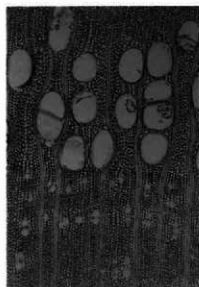
40a, コクサギ(横断面)参考1-76 bar: 0.5mm



40b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



40c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



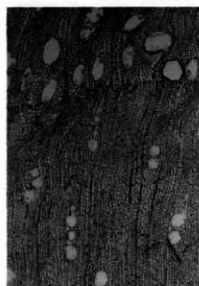
41a, ニガキ(横断面)実測4-871② bar: 0.5mm



41b, 同(接線断面) bar: 0.5mm



41c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



42a, アカメダシワ(横断面)参考2-431 bar: 0.5mm



42b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



42c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



43a, スルズ(横断面)実測4-747 bar: 0.5mm



43b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



43c, 同(放射断面) bar: 0.1mm



44a, ヤマウルシ(横断面)実測4-696 bar: 0.5mm



44b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



44c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



45a, ニシキギ属(横断面)参考2-405 bar: 0.2mm



45b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



45c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



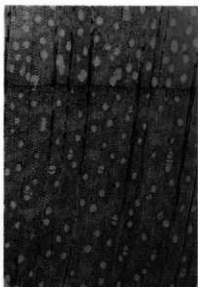
46a, ケンボナシ属(横断面)実図2-325 bar: 0.5mm



46b, 同(接線断面) bar: 0.5mm



46c, 同(放射断面) bar: 0.5mm



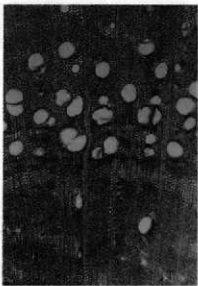
47a, カエデ属(横断面)参考1-16 bar: 0.5mm



47b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



47c, 同(放射断面) bar: 0.1mm



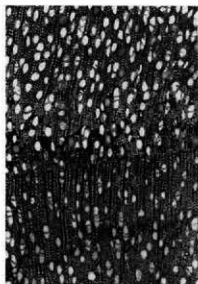
48a, ムクロジ(横断面)参考1-55D bar: 0.5mm



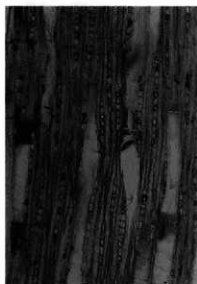
48b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



48c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



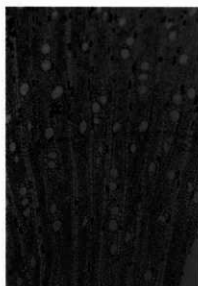
49a. トチノキ(横断面)実測2-338 bar: 0.5mm



49b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



49c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



50a. アワブキ(横断面)実測1-147 bar: 0.5mm



50b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



50c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



51a. サカキ(横断面)実測2-432 bar: 0.5mm



51b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



51c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



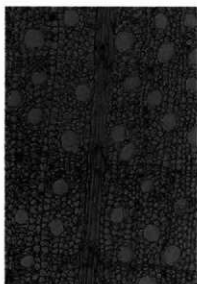
52a, ヒサカキ(横断面)参考1-9 bar: 0.2mm



52b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



52c, 同(放射断面) bar: 0.1mm



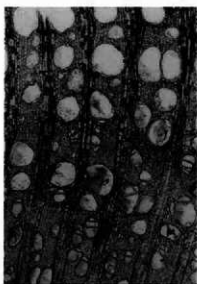
53a, タマノミズキ類(横断面)参考1-15 bar: 0.2mm



53b, 同(接線断面) bar: 0.2mm



53c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



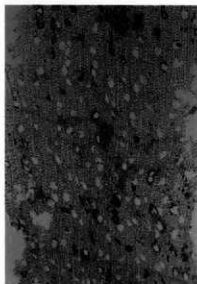
54a, ツタ(横断面)参考3-462 bar: 0.5mm



54b, 同(接線断面) bar: 0.5mm



54c, 同(放射断面) bar: 0.2mm



55a, ミズキ属(横断面)実測1-100 bar : 0.5mm



55b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



55c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



56a, ウコギ属(横断面)実測6-30(?) bar : 0.5mm



56b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



56c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



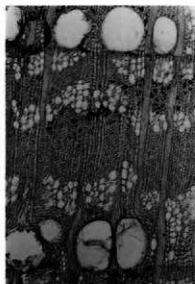
57a, タラノキ(横断面) 参考3-480



57b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



57c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



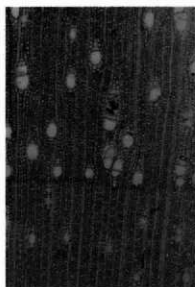
58a, ハリギリ(横断面)実例6-31⑤ bar : 0.5mm



58b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



58c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



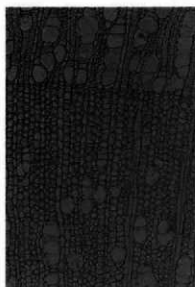
59a, カキノキ属(横断面)実例1-154 bar : 0.5mm



59b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



59c, 同(放射断面) bar : 0.2mm



60a, エゴノキ属(横断面)参考1-53 bar : 0.2mm

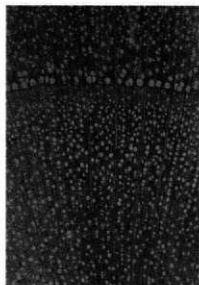


60b, 同(接線断面) bar : 0.2mm



60c, 同(放射断面) bar : 0.2mm





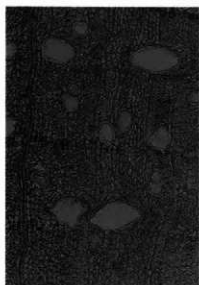
61a. イボタンノキ属(横断面)参考1-101 bar: 0.5mm



61b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



61c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



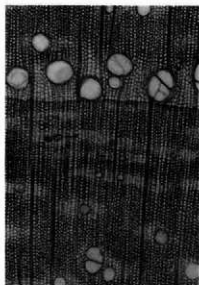
62a. トネリコ属(横断面)参考2-271 bar: 0.2mm



62b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



62c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



63a. キリ(横断面)実測6-31D bar: 0.5mm



63b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



63c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



64a. サワフタギ(横断面)実測2-369 bar: 0.5mm



64b. 同(接線断面) bar: 0.5mm



64c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



65a. ニワトコ(横断面)参考1-92 bar: 0.5mm



65b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



65c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



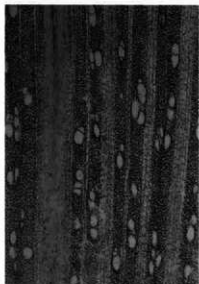
66a. ガマズミ(横断面)実測6-26 bar: 0.2mm



66b. 同(接線断面) bar: 0.2mm



66c. 同(放射断面) bar: 0.2mm



67a. 散孔材A (横断面) 参考1-158 bar : 0.5mm



67b. 同 (接線断面) bar : 0.5mm

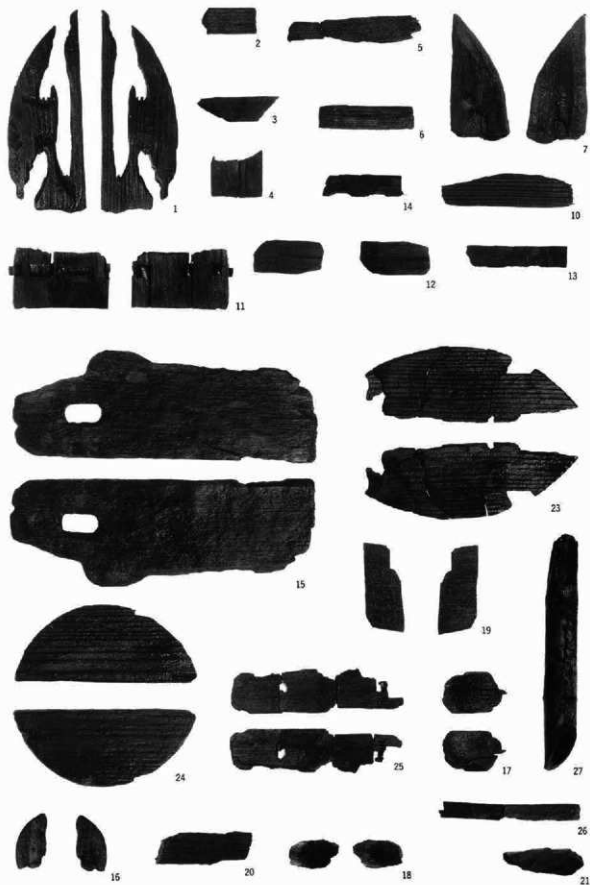


67c. 同 (放射断面) bar : 0.2mm

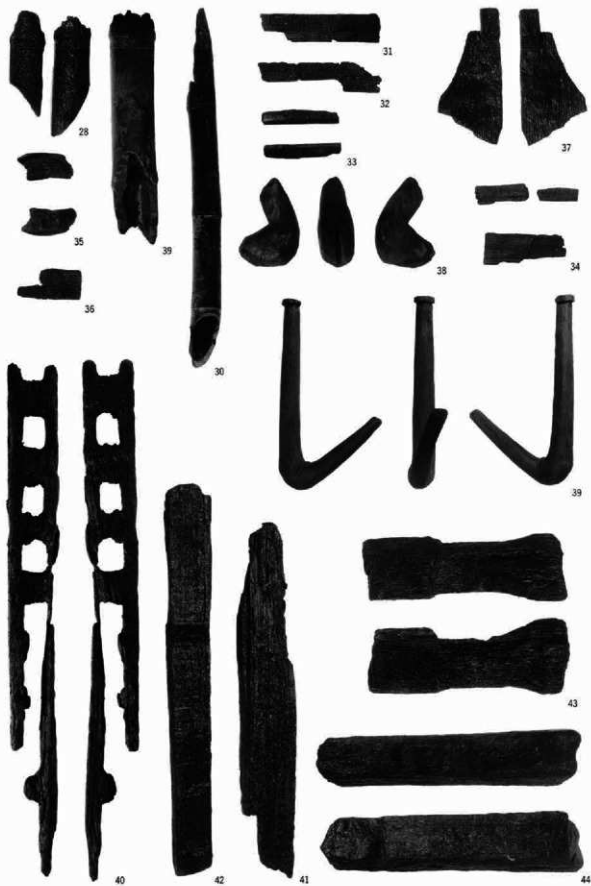


写 真 图 版



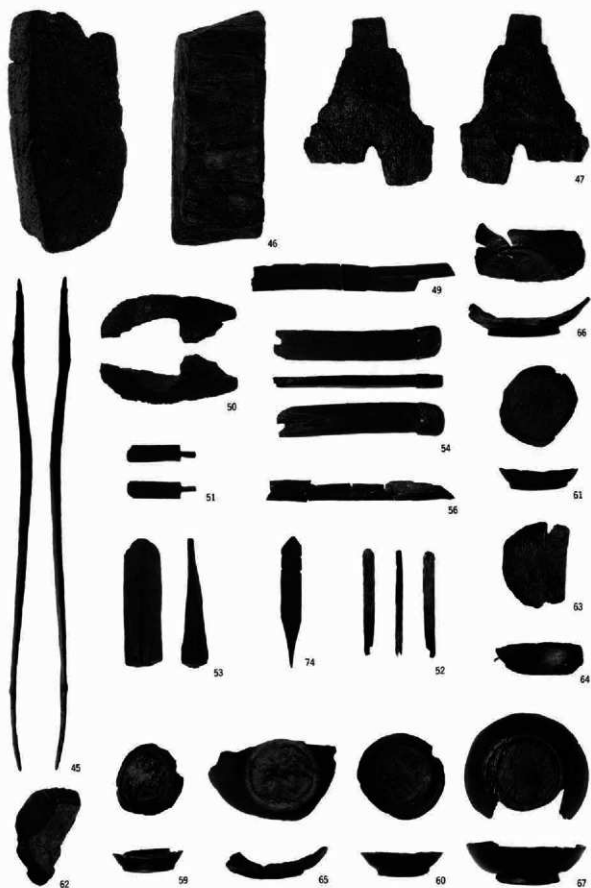


奈良・平安時代の木器 (Ⅵ区田層出土)

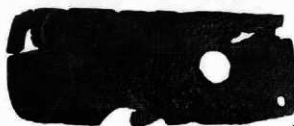


奈良・平安時代の木器（Ⅷ区Ⅲ層出土）37は古墳時代





奈良・平安時代の木器（Ⅵ区Ⅲ層出土）



55



57



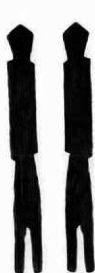
58



73



75



58



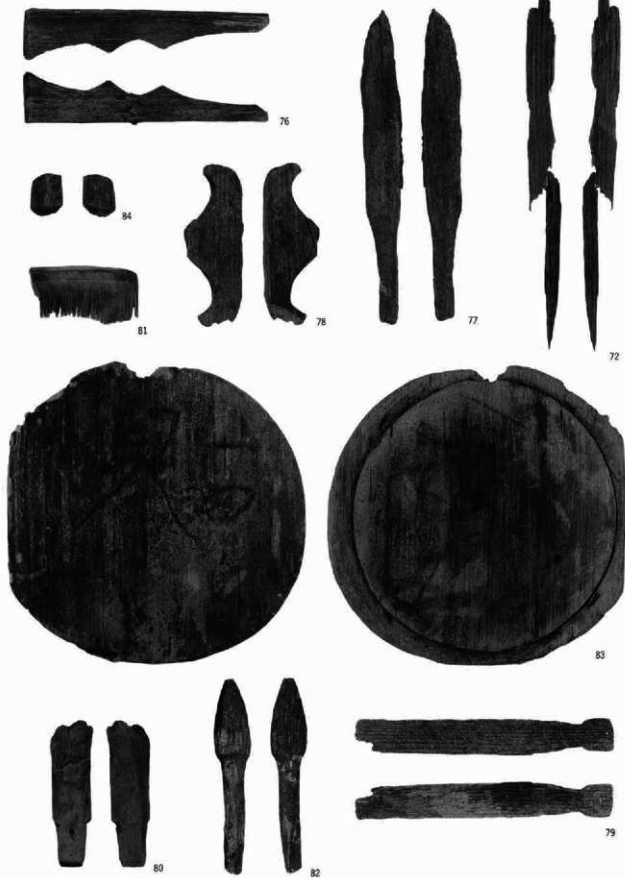
59



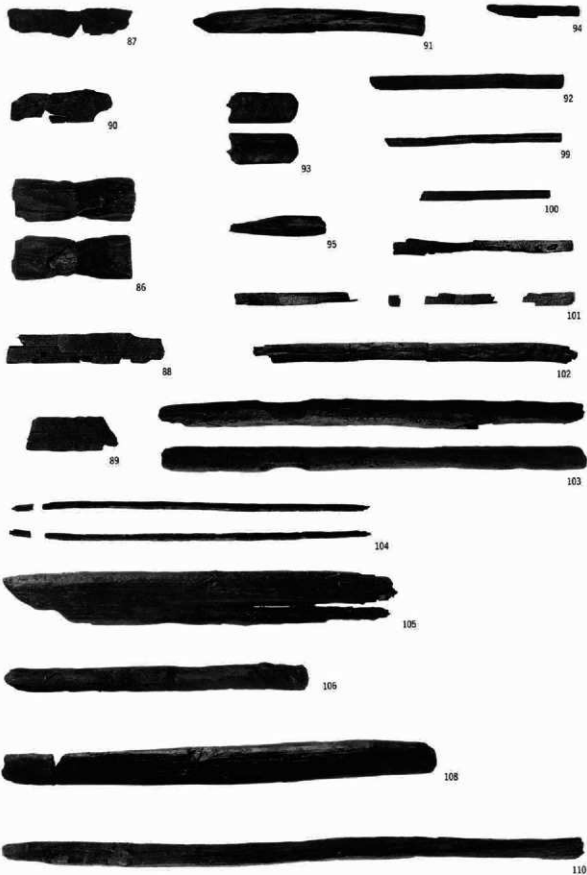
70



71



奈良・平安時代の木器（VI区III層出土）82は古墳時代

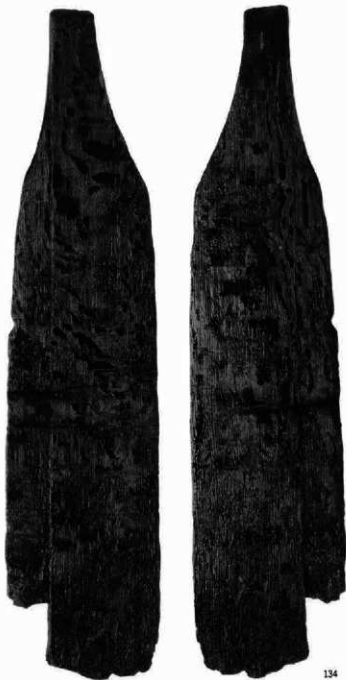




奈良・平安時代の木器（Ⅷ区田層出土）



132



134



133



136



135



137



138



139



140



141



143



144





古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



154



156



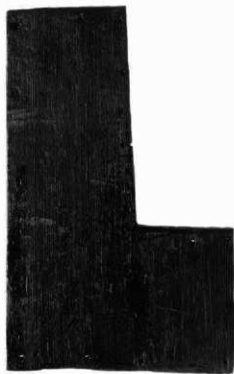
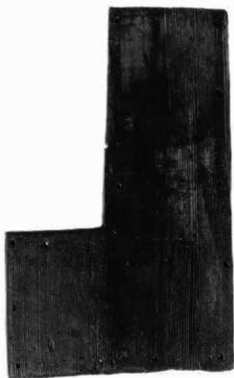
158



157



159



161



160



162



163



165



164



166

古墳時代の木器（Ⅵ区Ⅵ層出土）



167



169



170



171



168



172



173



174



175



176



178



177



180



179



181



182



183



185



186



184



189



190



187



188



191



193



194



192



198





195



197



199



200



201



203



207

古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



232



233



234



235



236



237



242



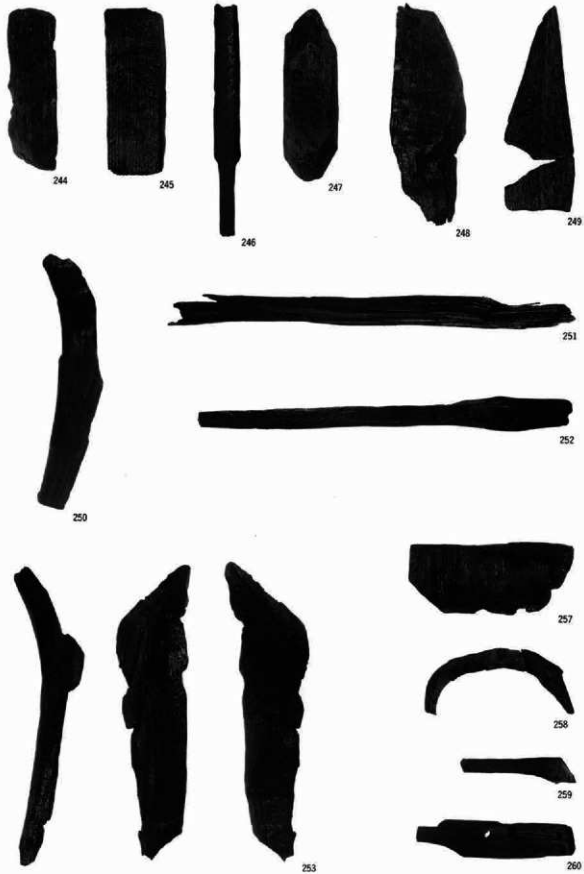
238



240



243



古墳時代の木器 (VI区VI層出土)



254



256



255



263



261



264



265



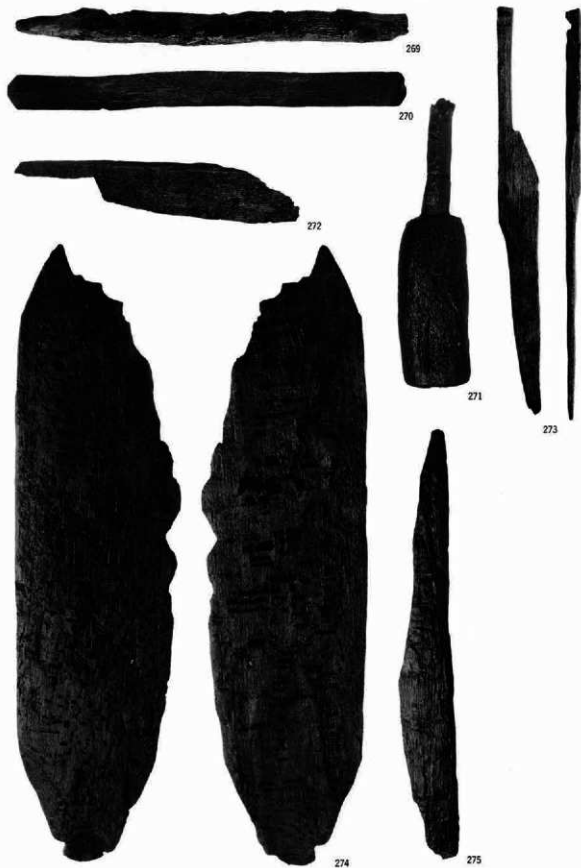
266



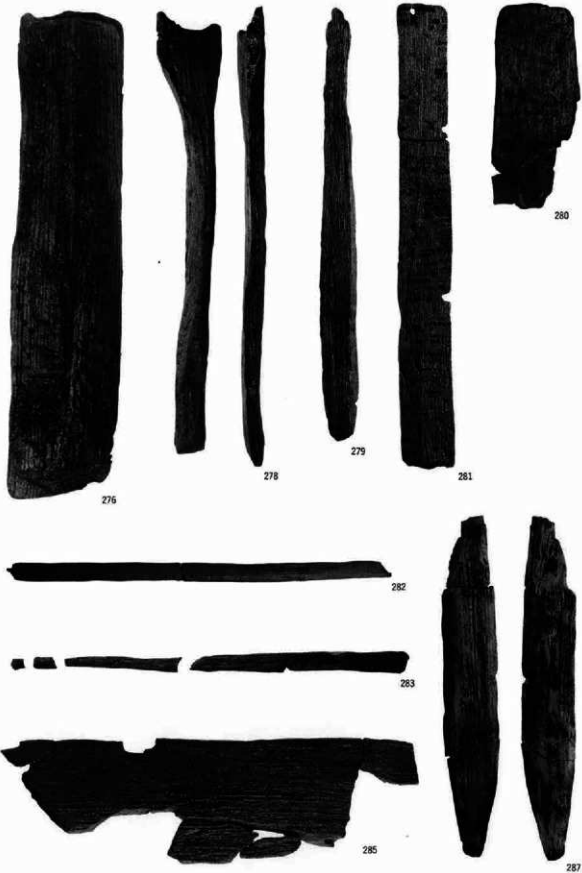
267



268



古墳時代の木器 (VI区VI層出土)

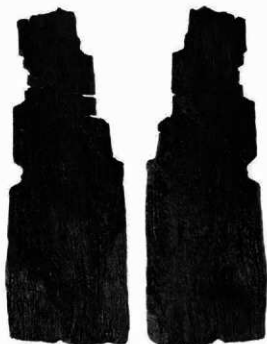


古墳時代の木器 (VI区VI層出土)





284



286



288



291



289



290



292

古墳時代の木器（VI区VI層出土）



293



294



297



295



295



298



299



300



301



302



303



304



305



306



307



308



309



310



312



313



311



316



315



314



317



318



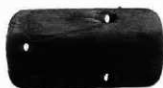
319



320



321



322



323



324



325



326



327



328



329



330



331



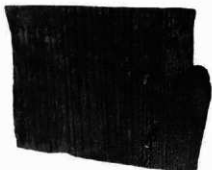
332



334



333



335



336



340



337



343



342



341



338



339



344



345



346



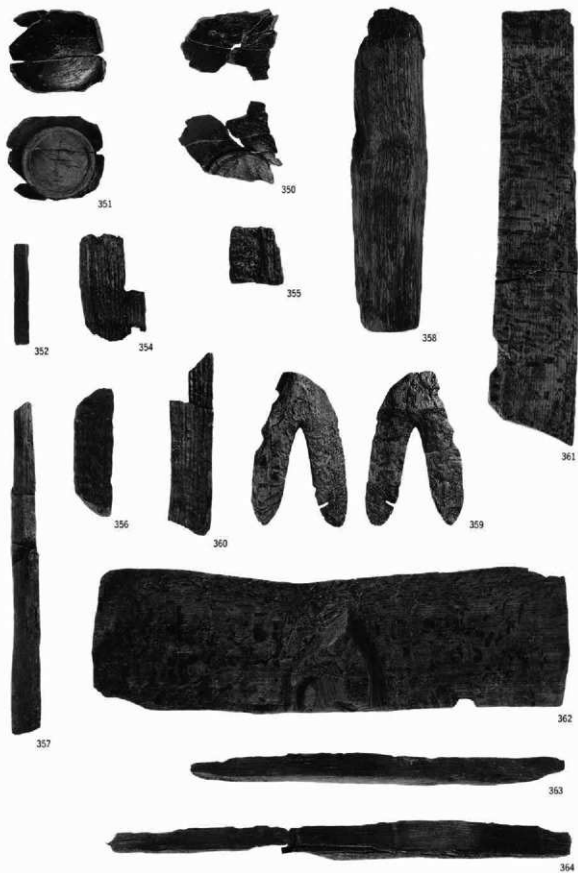
347



349



350



古墳時代の木器（Ⅶ区低地Ⅵ～Ⅶ層出土）351・352は江戸時代後期以降





# 元総社寺田遺跡Ⅲ

## 《木器編》

一級河川牛池川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

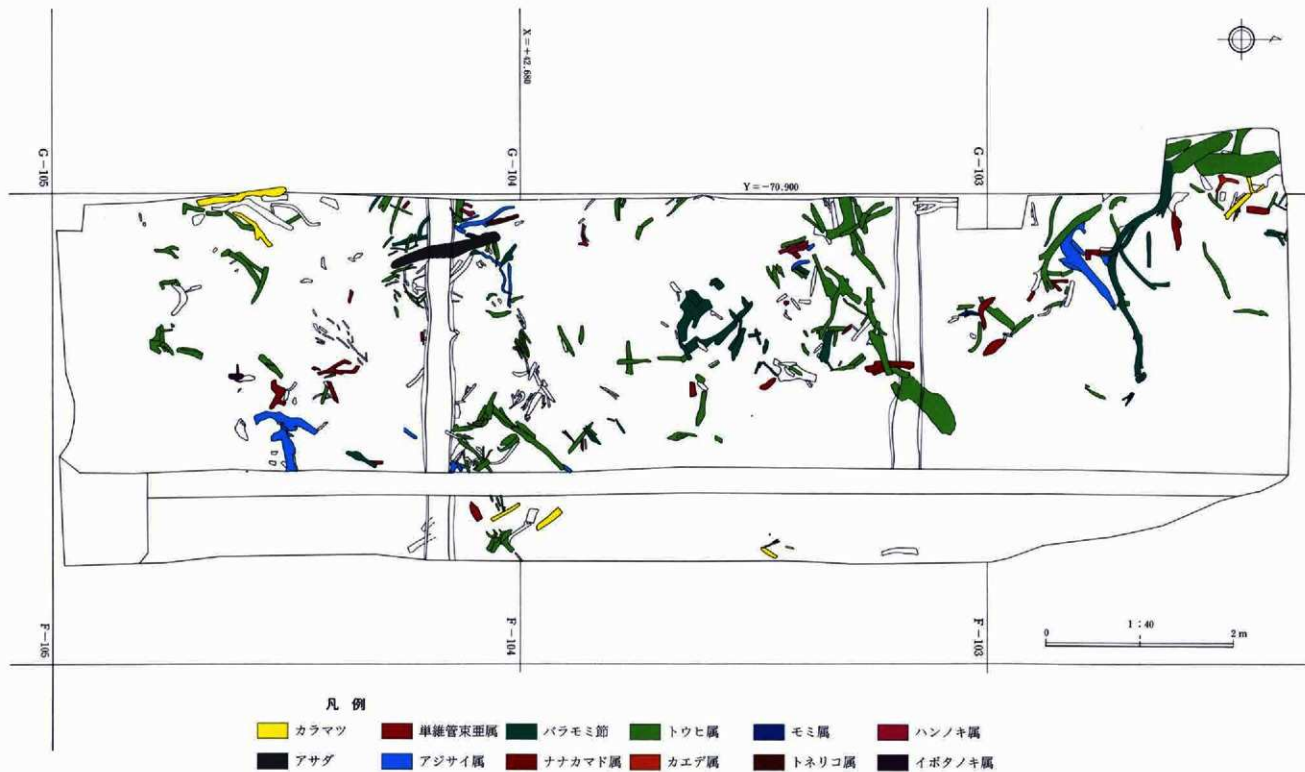
平成8年3月20日 印刷

平成8年3月25日 発行

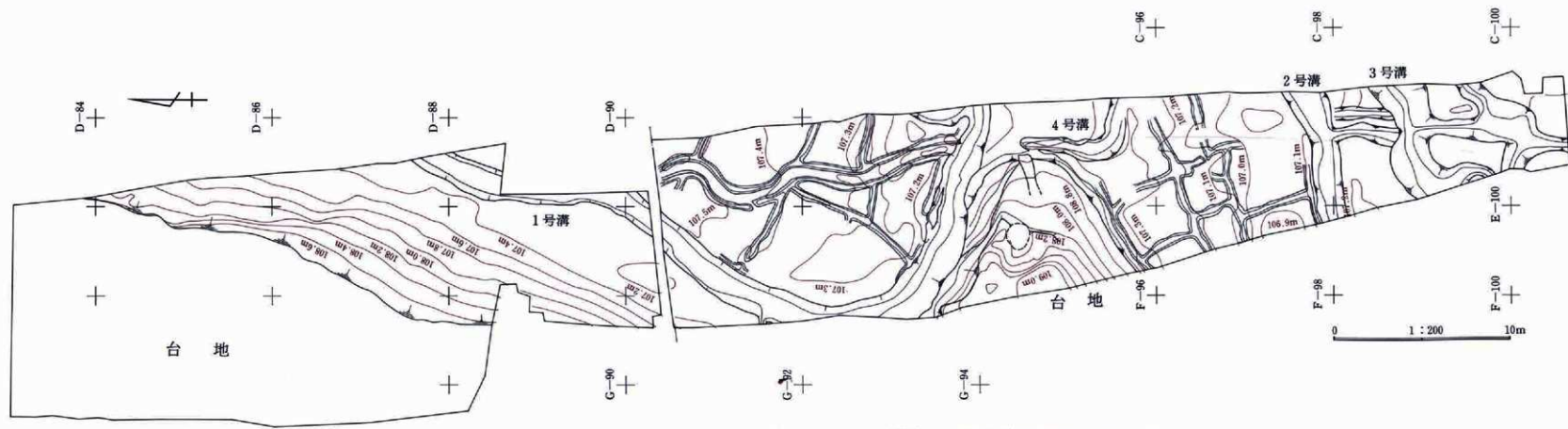
編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

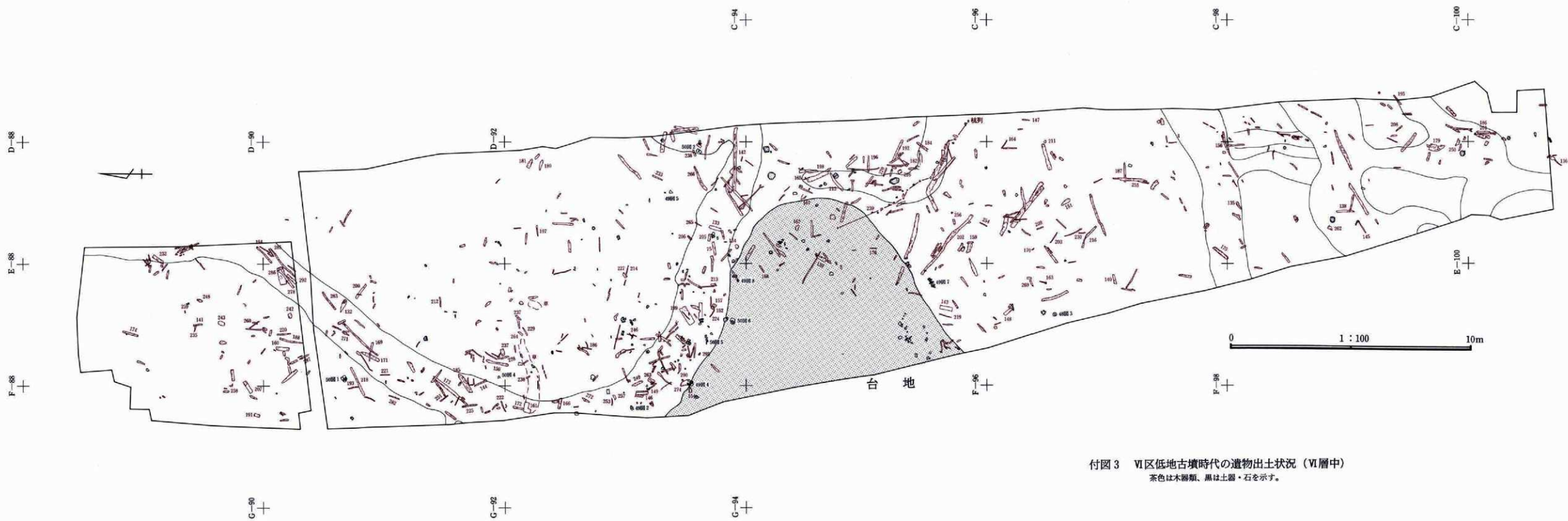
印刷／朝日印刷工業株式会社



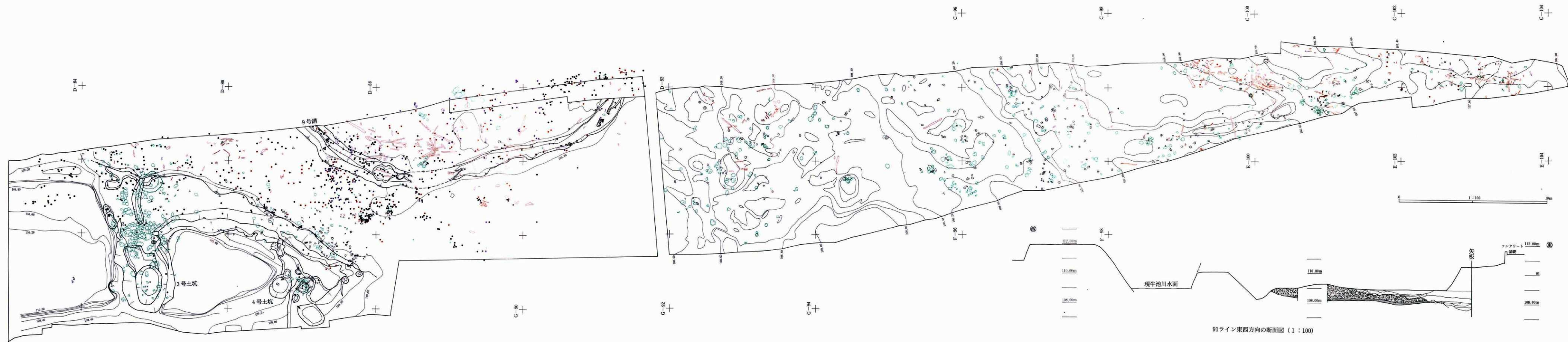
付図1 元総社寺田遺跡VI B区 As-YP層下で確認した埋没林の産状



付図2 元総社寺田遺跡Ⅵ区As—C層下水田



付図3 VI区低地古墳時代の遺物出土状況（VI層中）  
 茶色は木器類、黒は土器・石を示す。



付図4 元総社寺田遺跡VI区低地 奈良～平安時代の遺物出土状況 (Ⅲ層中)